

令和４年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート

東千葉	．．．	P1
中央	．．．	P5
千葉寺	．．．	P9
松ヶ丘	．．．	P13
浜野	．．．	P17
こてはし台	．．．	P21
花見川	．．．	P25
さつきが丘	．．．	P29
にれの木台	．．．	P33
花園	．．．	P37
幕張	．．．	P41
山王	．．．	P45
園生	．．．	P49
天台	．．．	P53
小仲台	．．．	P57
稲毛	．．．	P61
みつわ台	．．．	P65
都賀	．．．	P69
桜木	．．．	P73
千城台	．．．	P77
大宮台	．．．	P81
鎌取	．．．	P85
誉田	．．．	P89
土気	．．．	P93
真砂	．．．	P97
磯辺	．．．	P101
高洲	．．．	P105
幸町	．．．	P109

自己評価（５段階選択式）の基準は、以下のとおりです。

- A 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を大幅に上回っている。
- B 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を上回っている。
- C 運営方針、目標や計画等で期待されている水準とほぼ同程度である。
- D 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を下回っている。
- E 運営方針、目標や計画等で期待されている水準を著しく下回っている。

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター東千葉(R5年度よりあんしんケアセンター弁天に名称変更)			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		圏域は住宅密集地に位置し、「戸建てが多い地域」と「戸建てと集合住宅が混在する地域」に分かれる。特に集合住宅に住む高齢者の中には、地域社会との接点を持たず孤立化している方も多い。一人暮らしで身寄りが無く入院先で逝去しており、数か月後に判明したケースもあった。地域との関係性が希薄で、総合相談の際には状態が悪化しているといった問題が顕在化してきている。			
活動方針 (総合)		1 コロナ禍による地域活動の縮小や高齢者の閉じこもりといった課題に対して、関係機関との協働や感染対策、ICTの活用などにより、地域活動が継続できるように支援する。 2 地域活動の継続や民生委員との関係を強化することで、身近な相談機関であることを周知していく。引き続き、積極的に地域に出向き、周知活動や地域活動をしていくことで、孤立している高齢者にも早い段階から介入して支援に繋げていく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	前年度と比較して総合相談件数の増加や課題の複合化・複雑化したが、懇切丁寧な対応や他機関協同を心掛けた。民児協や地域の会議等に参加して周知活動に繋げた。福祉イベントの開催や体操教室などの地域活動支援、民生委員との勉強会など、地域に向けた講座は計画を上回り開催する事が出来た。	
	次年度に向けた展望	①地域の身近な相談機関となるよう積極的に地域訪問する。 ②社会から孤立した高齢者等の早期発見や課題解決に取り組む。 ③課題が複合化・複雑化した相談を複数機関と協力して解決を目指す。 ④高齢者が活動的に過ごせるよう地域活動支援、普及啓発活動を継続していく。 ⑤地域やサービス事業所等と災害対策や事業継続対策に取り組む。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・地域の介護予防や地域資源に関する情報収集をした際は、センター全職員が回覧して情報を共有した。 ・あんしんケアセンターと生活支援コーディネーターが共同して、圏域の全民児協に対して介護保険制度・インフォーマルサービス等の説明を実施した（6月～8月） ・あんしんケアセンターと生活支援コーディネーターが共同して、東千葉地区部会に参加して介護保険制度やインフォーマルサービス等の説明をした。 ・要町内会総会に参加して介護保険制度・インフォーマルサービス等の説明を実施した（5/15） ・生活支援コーディネーターとともに、地域活動団体へ訪問し、介護保険制度・インフォーマルサービス等の説明も実施した（道場北地区・8/4） ・自立支援の視点で介護予防マネジメントが実施できるよう、生活支援コーディネーターからプランナーに社会資源の情報を提供した（体操教室、移動販売 計3件） ・居宅ケアマネジャーからの問い合わせに対して、生活支援コーディネーターから認知症の見守りサービスについて情報提供した（1件）			
後期	具体的な取り組み状況	①男性独身の会に参加して、配食サービス・安否確認サービスの紹介や千葉市の事業を説明した（10/20、2/16） ②東千葉地区にて地域住民、障害者基幹相談支援センター、福祉用具事業所、第1層・第2層生活支援コーディネーター等と協同して、インフォーマルサービス等の展示・説明・紹介などの福祉イベントを開催した。広報誌を作成して他の地域や居宅介護支援事業所に紹介した（11/13） ③松波地区住民を対象として、介護保険制度やインフォーマルサービスについて講座を開催する予定だったが、運営者と協議した結果、あんしんケアセンター業務説明・介護保険制度の説明をした（11/25） ④第1層・第2層生活支援コーディネーターと協同して、自立ケア促進を目的したインフォーマルサービス事業所と居宅ケアマネジャーとの意見効果会・勉強会を開催した。モデル事例・通いの場の紹介、自費サービス事業の課題や今後の活用方法を話し合った（12/9） ⑤地域資源や通いの場などの情報収集した内容をセンター内で情報共有した。予防プランの内容を確認して、担当ケアマネジャーへの助言やインフォーマルサービス紹介を必要時に実施した。			

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	居宅ケアマネジャーや地域団体等から、社会資源の課題や要望を情報収集することが出来た。勉強会やイベント開催でネットワーク構築やセルフケア促進に関する取り組みが出来た。第1層・第2層生活支援コーディネーターと協同して次年度に繋がる取り組みが出来た。新型コロナウイルス感染対策を講じながら、利用者宅の訪問や課題把握・目標設定などケアマネジメントを実施する事が出来た。
	次年度に向けた展望	①男性独身の会では主に調理や献立、社会参加の難しさなど課題が出たため、簡単でバランスの良い献立などの出前講座等を検討・企画する予定である。 ②引き続き同地区開催を計画している。高齢者に限らず、児童や障害者など多世代を対象とする予定である。 ③インフォーマルサービス事業などの紹介を含めた講座を開催する予定である。 ④居宅ケアマネジャーとインフォーマルサービス事業所のネットワーク構築、課題解決に向けた勉強会・意見交換会を開催する予定である。 ⑤引き続き情報収集、情報共有に努める。今後は広報誌などを作成して積極的に情報発信していきたい。令和6年度に開催する自立促進ケア会議に向けた地区選定や予防プランの分析を実施する予定である。		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・毎日ミーティングにて新規受付ケースの報告・検討・情報共有を共有して、継続した支援に繋げた。（前期新規相談件数407件） ・継続ケースの進捗報告を実施、支援の方法や終結等を毎月包括 3 職種で協議・決定をした。 ・道場北地区老人クラブの活動に参加して、介護保険制度の説明、出張相談室を開催した（8/23） ・介護予防教室の開催時、参加者から個別の相談を受け対応した。 ・関係機関と連携を図り、適切な相談機関につなぐことでチームアプローチを実施した（障害者基幹相談支援センター、生活自立・仕事相談センター、各行政関係機関など） ・個別の地域ケア会議を 2 件開催（4/25、7/14）、地域住民やケアマネジャーなどと支援方法について検討した。 ・相談援助の研修や勉強会に参加した（前期合計6件）		
後期	具体的な取り組み状況	①日々のミーティングで新規受付ケース報告・検討・情報共有、継続した支援を実施した。 ②毎月包括 3 職種にてケースの進捗報告、支援方法や終結等を協議・決定した。支援困難ケースは包括 3 職種で個別の事例検討を開催して、対応方法などを再協議した。 ③介護予防教室の開催時、参加者から個別相談を受けて対応した。 ④関係機関と連携を図り、適切な相談機関に繋ぎ、チームアプローチを実施した（障害者基幹相談支援センター、生活自立・仕事相談センター、各行政関係機関など） ⑤個別の地域ケア会議3件実施。地域住民、ケアマネジャー等と支援方法について検討した（11/24、12/21、2/10） ⑥相談援助の研修や勉強会に参加した（後期合計 10件）		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	前年度611件から2月末時点で717件と相談件数が増加した。電話で相談内容を聞き取り、必要に応じて自宅訪問することで、迅速に適切な支援が実施できた。あんしんケアセンターの周知活動の増加や関係機関との連携、ネットワーク構築も図れた。ただし出張相談会の開催が少なかったため、今後は開催機会を増やしていくことを検討している。
	次年度に向けた展望	①包括 3 職種による新規受付ケースの報告、検討、情報共有を継続、適切な支援に繋げていく。 ②包括 3 職種で随時、方針検討して支援困難なケースでも適切なアプローチに繋げる。 ③複合的課題は関係機関と連携し、地域ケア会議の開催を検討する。 ④包括的支援会議に事例を提出して、関係機関との連携、適切な支援機関に繋ぐ。 ⑤生活支援コーディネーター第 2 層と連携して、社会資源の情報提供や支援に繋げる。 ⑥令和 4 年度に相談件数の多かった地域等で出張相談を開催していく。		

4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・108地区の民生委員と消費者被害勉強会の開催に向けて打ち合わせを実施（6/3） ・松波徘徊模擬訓練の開催に向けて民生委員と打ち合わせを実施したが、地域住民の理解を得られず今年度の開催は断念した（5/26） ・認知症サポーター養成講座を開催した（7/2、9/16） ・認知症サポーターキッズ養成講座の打ち合わせ実施した（9/21）		
		①千葉市消費生活センターに講師依頼して、108地区民児協にて消費者被害の勉強会を開催した（11/5） ②106地区民生委員や地域住民に高齢者虐待やあんしんケアセンター業務説明などの講話を実施した（3/2） ③認知症初期集中支援チーム会議にケース相談や連携して対応を実施した（2名） ④認知症サポーター養成講座を開催した（10/24） ⑤認知症サポーターキッズ養成講座を開催した（10/19） ⑥祐光地区のいきいきサロンにてドコシル伝言板の周知を行った（2/9）		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	重点地区にて権利擁護を中心に啓発活動の実施が出来た。令和3年度統計において、消費者被害の相談件数が多かった地区に対して出張講座を開催できた。徘徊模擬訓練は地域住民の理解が得られず実施することができなかったため。
	次年度に向けた展望	①権利侵害が著しいケースは、地域ケア会議や担当者会議等を活用して、支援関係者の連携強化を図り対応する。 ②警察等と連携して、詐欺被害に関する講話の開催や啓発活動を実施する。 ③くらしの巡回講座を実施する。 ④高齢者虐待防止に向けて周知活動や勉強会などを開催する。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・全ての圏域居宅介護支援事業所と定期的な交流会の開催には至らなかったが、圏域4特定事業所と事例検討会開催に向けた打ち合わせを3回開催した（5/18、7/7、9/5） ・困難事例相談は介護支援専門員などから17件相談があった。必要と思われる助言や必要機関と連携を図った。そのうち担当ケアマネジャーと同行訪問を5件実施した。 ・総合相談から個別事例の地域ケア会議を2件開催した。担当ケアマネジャー、民生委員などの参加で対応策や自立支援について協議した。 ・106地区民児協と地域ケア会議開催（6/15、9/2）地域課題について協議した。精神疾患に対する理解や知識を深める必要があるため勉強会を開催する事になった。 ・道場北地区のスーパー閉店に伴い、地域ケア会議を開催した（7/1）生活支援コーディネーター、民生委員から地域課題を聞き取り、移動販売の立ち上げに繋げた（8/23） ・東千葉地区より、地域活性化の課題を聞き取り地域ケア会議を開催した（8/24）高齢者・障害者福祉に対する知識、理解を深める必要があるため、福祉イベントを開催する事になった。 ・高齢者、障害者制度を専門職が正しく理解する必要があると判断したため、中央区あんしんケアセンター共催で相談援助職向けの研修会を開催した（4/14）中央区の多職種連携会議の開催に繋がった（9/30） ・東千葉圏域の多職種連携会議を開催した（9/12）地域防災の観点から防災専門家、通所介護事業所、地域薬局、地域医療の専門家から対策や取り組み、課題を共有した。		
		①106地区民児協と精神疾患の理解に向けての勉強会を開催した（10/8） ②圏域の居宅介護支援事業所とケアマネ事例検討会を開催した（10/13） ③第1層、第2層生活支援コーディネーターと協同して、インフォーマルサービス事業所と居宅ケアマネジャーのインフォーマルサービスの課題や利用推進に向けた勉強会を開催した（12/9） ④地域住民に高齢者・障害者福祉を周知するため、障害者基幹相談支援センター、福祉用具事業所、第1層・第2層生活支援コーディネーター等と協同して、介護保険制度の説明や福祉用具体験会を開催した（11/13） ⑤障害者基幹相談支援センターや障害サービス事業所と協同して、防災知識や災害時の連携についての会議に参加した（毎月） ⑥介護支援専門員からの困難事例相談を6件対応した。必要と思われる助言や必要機関と連携を図った。担当ケアマネジャーと自宅同行訪問を3件実施した。 ⑦個別事例の地域ケア会議を1件、支援困難ケース会議を2件開催した。担当ケアマネジャー、民生委員などの参加でネットワーク構築や解決に向けて協議した。		

年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	ケアマネ勉強会、事例検討会、福祉イベント等、ほぼ予定通り開催する事が出来た。困難事例は同行訪問や助言にて対応した。全ての圏域居宅介護支援事業所と定期交流会を目標にしていたが開催には至らなかった。地域の避難所運営委員会などに参加できず、地域防災の取り組みには至らなかった。
	次年度に向けた展望	①精神疾患や複合的課題に関する勉強会等を開催する。 ②ケアマネ事例検討会やケアマネ勉強会を開催する。 ③インフォーマルサービス利用促進に向けた勉強会を開催する。 ④高齢者、障害者、児童など多世代が参加できる福祉イベントを開催する。 ⑤多職種連携会議等で災害対策や地域防災に関するネットワーク構築を図る。 ⑥困難事例相談は状況を把握して適切な助言や同行訪問に繋げる。 ⑦地域のネットワーク構築、課題解決など必要に応じて地域ケア会議を開催する。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・介護予防教室は、登戸老人会体操教室・道場北みどり会館体操教室を継続した。7月よりコロナ蔓延の影響で休止中だった祐光自治会館体操教室を再開した。祐光自治会館体操教室は、A V 機器が設置され環境が整ったこともあり、自主化を目指して支援している。 ・椿森公民館体操教室は活動再開には至っていないが、新型コロナウイルス感染対策で屋外活動を企画した。蓮の開花に合わせて千葉公園のウォーキングを開催した。ウォーキングには参加できないが、参加者に会うためだけに赴いて下さった方もおり、歩行だけでなく交流の機会となった。 ・フレイル予防の普及啓発として、お達者クラブで講座を行った。また介護予防教室や自主活動に赴き、健康や介護予防に関する講座を実施した。また、自主的なフレイル予防を目指して、介護予防教室や地域の自主活動・介護予防講座で、基本チェックリスト実施の上、いきいき活動手帳を交付した。 ・生活支援コーディネーターと共に道場北ボッチャ体験会に赴き、地域の活動の把握やあんしんの周知を図った。 ・新規開始のシニアリーダー体操について、生活支援コーディネーターと共に地域での周知や個別の声かけを行い、利用に繋がった。		
後期	具体的な取り組み状況	①登戸老人会体操教室・道場北みどり会館体操教室・祐光苑自治会館体操教室を各月2回継続している。 ②介護予防活動支援として、東千葉ハイツ女子会(12/6)、松波脳トレ会(12/20)、松波ゴルフ(1/18)に赴いた。また年4回中央区の元気かい？に赴いている。 ③院祐地区(11/15)・祐光地区(11/24・2/9)いきいきサロンでフレイル予防の講話を実施した。祐光元気で実践重視のフレイル予防の講話を実施した(11/27) ④上記体操教室や住民主体活動などで、基本チェックリストを実施、いきいき活動手帳を交付した(合計109部)基本チェックリストは介護予防関連で181件、総合相談で1件実施した。 ⑤福祉イベントで握力測定、いきいき活動手帳を34部交付した(11/13) ⑥生活支援コーディネーターと協同して、ボッチャ体験会(椿森10/25)歩行力測定会(椿森11/10・院祐11/25)を実施した。		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	体操教室は担い手の育成が難しく自主化には至っていないが、体操教室や自主活動の後方支援を継続し、介護予防の普及啓発に努めることができた。高齢者自身が状態把握に努められるよう、基本チェックリストやいきいき活動手帳の活用や握力測定・歩行力測定などを実施することができた。
	次年度に向けた展望	①今後も自主的な健康づくり・フレイル予防を目指し、健康教育や状態把握の機会の提供を図る。 ②関係者と協力して、介護予防のためのイベントの企画を図り、普及啓発や地域の力の向上を目指す。 ③今後も通いの場が展開・継続できるよう、地域活動の発掘や担い手の育成・支援を行う。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター中央			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		担当圏域は東西に約 6 km、南北に 1 km 程度の広さであるが、人口が約 45,000 人と多く、人口密集地域である。官公庁や企業、商業地域も多いため、日中の圏域内人口はさらに多い。海側から圏域中央部にかけては新しいマンションが増え、若い世代の転入が続いている。一方で古くからの住宅街、50 年ほど前に造成された住宅地は高齢化が進んでいる。圏域の高齢化率は約 19 % で千葉市全体に比べ 7 ポイント程低い。圏域内には 6 つの小学校区と 4 つの中学校区が重なり、狭い地域ではあるものの町丁によって地域特性が異なる。住民主体の活動は少ないものの、市場サービスは多い。 若い世代の多い千葉みなとエリアでは地域の繋がりが希薄で地域活動もほとんど行われていないため、支援が必要な高齢者を早期に発見することが難しい。新宿エリアでは地域活動の担い手が減少してきている。千葉中央エリアでは繁華街が多いためか、ホームレスや累犯高齢者、近隣トラブル等、地域包括支援センターだけでは解決できないケースの相談がある。都エリアでは 50 年ほど前に造成された住宅街に転入してきた方々の高齢化が進み、家屋や地形の問題で家事支援を必要とする人が増えてきた。関係機関と連携し、地域特性に応じた支援を展開していく必要がある。			
活動方針 (総合)		・関係機関と連携し、支援が必要な高齢者を早期に発見し、支援が開始できるよう環境を整える。 ・地域ケア会議等を活用し、多様な問題を抱える世帯全体を対象に、支援を展開していく。 ・世情に応じた介護予防に取り組めるよう、地域活動支援・普及啓発活動を行っていく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	地域の関係機関との地域ケア会議等で個別ケースについて話し合うだけでなく、地域課題や日頃の連携について話し合うことができ、ヘルパーの駐車場確保等、一部問題が解決した。出張相談会を開催することでセンターの周知も促進され、新たな相談につなげることができた。サロン代わりの教室開催や、新たなサークルの立ち上げを行うことができた。	
	次年度に向 けた展望	この圏域では地域によって抱える課題が大きく異なるため、関係機関と連携しながらそれぞれの地域特性やニーズに合った支援を展開していくことで、高齢者の心身の健康の保持及び生活の安定を目指す。 地域包括支援センターだけでは解決できない課題を抱えたケースを解決するために、さまざまな関係機関と連携して世帯全体の支援を行う。			
2 第1号介護予防支援事業					
前 期	具体的な取 組み状況	①生活支援コーディネーターと連携し、住民主体の通いの場などの情報収集を行った。 ②地域の体操教室などでセルフケアが出来る人には資料を配布した。 ③委託プランの内容を確認し、必要に応じて担当ケアマネジャーに助言したり、当センターが把握しているインフォーマルサービスを案内した。			
後 期	具体的な取 組み状況	①引き続き生活コーディネーターと連携し、可能な範囲で情報収集を行った。 ②セルフケアのきっかけとなるような資料を作成し、地域住民や介護支援専門員に資料を配布した。			
年度 総 括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	計画通りに取り組むことができた。住民主体の通いの場に出向き実際の活動調査や単発の活動支援を行った。	
	次年度に向 けた展望	①生活支援コーディネーターと連携が把握していたインフォーマルサービス等の情報を整理する。 ②介護予防ケアマネジメントを担当するケアマネジャーにインフォーマルサービス等の情報提供をし、ケアプランに位置づけられているか確認する。 ③第1号介護予防事業の対象者に対し、介護予防に役立つ情報等を提供する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	①出張相談窓口の開催案内と合わせて広報誌の回覧ができた。都町地区の回覧により回覧地区の拡大が図れた。 ②出張相談窓口を隔月開催。6・8月とも相談者の来訪ある。今後の心配の準備をしたい（終活）等の相談もあった。 ③7月に民児協定例会に参加し地域性や人口動向・相談傾向の報告ができた。地域の問題等について共有する事ができた。		
後期	具体的な取り組み状況	①出張相談窓口を10・12・3月に開催できた。開催案内を見てセンターを知ったとの声もありセンター周知につながった。 ②2月に109、3月に104と105民児協定例会に参加ができた。民協からの依頼により介護保険の勉強会ができた。 制度について 知るとともに、高齢者人口増による問題を共有する機会となった。 ③コロナ感染対策より周知活動を最小限とし少人数での開催となったが、12・3月に地域活動事業を計画通り開催ができた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	計画通り実施ができた。出張相談窓口開催がセンター周知につながったが、窓口利用者は少なく開催について課題も残った。
	次年度に向けた展望	①支援を必要とする地域住民の相談窓口として、速やかに相談につながるためにセンターの周知活動を引き続き継続する。 ②地域の実態や課題などの情報収集や共有において民児協や自治会など地域のネットワーク活用が有効。民児協等と良好な関係づくりをおこなう。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	①民児協定例会に参加し、成年後見人制度について説明を行った。 ②計画通り後期にケアマネジャーを対象とした権利擁護の研修を行う予定の為、前期では行わなかった。 ③成年後見申し立てにおいて、中央区高齢障害支援課と連携し制度利用に繋ぐ為適切に対応した。		
後期	具体的な取り組み状況	①11月に民児協参加対象者に成年後見人制度の勉強会を計画通り開催した。 ②11月に虐待の早期発見に繋げる為、ケアマネジャー対象の権利擁護研修を行った。 ③虐待対応について、中央区高齢障害支援課やケアマネジャー等関係機関と連携し対応した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・権利擁護の周知について、出張相談窓口のパンフレット配架や広報誌により普及啓発活動を行えた。ケアマネジャー対象の権利擁護研修も計画通り行えた。 ・成年後見制度が必要なケースにおいて、専門職と連携し制度利用に繋げる為の支援ができた。
	次年度に向けた展望	①民児協定例会に参加し権利擁護の知識について情報提供をおこなう（年2回） ②圏域内のケアマネジャーを対象に権利擁護の研修会を開催する（年1回） ③出張相談会に権利擁護に関連するパンフレット等を持参し来訪者に案内する。 ④虐待事案発生時には速やかに高齢障害支援課をはじめ関係機関と連携し対応する。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①中央区支援機関連携会議の中で、一機関だけでは解決が難しい問題について話し合った。 ②困難ケースが多い地区の自治会役員や民生委員と地域ケア会議を行い、前年度把握した世帯の情報を共有した。 ③圏域の主任介護支援専門員、介護保険事業課と連携し、要介護帳票に関する研修を開催した。 ④中央区８０５０部会に参加し、８０５０講演会を開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	①中央区支援機関連携会議で、地域課題について話し合っている。 ②ヘルパーの駐車場問題等、地域課題について会議で話し合った結果、一部自治会で駐車場を借りられることになった。 ③８０５０世帯の支援についてセンター職員向け研修だけでなく、圏域内の介護支援専門員向けにも、８０５０世帯のネグレクトケースについてどのように対応するべきか研修会を開催した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	今年度の目標や取り組み計画の内容について、計画通り行うことができた。 世帯全体の支援が必要な８０５０世帯について、センター内だけでなく圏域内研修としてケアマネジャー向けにも開催することができた。
	次年度に向けた展望	①圏域の主任介護支援専門員と協力し、介護支援専門員のニーズや普段の業務の中で把握した地域課題を洗い出す。ニーズや地域課題について、介護支援専門員としてどのように対応すると良いか、事例研究を行う。 ②事例研究からわかったことをもとに、圏域内の介護支援専門員に対して研修会等を開催し、資質向上に取り組む。 ③昨年度把握した地域課題について、地域の関係者と会議を行い、課題の共有と解決に向けた検討をする。 ④関係機関と連携し、地域住民を対象としたイベントや講座を開催し、地域課題について広く周知できる機会を作る。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	①活動支援を行っているサークルに対して基本チェックリストを行い、いきいき活動手帳を配布した。介護予防やセルフケアに関する資料を情報提供した。②健康課との情報交換会にて地域の活動を把握し、情報交換した。介護予防を目的とした団体の活動支援として地域リハビリテーション事業の活用を計画した。③民生委員や福祉用具事業者等と連携し、町に対して歩行器の会を実施した。地区部会のニーズによりノルディックウォーク連盟と連携し、歩こう会を企画中。		
後期	具体的な取り組み状況	①活動支援を行っているサークルに対して基本チェックリストを行い、いきいき活動手帳の配布を行った。ケアマネへのケアプラン返却時に渡せるようにセルフケアの資料を作成した。 ②住民から新しいサークルの立ち上げを手伝ってほしいと相談があり、助言や活動支援を行った。 ③新宿公民館と連携しゆうきの寿大学を実施した。地区部会の活動支援としてノルディックウォーク連盟と連携し歩こう会を３月に実施する。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	年度当初に計画していた活動支援や啓発普及は予定通り行えた。 新規に住民主体の通いの場の立ち上げ支援を行ったため。
	次年度に向けた展望	①引き続き基本チェックリストの実施、いきいき活動手帳の配布を行い、セルフケアに取り組めるよう支援する。 ②各団体のキーパーソンに具体的な活動内容の提案を行い、活動の継続を支援する。 ③健康福祉センター等の関係各機関との連絡調整を行い、連携しながら支援していく。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター千葉寺			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		千葉市中央区郊外の東部地区エリアであり、中心部には県庁や県警本部、千葉市消防局などの主要な公的機関がある。また、千葉市立青葉病院、千葉大学医学部附属病院などの急性期の医療機関の他にも総合病院や精神科単科病院等、医療施設が集中している。教育機関として、県立高校が1校、中学校が3校、小学校が1校、公民館が2か所あり、地域住民の社会教育の推進の一端を担っている。福祉行政の拠点として千葉市ハーモニープラザ、その周辺には千葉県立青葉の森公園があり、散歩やウォーキング等住民の憩いの場として親しまれている。一方で、坂道や細い路地が多い地域であり、スーパーや商店等が大きな街道沿いに集中している為、足腰が弱ることで地域での生活を継続することが困難になる可能性がある。 令和3年12月末時点での高齢化率は、22.8%であり、25%を越えている地区も点在している。高齢者のみで構成される世帯の増加、コロナ禍の影響によるフレイルのおそれがある高齢者が増え、それに伴う相談対応が増加している。また、8050問題をはじめとする課題が複合化・複雑化した相談対応も増加している。各種サービス等の利用希望者は増えているが、社会資源に限りがあるため、地域での生活を継続するためには、介護保険サービス等が必要な状況に至らないような地域づくりが必要である。			
活動方針 (総合)		・地域住民や関係機関と連携し、地域住民が自身の健康づくりや介護予防に積極的に取り組み、世代を問わずに『安心して年を重ねることができる地域』を目指す。 ・課題が複合化・複雑化する前に解決に至れるよう、各相談機関と連携を深め、高齢者だけでなく、高齢者を取り巻く周囲の人々が相談しやすいセンター運営を目指す。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・総合相談で対応するケースの複合化・複雑化に伴い、地域団体の活動の立ち上げや継続支援や地域住民に向けた介護予防活動等への働きかけの時間が十分に確保できなかった。 ・センターの移転に伴い、地域に密着した相談窓口としての機能を果たせるよう周知活動に努めた。	
	次年度に向けた展望	・地域住民の介護予防についての意識が高まり、主体的に健康づくりや介護予防に取り組めるよう働きかけていく。 ・地域住民や関係機関と連携し、地域住民同士の支え合いの輪が広がるよう働きかけていく。 ・課題が複合化・複雑化する前に解決に至れるよう、センターの機能の周知を積極的に行い、各相談機関と連携を深め、地域の様々な方々が相談しやすいセンター運営を目指す。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・昨年度実施した要支援1・2でサービスを利用されている方を対象としたアンケート結果の分析を包括3職種・生活支援コーディネーターで実施し、ケアマネジャーへの情報共有について検討を行った。 ・介護予防ケアマネジメントの手引きの活用等を通して、適切な介護予防ケアマネジメントの視点の確認を行い、実践に活かした。			
後期	具体的な取り組み状況	・昨年度実施した要支援1・2でサービスを利用されている方を対象としたアンケート分析結果を圏域のケアマネジャーに報告し、地域の介護予防や自立支援に関する課題提示を行った。 ・ケアマネジャーに食の確保、買い物支援やゴミ捨て等について、配食サービスや移動販売等のインフォーマルサービスに関する情報提供を行った。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・適切な介護予防ケアマネジメントの視点については、手引きや運営基準、介護保険事業課の意見等を踏まえ、センター内で意見交換を行い確認した。 ・圏域のケアマネジャーに報告し、地域の介護予防や自立支援に関する課題の共有をおこなった。	
	次年度に向けた展望	ケアマネジャーや生活支援コーディネーター、地域の団体等と地域の課題（ゴミ捨て、外出支援、買い物支援、居場所作り等）や様々な地域資源について情報共有の機会を設ける。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・移転後もワンストップの相談窓口としての機能維持を目指し、民生委員や近隣の医療機関への周知、掲示板への掲示等を行った。 ・定期的なケース会議の開催、必要に応じた多機関との連携を通し、終結を目指した支援を行った。 ・複合的な課題を抱えるケースや長期的な支援が必要なケースの相談が増えており、地域の実態把握には至っていない。		
	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンターだよりの掲示、地域運営委員会や民児協、地域の介護予防教室等を通して、センターの機能周知を実施した。 ・総合相談の内容を民生委員と情報共有する機会を設け、地域の課題の共有を行った。 ・個別ケースの早期解決を目指して、民生委員や町内自治会、他の相談機関や行政等と連携し対応した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・民児協や地域運営委員会でセンターでの対応事例や総合相談の報告等を実施した。 ・総合相談の件数増や問題の複雑化に伴い、課題解決に時間を要するケースが多かったが、地域の関係機関と連携して、支援を行った。
	次年度に向けた展望	関係機関と連携し、身寄りのないケースをはじめとした複合的な課題を抱えるケースの早期発見・早期解決を目指す。複合的な課題を抱える世帯の存在を地域に周知を図り、身近な社会課題であることを知っていただき、地域での支え合い・見守り体制の構築を目指す。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域内の事業所を対象に高齢者虐待防止に向けた研修会を計画。県の機関の協力を得て、権利擁護に詳しい弁護士と研修会の内容について打合せを実施した。 ・社会福祉士連絡会にて、保健福祉センター内の関係機関の役割や機能について知るための勉強会を開催。改正した虐待マニュアルの内容を確認し、虐待対応について意見交換を行った。		
	具体的な取り組み状況	・県の協力を得て、圏域内の居宅介護支援事業所やサービス事業所に向けて、高齢者虐待防止研修を開催した。 ・虐待ケース及び虐待が疑われるケースの対応を関係機関と連携し、早期解決を目指した。 ・消費者被害が疑われるケースの早期発見を目指して、ケアマネジャー等に情報発信を行った。実際のケース支援では警察と連携して、対応について協議した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・関係機関と連携して、ケース対応や勉強会の開催等を行い、高齢者の権利擁護に積極的に取り組んだことで、高齢者虐待に関する相談件数が増えた。
	次年度に向けた展望	・高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、高齢者虐待や消費者被害の防止を目指して、専門職向けの権利擁護に関する研修の開催を継続するだけでなく、地域住民にも権利擁護に関する情報を発信していく。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域内の特定事業所の主任ケアマネジャーと共にケアマネジメントについての勉強会を開催し、研修の企画を行った。 ・区内のあんしんケアセンターや基幹相談支援センター、行政機関と連携し、多職種連携会議を開催や8050問題に関する講演会の開催支援を行った。 ・困難ケースの相談やオンライン研修の受講支援等、圏域内のケアマネジャーからの相談対応を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・困難ケースについては、ケアマネジャーや多機関の訪問に同行したり、関係機関（基幹相談支援センター、高齢障害支援課、民生委員等）と地域ケア会議を開催したりして、早期解決を目指した。 ・圏域内の特定事業所と介護保険事業課、中央区高齢障害支援課と連携し、圏域内のケアマネジャーに向けてケアマネジメントに関する研修や事例検討会を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・圏域内の特定事業所の主任介護支援専門員や行政と連携し、圏域内のケアマネジャーに向けた研修会や事例検討会の開催を行ったことで、ケアマネジャーの後方支援を行った。 ・区内5センターや中央区障害者基幹相談支援センターと連携し、多職種連携会議の開催を行い、65歳移行問題について議論を深める機会を持った。
	次年度に向けた展望	・総合相談やアンケート等より把握した地域課題、地域住民の目から見た地域課題の共有及び解決を目指して圏域のケアマネジャーや地域の関係機関と意見交換の機会を持つ。 ・地域活動支援センターや基幹相談支援センター等の障害者支援の機関と連携して、複合的な課題を抱える世帯の支援体制の構築について検討をしていく。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンターだよりを通じて、地域住民にインフォーマルサービスの活用方法について周知を行った。 ・地域の体操教室やサロン等で、シニアリーダー体操教室の紹介やシニアリーダー養成講座受講案内チラシの配布・説明を実施した。また、基本チェックリスト・いきいき活動手帳の配布を行い、介護予防に関する意識啓発を行った。 ・地域の体操教室にて、体操の指導や情報提供等を通して、活動が継続できるよう支援を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・地域の自主活動の場において、基本チェックリストといきいき活動手帳の活用や介護予防に関する講話を行ったり、関係団体による体力測定等の機会を提供した。 ・既存の自主活動の運営継続や立ち上げ支援のために、担当者や多機関（他のセンターや健康課）等と意見交換をし、一部サロンにおいては講師派遣の支援を行った。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・生活支援コーディネーターとセンターで連携をしたことで、体操教室の立ち上げ、測定会の実施、介護予防の必要性について周知活動ができた。 ・コロナ禍で縮小していた介護予防活動の継続支援や再開支援を通して、地域の介護予防に関する現状の把握が出来た。
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターや健康課、地域の関係機関と連携し、コロナ禍で縮小していた地域の介護予防活動の再開や立ち上げを目指す。 ・地域活動に参加していない方にも介護予防に関する情報が届くように回覧板の活用や地域の町内会や関係機関、商店等に協力を仰ぐ。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター松ケ丘			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・当圏域の高齢者人口は16.113人と市内で最も多い。 ・駅前などの生活に便利な地域と、バス以外に移動手段がない地域、またバス停までも遠くタクシーなどを利用しなければいけない地域が混在している。コロナ禍においては、バス便が減便されより外出が困難になった地域がある。 ・単身世帯や高齢者世帯も多く、様々な相談が寄せられているが、特に認知症や精神疾患が原因で生活に支障をきたしたり経済的困窮に陥るなど、複雑化した相談が寄せられることも多くなっている。 ・家族全体が多くの問題を抱えており、高齢者だけでなく家族全体への支援が必要なケースもあり、支援の複雑性困難性を感じている。 ・地域活動では、一部が感染対策を講じ活動を再開させている。その活動に積極的に参加する方と、活動を控える方で差が大きくなっており、気分の落ち込みや体力の低下がみられフレイルの進行が問題となってきた。 ・高齢化率が高い地域、総合相談が多い地域など、集中的に支援が必要な地域を抽出し、地域ケア会議を開催する等支援体制の構築を図る。 ・積極的に地域に出向き、継続してあんしんケアセンターの周知を行っていく。 ・長引くコロナ禍の生活でフレイルの進行が心配される高齢者に、生活支援コーディネーターとも連携し、介護予防活動やセルフケアについての周知を行う。			
活動方針 (総合)		・高齢化率が高い地域、総合相談が多い地域など、集中的に支援が必要な地域を抽出し、地域ケア会議を開催する等支援体制の構築を図る。 ・積極的に地域に出向き、継続してあんしんケアセンターの周知を行っていく。 ・長引くコロナ禍の生活でフレイルの進行が心配される高齢者に、生活支援コーディネーターとも連携し、介護予防活動やセルフケアについての周知を行う。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・定期的に地域ケア会議を行う地域が増えた。 ・コロナ禍ではあるが、生活支援コーディネーターと連携し新規にシニアリーダー体操やいきいき体操などの立ち上げや継続支援を行うことができた。 ・出張相談や広報誌の発行、地域のスーパーなどでの広報誌の配架など、積極的にあんしんケアセンターの周知を図った。	
	次年度に向けた展望	・多問題を抱える家族や、複雑化・深刻化するケースへの対応を適切に行っていくことのできる環境を整備するために、地域や関係機関との連携を深めていく。 ・積極的に地域に出向き、ケースが複雑化・深刻化する前に相談に結びつくよう、あんしんケアセンターの周知を図っていく。 ・生活支援コーディネーターと連携し、地域のニーズに合った介護予防活動を展開する。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・感染状況に合わせ、適切なアセスメント、モニタリング等を実施した。 ・圏域の居宅介護支援事業所については、予防プラン作成の研修を行い、マネジメントの質の向上を図った。 ・委託居宅介護支援事業所には、あんしんケアセンターへの書類提出時の添付書類を更新し、それぞれのケアマネジャーが意識的に予防マネジメントの流れが理解できるよう工夫を行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・感染状況に応じた訪問、アセスメント、サービス担当者会議、モニタリング等を実施した。 ・利用者本人が自らの課題に気づき、対応できるよう支援に努めた。 ・委託居宅介護支援事業所については、書類の提出遅れや未提出が起きないよう、Faxや電話で提出を依頼した。提出されない事業所に関しては、担当課と相談し対応した。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・感染予防の観点から「訪問を控えて欲しい」と利用者からの声も多い中ではあったが、適切なマネジメントが行えるよう工夫をした。 ・サービスだけではなく、地域の社会資源を取り入れようと、生活支援コーディネーターに連絡下さるケアマネジャーが増えた。	
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターと連携し、利用者の状態にあったインフォーマルサービスなどの情報提供や利用を促し、自立した生活が送れるよう支援する。 ・委託先居宅介護支援事業所が適切なケアマネジメントが行えるよう、ケアマネジャーが必要とする研修内容を把握し実施していく。 ・適切な提出書類の管理を行う。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンターの周知活動として、広報誌の作成した。 ・生活支援コーディネーターと連携し蘇我コミュニティセンターでの出張相談会を継続して行った。 ・毎朝のミーティングや月1回の総合相談ミーティングを実施した。困難ケースに関しては地域ケア会議を開催し情報共有や対応方法の検討を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・周知活動として近隣スーパーで広報誌の配布活動や介護に関するリーフレットの設置を行った。蘇我コミュニティセンターでの出張相談会は年4回行った。 ・毎朝のミーティングや月1回の総合相談ミーティングを実施、困難ケースに関しては個別課題解決、支援者とのネットワークの構築のため地域ケア会議を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・相談者の方の気持ちに寄り添い、課題解決のために相談支援を行った。 ・相談窓口としての周知活動を出張相談会やリーフレットの配布や設置により多くの方の目に触れる活動を行った。 ・多様な相談に対して、それぞれの専門的な視点をもった包括3職種がチームアプローチを行った。また専門機関と連携し支援を行うことも増えてきてきている。
	次年度に向けた展望	・高齢者だけでなく幅広い年代の方にあんしんケアセンターの周知を図り、地域の潜在的なニーズの把握に努める。 ・地域住民の課題解決のために包括3職種が共同して支援を行う。 ・地域課題の早期の発見、個別課題解決のために地域ネットワークとの連携を高めるとともに、他の専門機関とも連携を密にして活動が出来る体制をつくる。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・生活支援コーディネーターと共同し地域の体操教室などで、詐欺被害の注意喚起の呼びかけを行った。 ・地域住民主体のラジオ体操終了後、千葉中央警察署と連携し詐欺防止や交通安全のミニ講座を開催した。 ・虐待防止の講座をサービス事業所からの依頼があり計画したが、コロナの影響で延期になった。 ・圏域事業所向けに虐待研修会を予定しているため準備を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・成年後見制度の利用が出来るよう、関係機関と連携し支援を行った。 ・圏域内の事業所向けに虐待研修を開催し、知識の習得と共に迷わず通報できる関係の構築を行った。 ・千葉中央警察署、事業所と共に危険が伴う道路での交通安全についてチラシの配布をして注意喚起を行った。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・虐待研修の開催により虐待への理解を深め、圏域内の事業所の方との関係構築し早期発見につなげる体制づくりを行った。 ・詐欺防止や交通安全など各関係機関と連携し、講座やチラシ配布を行い注意喚起を行なった。
	次年度に向けた展望	・来年度も圏域内の事業所職員を対象とした虐待の防止、早期発見につながる虐待研修を開催する。 ・虐待と思われる相談があった際には関係機関と情報共有して迅速に対応する。 ・生活支援コーディネーターと共同し地域集いの場に出向き詐欺被害、交通安全の注意喚起の呼びかけを行う。 ・成年後見センターと共同し成年後見制度の活用にもけた支援を行う。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域ケアマネ向け研修を2回（生活保護、予防ケアプラン）実施した。ケアマネのスキルアップと共に、行政とケアマネとの連携を図る事ができた。 ・困難事例等に対する相談対応を引き続き行った。 ・圏域多職種連携会議開催（R5.1）に向け、在宅医療・介護連携支援センターとの打合せ実施した。		
		・R5.1、圏域多職種連携会議を開催した。 ・圏域主任ケアマネ開催の事例検討会の後方支援を行なった。 ・ケアマネジャーからの個別の相談対応を継続して行った。個別ケース相談では、地域ケア会議の個別ケース会議を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・予定通りに圏域ケアマネ向け研修2回を実施する事ができた。 ・圏域多職種連携会議を行い、多くの参加者との意見交換する事ができた。 ・SNSを活用したケアマネジャー同士の情報交換できる場の創設は実施できなかった。
	次年度に向けた展望	・コロナウィルスの感染状況を見ながらではあるが、対面での圏域ケアマネアンケートを行ない、率直な意見を把握していく。 ・研修会（2回）もできる限り対面で行なう事とし、2回中1回は3時間研修とし、修了証の発行を行なうようにする。 ・圏域多職種連携会議を開催し、今後も医療と介護の連携強化を図っていく。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・中央いきいきプラザ・生活支援コーディネーターと連携し、仁戸名町団地・星久喜町南部町会カフェにて体力測定会を実施した。 ・健康課と連携し6月より南部青少年センターでいきいき体操の立ち上げ支援を行ない、定期開催した。 ・千葉地域リハビリテーション広域支援センターと連携し、通いの場でフレイル予防に資する講座やボッチャ体験会を開催した。		
		・蘇我3丁目八幡公園で千葉地域リハビリテーション広域支援センター、民生委員と連携し体力測定会を実施した。 ・南部青少年センターでのいきいき体操を継続的に支援した。 ・生活支援コーディネーターと連携し仁戸名町団地でシニアリーダー体操教室体験会を開催し、その後定期開催となった。 ・大蔵寺町ではシニアリーダー体操の体験会を開催した。 ・川戸ひまわり会で中央いきいきプラザと連携し体力測定会開催し、基本チェックリスト、いきいき活動手帳交付した。 ・健康課と連携し花輪町自治会館で認知症講座を開催した。 ・「あんしんつながる保健室」を発行し、地域へ配布、回覧し、地域住民のセルフケア向上に努めた。 ・スーパー等で介護予防に資するパンフレットの配布を行った。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・広報誌を発行、配布、回覧することで地域住民に対しセルフケア向上への普及啓発を行うことができた。 ・立ち上げ支援を行った介護予防教室を定期開催へつなげることができた。 ・関係機関と連携し、様々な地域で体力測定会や講座を行うことができた。
	次年度に向けた展望	・広報誌の発行を継続し、広く地域住民への情報発信、介護予防普及啓発を行う。 ・基本チェックリストやいきいき活動手帳の活用を通いの場や総合相談で行い、地域住民のセルフケアの向上につなげる。 ・生活支援コーディネーターと連携し介護予防教室等立ち上げ検討、支援する。 ・学校保健連絡会、千葉市養護教諭会等学校関係者と意見交換する機会を作り、ヤングケアラーの家庭支援においてあんしんケアセンターが担える分野への周知を図る。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター浜野			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		（地区概況）区内他のあんしんケアセンターと比べ、高齢者人口は少なく、高齢化率は一番高いが、介護保険認定率は低いのが特徴である。緑区隣接の山側は農業が主産業だった地域のため、介護は家族が担うものという考えが根強い。市原市隣接の海側は、農業だけでなく漁業関連に従事していた高齢者も多い。また、鉄鋼関係への出稼ぎ労働者が高齢となって独居となることが増えている一方で、浜野駅近隣では昭和40～50年代に開発された新興住宅地も多く、高齢化が深刻化している。マンション等の建設により人口は増加しているが自治会加入率は低下している。 （地区課題）内科・整形外科疾患等で入院できる病院がなく、医療機関の数も少ない。銀行や大型スーパーも浜野駅近隣にしかなく、バスの本数も減便されている状況では、車を運転しなくなった高齢者には日常生活を継続するための課題も多くなっている。民生委員や社協地区部会等の地域活動を担う人材の高齢化も進んでおり、民生委員不在の地区もある。コロナ感染症蔓延により、高齢者の実態調査やいきいきサロンも2年以上休止されており、地域での見守り活動も縮小傾向である。町内自治会役員も高齢化しており、町内自治会活動の継続にも課題がある。最近では、徘徊高齢者の相談が増えている。			
活動方針 （総合）		高齢者が周囲の支援を受けながらも、住み慣れた地域でできる限り元気で、生きがい・尊厳のある暮らしを継続できるよう、その人の状態に応じて、医療・介護・予防・住まい及び生活支援サービスを継続して提供する「地域包括ケアシステム」の構築を深化するために、生活支援コーディネーターや関係機関と連携を図り、多職種協働で取り組んでいく。また、地域共生社会の足がかりになるよう、高齢者以外の方にもセンターの周知活動を行い、地域活動にも積極的に参加していく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理由	・広報紙の発行や民生委員に依頼したチラシの効果があり、過去最高の相談件数となった。 ・生浜高校との連携を通じて、全世代に共通する「貧困」という地域課題に対して、多機関協働で取り組むことができた。保育所や保護者等の若い世代への周知活動にも繋がった。 ・コロナ禍で休止中のいきいきサロン再開に向けた働きかけが実を結び、試験開催できた。	
	次年度に向 けた展望	・コロナ禍で制限されていた活動の再開が進んでいくので、積極的に地域に出向き、顔の見える関係性の再構築を図っていきいたい。 ・相談件数が増えている中、センター内の情報共有や役割分担をしっかりと行い、緊急性や他機関との連携の必要性についてもチームで判断し、相談者の不利益にならないように迅速に対応していきたい。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取 組み状況	・生活支援コーディネーターと連携し、委託分ケアプランにインフォーマルサービスが位置付けられているかを確認した。センター作成分については、活用できるインフォーマルサービスを職員間で共有することができた。 ・居宅介護支援事業所に委託している利用者の書類については、事業所ごとに必要書類の一覧を作成し、パソコン上で確認することができている。不足があれば、その都度事業所に依頼をし、適切な管理ができた。			
後期	具体的な取 組み状況	・委託分ケアプランのインフォーマルサービス位置づけを確認した結果、ほぼ位置づけられて無いたことが明確となった。地域にインフォーマルサービスが無く、コロナ禍で地域活動縮小傾向であり、案内出来る活動がなく情報発信が出来なかった。 ・居宅介護支援事業所に委託している利用者の書類については、パソコン上で確認を行い、不足については都度事業所へ依頼し、適切に管理することができた。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・委託分ケアプランのインフォーマルサービスの位置づけを調査した結果、位置づけされたプランはほとんどなく、サービスのみのプランであることが明確となり、課題の見える化が図れた。 ・書類管理は適切に実施できた。居宅介護支援事業所の状況把握も行い、相談にスムーズに対応できるよう務めたが、委託先を探すことに時間が割かれる状況だった。	
	次年度に向 けた展望	・地域にインフォーマルサービスも無く、歩いて出かける場所がないため、プラン傾向をみてもサービス利用ありきで介護予防が進まない地域課題が明白となった。相談者に対し、介護保険サービス利用提案のみとなっている社会資源不足の現状課題に対し、多職種連携会議において外出目的が持てるような活動を一緒に検討していきたい。 ・生活支援コーディネーターと連携し、地域の情報収集・発信に努める。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・2カ月に1回広報紙を発行し、あんしんケアセンターの活動内容等の周知活動を行った。 ・民生委員定例会で昨年度の相談件数とその傾向、また、最近の相談事例と対応についての報告を行った。 ・3年ぶりに民生委員による高齢者の実態把握調査訪問が行われるため、あんしんケアセンターのチラシを3千部作成して、訪問時の配布を依頼した。高齢者に直接周知できる機会となった。		
後期	具体的な取り組み状況	・2ヶ月に1回広報紙の発行を継続し、あんしんケアセンターの活動内容等の周知活動を行った。 ・総合相談及び実態把握の状況については三職種会議で方向性を検討・共有し、支援の終結を意識しながら進めた。また、複合した課題を抱えるケースについては、相談内容に応じ基幹相談支援センターや法テラス等と連携を図った。 ・民生委員の大幅な変更があり、新体制後となった3月に町別の意見交換会を実施した。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・広報紙の定期発行により、地域への周知活動が進み相談件数の増加につながったことは、評価できる。 ・複合ケースについても他機関と連携し、対応できている。 ・民生委員定例会に定期的に訪問し、新規民生委員にも顔の見える連携を働きかけた。
	次年度に向けた展望	・総合相談件数は増えているが、相談に来ない人をいかに早い段階で発見できるかが課題となっている。初期相談の要となる民生委員だが、任期満了に伴い大幅な人員変更があり、新しい民生委員はあんしんケアセンターの役割やこれまでの連携等を知らないため連携に課題が見える。新しい民生委員に対するあんしんケアセンターの周知と、連携体制の構築を重点目標として活動していきたい。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・4/5、6に千葉銀行新入社員向けの認知症サポーター養成講座をオンラインで実施した。6/1には生浜公民館にて地域住民向けの認知症サポーター養成講座を開催した。13名の方が参加され、圏域外からの参加者も多数いた。 ・昨年度発足した「生浜地区緊急捜索ネットワーク」が稼働できるか、メールによる試験発信を行った。 ・虐待が疑われる相談があった際は、高齢障害支援課と情報共有を図り、迅速に対応できるよう努めた。		
後期	具体的な取り組み状況	・センターで発行している広報紙に電話で詐欺等の情報を載せ、普及啓発を行った。 ・11/29圏域内の福祉事業所を対象とした高齢者虐待防止研修を行った。 ・1/20生浜中学校にて認知症キッズサポーター養成講座を開催し、1年生の生徒175名と先生9名が参加された。 ・虐待が疑われる相談があった際は、高齢障害支援課と情報共有を図り、迅速に対応できるよう努めた。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・養護者支援という、いつもとは違う視点で虐待防止研修を行った。グループワークも実施し、養護者の立場に立った声掛けの必要性について考えてもらうことができた。 ・3年振りにキッズサポーター養成講座を開催することができ、中学生の認知症に対する理解を深めてもらうことができた。
	次年度に向けた展望	・虐待相談は迅速に対応できるよう情報共有に努め、高齢障害支援課との連携を密に図る。状況に応じて、緊急保護や措置入所の実施を求める。また、早期発見のため、事業所に向けて虐待事例の共有や研修を行う。 ・成年後見制度や消費者被害防止の普及啓発のため、広報紙や介護予防教室を活用する。 ・認知症の理解を深めるために認知症サポーター養成講座を開催する。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・個別ケースから「貧困」という地域課題を抽出し、圏域内居宅介護支援事業所及び相談支援事業所と委託先に高齢者等の貧困実態調査のアンケートを実施した。その結果と生浜高校との連携を基に、食糧支援をテーマにした浜野圏域多職種連携会議を8/26に開催した。地域住民周知のためのイベント開催に向けて実行委員会を立ち上げた。 ・5/20に圏域ケアマネ研修、8/19に圏域事例検討会実施した。		
後期	具体的な取り組み状況	・10/14、1/11事例検討会、11/29高齢者虐待防止研修を実施した。必要に応じて個別地域ケア会議を開催した。 ・圏域居宅介護支援事業所をオンライン個別訪問し、意見交換を実施し事業所の状況把握を行った。 ・「貧困」という地域課題を地域住民に周知するためのイベントを3/4に開催した。また、フードバンクとも連携し、スポットの登録も行った。 ・小田急浜野団地において、住民との意見交換会を実施し防犯パトロールの地域活動に繋がった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・圏域の居宅介護支援事業所と協力し、コロナ禍で実施できる活動を継続できた。 ・地域課題を多職種と協働で、地域住民向けにイベントを開催できた。また、フードバンクとも協力体制を作り、色々な機関とのつながりを深められた。 ・小田急浜野団地では、話し合いを重ねることで住民主体の活動に繋ぐことができた。
	次年度に向けた展望	・圏域内居宅介護支援事業所、主任介護支援専門員と連携し、事例検討会や研修会を定期開催していく。 ・個別地域ケア会議や相談内容等から地域課題の抽出を図り、多職種連携会議等を活用し、関係機関と連携を図り課題解決を目指す。 ・「貧困」という地域課題を地域に周知できるように、多機関と協働してイベント開催を継続する。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・7/6、13にラジオ体操参加者に体力測定を実施した。コロナ前の結果と比較し「足首・臀部筋力の硬化・低下傾向」と課題があがった。8/24に地域リハ事業を活用し、理学療法士より「運動指導、食生活」のアドバイスをいただいた。 ・6/10に生浜歩こう会を開催した。公共交通機関を利用し高齢者の活動範囲の拡大に繋がる企画となった。 ・コロナで休止していたシニアリーダー体操再開に向けて働きかけた結果、6月に再開できた。現在も継続できている。		
後期	具体的な取り組み状況	・10/21生浜歩こう会にて千葉みなとを散策した。18名が参加し、景色や芸術を楽しみ、交友を深められる機会となった。 ・地区社協と協議を重ね、11月よりいきいきサロンを試験再開した。既存の茶話会を含む開催スタイルを見直し飲食を省く講座形式とし、ヒートショック・低温やけどの講座、コグニサイズを指導した。月1で各所を回り全地域で再開に繋がった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	過去最大の感染拡大がみられた中、約3年間休止していたいきいきサロンの再開や、休止を繰り返していたシニアリーダー体操の継続が叶い、地域の介護予防事業を再始動する後方支援が出来た。活動立上げはなかったが、既存活動の定着、再始動ができた年となった。定期的な体力測定を行い、介護予防・健康増進のモチベーション維持に繋げることができた。
	次年度に向けた展望	・試験再開したいいきいきサロンの継続開催の支援及び、コロナ禍で入れ替わった担い手の後方支援を行う。元気なうちから介護予防に取り組む重要性を広め、いきいき活動手帳の活用や、参加意欲を高められる介護予防教室を開催する。 ・生活支援コーディネーターと連携し、住民主体の介護予防活動の情報収集を行う。通いの場が遠く足腰が弱ると参加が難しい地域がある。そうした地域でも、積極的に外出が出来るよう、地域を巡るスタンプラリーといった企画を実施する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンターこてはし台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・花見川区の最北端で八千代市、佐倉市、四街道市、稲毛区と隣接している。また、国道16号線を超えての地域（み春野・宇那谷町・内山町・大日町）については通いの場やインフォーマルな社会資源が少ない。 ・み春野地域（平成12年に宇那谷町から区画整理）では、高齢化率が10%であり比較的若い世代が住んでいる。徒歩圏内での買い物はコンビニのみ。若い世帯は車で買い物や通院する事が多いが、今後、高齢化が進んでいくと、通院や買い物に支障をきたす方が増えると考えられる。 対照的にこてはし台地域では、高齢化率50%前後であり、独居・高齢世帯が多く住んでおり千葉市内でも屈指の高齢化率エリア。ボランティア団体などの支援者も高齢化が進んでおり今後の支援体制に不安がある。 ・8050問題、生活困窮者、身寄りがいない等複合的な問題を抱え他機関と連携しながら支援している事例が増えてきている。			
活動方針 （総合）		・地域包括ケアシステムを構築するために地域ケア会議を開催し、地域課題を把握し地域づくり・資源開発に向けて取り組みを行う。 ・複合した課題を持つ世帯に対して、円滑に支援が行えるよう関係機関との連携強化を図る。 ・社会資源が少ない地域に対しては、生活支援コーディネーターと連携し新たな社会資源の発掘や情報収集や集いの場等新たな活動の場を開拓する。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・こてはし台、横戸町での地域ケア会議を開催し地域課題の把握や支援対象者への早期のアプローチが行えた。 ・7月より第二層生活支援コーディネーターを配置し、地域の細部にわたって情報を得ることができ、包括3職種と情報を共有することができた。	
	次年度に向けた展望	・民生委員児童委員など関係機関と連携し、支援が必要な高齢者を早期に支援が行える体制を構築する。 ・地域住民に対して、介護予防に意識を向けられるよう生活支援コーディネーターと連携し地域活動や社会資源の発掘を行う。 ・地域ケア会議を開催し、地域課題を把握し地域づくり・資源開発に向けて取り組みを行う。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・カフェの立ち上げ（横戸台）支援で第一層、第二層生活支援コーディネーターと連携し他地域でカフェの情報提供（種類、内容）など行った。 ・第二層生活支援コーディネーターからの地域資源情報に基づき、相談者に対してサロン等の情報提供を行い地域参加に繋ぐことができた。 ・生活支援コーディネーターと共同し通いの場の地図作成を行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・他地域の認知症カフェの見学を行い、圏域での立ち上げ支援等の情報収集を行った。 ・生活支援コーディネーターと共に活動休止中であったサロンの再開支援を行った。 ・コロナで延期していたこてはし台でのカフェ（オリーブハウス・こてはし台地区部会など共催）の協議を行った。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・生活支援コーディネーターと連携し地域サロンの活動再開支援、相談者に対してサロン等の情報提供を行い地域参加に繋ぐことができた。	
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービスや住民主体の通いの場の活用など個々のニーズに合わせて支援を行う。 ・利用者の自立支援に資するよう、地域の中で生きがいや役割を持って生活できる居場所に通い続けることが出来る様に援助を行う。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・複合的な課題に対しては、ホワイトボードを使い包括3職種で緊急性の判断、支援方法、終結について検討を行った。 ・民生委員・児童委員の戸別訪問後に相談を受け、早期に支援対象者への支援を行った。 ・鷹の台自治会にて、地域における支援対象者、地域課題に関しての地域ケア会議の開催を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・複合的な課題に対しては包括3職種で支援方法の検討、情報を共有しセンター全体で支援を行う事が出来た。また、世帯を支援する中で他機関との連携し支援を行う事が出来た。 ・鷹の台地域ケア会議を通じて民生委員・児童委員等と連携し対象者に対して早期アプローチの検討、地域課題について把握する事が出来た。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・他機関と連携を図り、世帯としてチームアプローチが行えた。 ・地域の関係機関とのネットワークを構築し支援対象者に対して早期のアプローチが行えた。
	次年度に向けた展望	・的確な状況把握を行い、家族介護者を含む世帯としてとらえ、包括3職種での連携、関係機関含めチームアプローチに取り組み、支援を行う。 ・包括3職種の質の向上を図り、医療・保健・福祉の制度や様々な相談に対し支援ができるようスキルアップを行う。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・高齢者虐待が疑われるケースについては、所内で協議した上で高齢障害支援課に相談し、連携して対応を行った。 ・高齢者虐待対応について、帳票を活用し、センター内で研修を行った。 ・消費者被害に関する情報をセンター前に掲示し注意喚起を行った。 ・一部地域のサークルにて『高齢者の安全・安心ガイドブック』（消費者被害等の啓発）を配布、説明を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・金銭等の管理や契約等が出来なくなっているケースについて、市長申立てに向け機関と連携を行った。 ・高齢者虐待対応について、所内研修（事実確認前の情報収集について）を行った。 ・高齢者虐待の疑いのある相談については、所内・高齢障害支援課・関係機関と協議し対応を検討した。 ・消費者被害に関する情報をセンター前掲示・地域のサロンでの配布により注意喚起を図った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・日常生活自立支援事業・成年後見制度の案内を行い、各機関と連携し支援を行った。 ・高齢者虐待対応のチームでの対応力強化の為、所内研修を行った。 ・消費者被害に関する情報をセンター前掲示・地域のサロンでの配布により注意喚起を図った。
	次年度に向けた展望	・成年後見制度、日常生活自立支援事業の案内を判断能力の低下がみられる方へ行っていく。 ・高齢者虐待対応を所内で標準化できるよう、所内研修を開催していく。 ・権利擁護に関する情報を、掲示や地域のサークル、出張講座等で案内していく。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンター花見川と共同し多職種連携会議を開催することができた。 ・前年度に引き続き圏域の居宅介護支援事業所と地域ケア会議の開催（こてはし台駐車場問題）を行った。 ・圏域主任ケアマネ会にて花見川区居宅介護支援事業所にアンケートを実施し研修会開催に向けて準備を行った。 ・困難事例等地域の介護支援専門員と同行訪問し支援内容を検討し支援を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・こてはし台地域ケア会議（駐車場問題）後、介護保険事業所に対して駐車場問題についての広報を行った。 ・区内の居宅介護支援事業所へのアンケートからQA作成（制度の解釈等）を行った。（次年度継続） ・花見川区6センターで共催し多職種連携会議を開催（カスタマーハラスメント）することが出来た。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・多職種連携会議、地域ケア会議を計画通り開催することが出来た。 ・制度解釈等のQA作成途中が未完成であり次年度も継続予定となった。
	次年度に向けた展望	・事例検討会や研修会を通じて、区・圏域主任介護支援専門員と共にケアマネジャーの質の向上を図る。 ・地域資源の情報収集（生活支援コーディネーターと連携）、地域課題の抽出等を行う。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンター主催の体力測定会の企画準備を行った。 ・み春野地域でのサロンにて、いきいきプラザ出張講座を依頼し介護予防体操を行った。 ・毎月、広報誌を作成し地域のサロン等で配布することができた。配布場所を増やすことはできなかった。 ・第一層、第二層生活支援コーディネーター共同しシニアリーダ体操教室の後方支援を行う事が出来た。		
後期	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンター事務所にて体力測定会（握力測定、体重測定等）の実施することが出来た。 ・生活支援コーディネーターと共に、地域のサークル活動等であんしんケアセンターの広報誌を配りセンターの周知を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・健康課や生活支援コーディネーターと連携しサロンにて、出前講座開催に結び付けられた。 ・コロナで活動できていなかった、あんしんケアセンターでの体力測定会を行う事ができた。 ・認知症普及啓発活動として、高齢者声掛け訓練（いきいきプラザクリスマスイベント）を行った。
	次年度に向けた展望	・介護予防の取り組みが行える様に、あんしんケアセンター主催で体力健康測定会や出張相談会など行う。 ・生活支援コーディネーターとの情報交換により、活動が不足している地域に対するアプローチ方法や新たな介護予防活動の場を検討する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター花見川			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		あんしんケアセンター所在地である花見川団地は昭和43年に建てられた大型団地であり、建設当初の入居者が高齢となり担当圏域でもトップの高齢化率（平均43.7%）である。相談件数も花見川団地で約半数以上を占めている。安否確認や成年後見制度につなげる相談が多くなっている。経済的な課題を抱え、身寄りがいない高齢・独居世帯、同居でも子に精神疾患・障害があるなど、日常生活に課題を抱えている世帯が増加している。また、地域を支える支援団体、民生委員等も高齢化が進み、後任探しや欠員状況が続くなど苦慮している。花見川団地以外にも昭和40年代に建設されたマンション、集合住宅が点在しており、同様の課題を抱えている。地域資源に関しては商業施設が多く、交通機関も発達しており生活しやすい環境にある。一方、団地形成以前から住んでいる、戸建て住居の多い地域もある。団地に比べ、相談が少ない傾向にある。あんしんケアセンターの更なる周知が必要と考えている。また、地域資源に関しては商業施設が少なく交通手段も限られている。			
活動方針 （総合）		圏域の民生委員、支援団体、地域住人の情報提供から介入に至るケースが増えてきている。今後も地域支援者との関係性を維持・発展させ早期対応を心掛けていく。相談や情報提供が少ない地域に関しては、あんしんケアセンターの周知不足も考えられるため定期的なアプローチから地域関係者とのネットワーク作りを推進していく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	地域関係者、支援者からの相談から介入するケースは多く、早期対応、介入が図れたケースは多い。これはあんしんケアセンター花見川が関係者との関係性構築を継続した結果が出ていると言える。しかし相談の多い、少ない地域と圏域に差が出ており、相談の少ない圏域でも要支援高齢者は多く、定期的なアプローチが足りなかった事も認識している。そのため「C」とした。	
	次年度に向けた展望	引き続き関係機関と連携を図りながら、課題の解決を図りつつ、地域関係者と社会資源情報を共有しながら地域包括ケアシステムのさらなる深化を図り、定期的なアプローチから地域関係者とのネットワーク作りを推進していく。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・いきいきセンター主催の健康相談フェスティバルに参加した。チェックリストを活用し、介護予防につながる生活習慣のアドバイスや社会資源のマッチングを行った。他、総合相談時にも適宜活用を継続できた。 ・第2層生活支援コーディネーターを7月より配置。資源調査は必要に応じ包括3職種も同行し、センター全体で地域資源の運営状況の把握・整理・情報更新を行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・高齢者サロンや体操教室等に出向き、あんしん作成の広報誌等にて、健康維持の為の注意喚起等をおこなった。その他いきいきセンター主催の健康フェスティバルに参加した際には、16名の高齢者がチェックリストを実施し、生活習慣のアドバイスや社会資源のマッチングを総合相談と並行し行った。 ・第2層生活支援コーディネーターと包括3職種とで地域資源調査を継続し把握に努めた。 ・地域資源等を活用したインフォーマルサービスのケアマネジメントを推進するために自立促進ケア会議に参加した。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	積極的に地域へ出向き、サロンや体操教室を通じて介護予防普及啓発に取り組んだが、コロナ禍の事もあり、介入した地域とあまり介入できなかった地域での活動の差が生じてしまったため「C」とした。	
	次年度に向けた展望	・引き続き地域へ出向き、介護予防普及啓発の取り組みを進めていくが、サロンが休止または存続が危うくなっている地域への関わりを増やしていく。 ・社会資源の発掘や地域との連携を強化するため、引き続き第2層SCを中心に地域資源の把握と発掘に取り組んでいく。 ・社会資源の利用促進をケアマネージャーへかけていく。そのための情報をしっかりまとめ、提供していく。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・重点地区の東急町内会に向けて、毎月自治会長に連絡を取り、地域のサロンや行事等の情報収集に努めた。また毎月、あんしん花見川のオリジナル情報誌の回覧をお願いするなど、周知に向けた働きかけを継続し、具体的な相談にもつながった。 ・民生委員の実態調査にあわせ新任の民生委員宅への訪問や民生委員の定例会に出席し、地域のニーズの把握や、各種情報提供を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンターの周知活動にて自前作成の広報誌を毎月、サロンやイベント参加時のほか、いきいきセンターや自治会等へ配架を継続した結果、新規相談は増えている。しかし重点活動であげていた、長作町東急地区では、サロンや地域の集まり等含めコロナ禍を理由に再開できていない事、また会長との毎月面談と広報誌を自治会配架、緊急通報システムや災害時などの要援護者リスト作り等の単なる情報提供のみとなってしまう、これといった取組みが進まなかった。 ・R4年12月の民生委員の改選にともないメンバーの変更があった。213地区についてはR5年1月より定例会議に毎月参加し、圏域内の相談事例を挙げて相談内容の傾向と対策を共有する事で、地域の支援に繋げている。		
年度総括	自己評価	D	自己評価を選択した理由	重点活動で上げていた地区についても、自治会長との毎月面談と広報誌配架、情報提供のみにて、取組みが進まなかった。民生委員と相談傾向と対応を共有する事で、対象者が困り果ててしまう前に相談に結びつける事ができると考えて対応しているが、まだ始めたばかりでもある為、D評価とした。
	次年度に向けた展望	・引き続き東急地区を重点活動とし、サロン等の再開支援を含め、出張相談や介護予防に関する講座などの開催に繋げて行く為の計画を自治会長や地域支援者と立てて実行していく。 ・213地区の民生委員定例会の他、211、212地区の定例会にも毎月参加し、民生委員との継続した関係性構築と併せ、圏域の相談内容傾向と対策、認識の共有を図っていく。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・引き続きセンター前の掲示板を活用し、権利擁護に係る広報誌を配下し、注意喚起に努めた。 ・虐待ケースを4件把握、高齢障害支援課と連携し終結に向け適切に対応することができた。 ・区社会福祉士会議を継続開催、関連機関である生活自立・仕事相談センターとの意見交換会を計画した。 ・地域住人や企業に対して認知症サポーター養成講座を計3回開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・千葉市高齢者虐待防止マニュアルに則り虐待疑いの相談や虐待の通報を受けた際は、速やかに対応を心がけ、虐待ケース（疑い含む）を18件確認し、高齢障害支援課と連携し終結に向け対応中。 ・作新小学校の認知症サポーター養成講座（キッズ認サポ）は開催できたが、出張講座等の啓発活動まではできずなかった。しかし注意喚起や権利擁護利用促進の目的でセンター前の掲示板に権利擁護関係の広報誌や情報を掲示した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	区社会福祉士会の研修の参加、虐待（疑い含む）対応については速やかに高齢障害支援課と連携を図り対応を進める事ができ、権利擁護に関わる普及啓発活動では、認知症サポーター養成講座を地域住民に向け開催できたが、出張講座等の啓発活動の取り組みまでは至らなかった。そのため「C」とした。
	次年度に向けた展望	・高齢者虐待の予防と早期発見、消費者被害などを未然に防ぐための取組み、成年後見制度利用促進を含めて地域から高齢者や介護者を孤立させないように取り組んでいく。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域別の多職種連携会議（テーマ：医療依存度の高い独居認知症高齢者）をハイブリッド形式で初開催。 ・圏域別の主任ケアマネの会で、ケアマネージャーの資質向上につながる研修会開催に向けての事前アンケート調査を実施。 ・年4回の花見川団地地域ケア会議を計画し、6月・9月2回終了。団地における支援事例の提供を共有し、協力体制の再確認を行った。他、各団体の動きを共有し連携強化につなげた。		
	後期	具体的な取り組み状況	・区内多職種連携会議（テーマ：カスタマーハラスメント）を前期と同様ハイブリット形式で開催した。 ・前期で行った圏域別主任ケアマネージャーの会にて、前期でアンケートを実施・集計し、その結果をケアマネージャーへ周知するため千葉市と協働しQ＆A集を作成していく予定で取組み中。 ・花見川団地の地域ケア会議は、12月に実施、3月31日に4回目を予定。団地内での相談事例をもとに共通認識を図った。また、経済的問題や8050問題のケースもある事より、生活自立・仕事相談センター、障害者基幹相談支援センターへ参加を呼びかけ、3月の会議より参加となる。	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	花見川団地地域ケア会議を開催し事例を通じて民生委員、地域支援者等と協力体制の構築を検討する等の事を進めているが、コロナ禍で高齢者の集まりの減少から見守りの機会が失われた事等含め、課題が少しずつ見えはじめた年度でもあったが、ではどう対応をしていくのかまでの具体的な話までは詰められてはいないため「C」とした。
	次年度に向けた展望	・花見川団地の地域ケア会議を次年度も継続し、高齢者の支援、対応の協議や地域課題を共有し、地域づくりに関わってきたい。 ・地域の介護支援専門員の資質向上を図る為、企画運営を継続していく。 ・各種会議や研修会を通じて、関係機関との連携やネットワーク構築を進めていく。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・介護予防に資する広報誌作成を毎月継続している。また、ラジオ体操参加者や自治会やいきいきセンター等、新たに配布場所を増やすなど、普及啓発を拡大している。 ・センター主催のラジオ体操の周知活動を強化し延べ利用者数の増加に至っている。（4月74名→8月260名）また、参加者へ参加状況や健康等の管理をする目的にて「いきいき活動手帳」を配布している。さらに、体力管理の一環として、握力測定会も実施した。		
	後期	具体的な取り組み状況	介護予防を主とした広報誌の配布では、サロンや体操教室等の高齢者の集いに参加した際やラジオ体操参加者には配布を継続し、後期から花見川団地住宅自治会、花見川いきいきセンターやUR千葉住まいセンター、花見川公民館等へあんしんケアセンター周知活動も含めて配布をした。また、いきいきセンターから講演会の依頼を受け、地域住民を対象に介護保険制度の説明をした。その他URからも講演会の依頼を受け、あんしんケアセンター紹介と活動報告、介護予防を目的とした運動を実施した。圏域内の参加実績ではサロンは20件、体操教室などでは28件参加とラジオ体操参加者は2月末までの段階で延べ利用者が2,000名を超えた。	
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	可能な限り、地域内で行われているサロンや体操教室、イベントなどへ参加し、介護予防普及啓発や活動支援を行い、参加者をはじめ地域関係者との関係性の構築に繋がったが、それが実際どの程度効果があったのか、また関わりの持っていない方へのアプローチを課題と考えた事から「C」とした
	次年度に向けた展望	地域の高齢者がフレイルに陥らないようセルフケア・セルフマネジメントの知識の普及啓発に取り組む中で、既存の活動以外にも生活支援コーディネーターや健康課等とも連携し高齢者の活動の場を広げて行く取組みを進めていく。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンターさつきが丘			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		1.相談件数が圏域の半数近くを占めるさつきが丘地区では、大規模団地であるさつきが丘団地からの相談が増え続けている。特にURさつきが丘団地においては、近年、独居高齢者の認知症や精神疾患の他、金銭面や身元保証人がいない等でトラブルになるケースが度々あり、URさつきが丘団地管理事務所からの相談も増えている。また、分譲・賃貸問わずに独居高齢者が多いため、訪問時に孤独死に至っていることがある。 2.犢橋地区（犢橋町・三角町・千種町）においては、交通機関が不便であり、遠方への外出時にはタクシーで移動する高齢者が多い。また、住宅の点在化により、高齢者の孤立が目立つ。また、犢橋地区にて最も相談が多い千種町においては、8050問題を中心に相談内容が複雑化することが増えている。 3.宮野木台4丁目においては、外出時に坂道が多く、転倒するリスクがある。また、転倒や体力の消耗を避けるために閉じこもりになる高齢者がいる。			
活動方針 （総合）		・相談が複雑化しているケースについては、必要時に行政機関と連携し、課題解決を図る。また、孤独死問題については、引き続き民生委員や町内自治会と連携し、安否確認体制を強化する。特に町内自治会とは、顔の見える関係となる必要があるため、会合への出席頻度を増やす。 ・犢橋地区の交通問題と住宅の点在化問題については、前年度に課題解決できた事項もあるため、時間を費やしながらか課題解決に向けて、役割の一旦を担う。 ・外出環境問題については、地域の諸団体の意向も踏まえつつ、地域ケア会議を開催する。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・包括3職種が各々の役割を遂行し、特に後期は多岐にわたる活動を行うことができた。 ・生活相談会や出張講座の依頼が増え、事業所の周知活動が実を結び始めた。 ・事業所の活動として、初めて認知症徘徊模擬訓練を行うことができた。 ・コロナ禍もあり、自粛していた地域課題の地域ケア会議を約3年半ぶりに開催することができた。 ・事業所主催の犢橋公民館介護予防出張教室について、参加者の人数が伸び悩んだ。	
	次年度に向けた展望	・第1号介護予防支援に対する取り組みが不足しているため、第2層生活支援コーディネーターとの連携強化を図る。 ・今年度発行できなかった「あんしんさつきが丘便り」を新たに発行する。便りの主な内容は介護予防に関することとする。 ・認知症高齢者が増え続ける中、制度の利用や講座を行う他、2回目の認知症徘徊模擬訓練などを行うことにより、認知症施策を強化する。 ・第2層生活支援コーディネーターと協働し、事業所主催の教室を犢橋公民館だけでなく、さつきが丘公民館においても定期開催を目指す。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・要支援認定者については直営での対応がほとんどであるため、管理者（主任介護支援専門員）より他の包括3職種やプランナーに対し、インフォーマルサービスを位置付けたケアプランを作成するよう指導を行った。 ・第2層生活支援コーディネーターと協働し、住民主体の場に関する情報量を増やすことで、自立支援に繋がった。 ・住民主体の場に参加する際にはチラシを配布し、特に介護予防に関連するチラシを配布することで周知活動を行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・要支援認定者について、直営ケースだけでなく、委託のケースにおいても、評価表にインフォーマルサービスの位置付けたケアプランの作成をするようコメントし、指導を行った。 ・地域の介護支援専門員に対し、住民主体サービスの重要性について、必要時に説明を行った。 ・第2層生活支援コーディネーターと協働し、住民主体サービスに関する情報提供を行うことで、自立支援に繋がった。 ・地域活動に参加する際には、ほぼ毎回チラシを配布することで、介護予防に関する周知を広げた。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・第2層生活支援コーディネーターが配置されたことにより、住民主体の場への情報量が増え、総合相談にて情報提供することが増えた。また、実際に住民主体の場へ通う高齢者が増えた。 ・直営、委託ケース問わずにケアプランへのインフォーマルサービスの位置付けが少なかった。 ・新たな「あんしんさつきが丘便り」の発行に至らなかった。	
	次年度に向けた展望	・第2層生活支援コーディネーターと協働し、地域の高齢者や介護支援専門員に対し、インフォーマルサービスへの意識付けを高めていただく。また、当事業所より、住民主体の場を中心としたインフォーマルサービスの情報提供を発信する。 ・「あんしんさつきが丘便り」について、介護予防に関することが中心であるが、内容は口腔や栄養に関することを主とする。また、「あんしんさつきが丘便り」も含めたチラシについては、地域活動参加の際には必ず配布する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・毎月の包括3職種会議にて、継続相談が多いケース確認と継続、終結の進捗管理を行い、業務の効率化に繋がった。 ・困難ケースについては、事業所内で野中式事例検討会を開催し、多職種による意見交換から課題解決に繋がった他、行政機関とも適宜連携を図った。その他、区障害者基幹相談支援センターと連携したケースは3件であった。 ・民生委員から相談が多かったが、訪問して課題解決を図ることで信頼関係を深めた。		
後期	具体的な取り組み状況	・毎月の包括3職種会議にて、継続相談が多いケースの確認を行った。また、適宜相談ケースの継続、終結の進捗管理を行い、業務の効率化に繋がった。 ・困難ケースについては、適宜包括3職種間で事例検討を行い、多職種による意見交換から課題解決に繋がった他、行政機関とも適宜連携を図った。その他、生活自立・仕事相談センター（花見川と稲毛）と連携したケースが5件、区障害者基幹支援センターと連携したケースが2件あった。 ・事業所作成の安否確認リストに掲載されている高齢者に対し、訪問や電話の頻度を増やすことで支援を手厚くした。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・包括3職種の人員変更があったものの、期間を設けて引き継ぎを行ったため、後任は滞りなく相談対応を行うことができた。また、困難ケースに対応することで、年々スキルアップは図れている。 ・事業所だけでは解決できないケースについては、各種関係機関と連携し、課題解決に繋がった。 ・終活について、地域住民向けの講座などを行うことができなかった。 ・家族支援について、包括3職種間で支援内容などに差があった。
	次年度に向けた展望	・包括3職種の更なるスキルアップを図り、多様かつ複雑化した相談においても、全員が対応できるようになる。 ・困難ケースについては、その都度野中式事例検討会を行い、包括3職種全員で課題解決策を検討する。 ・安否確認リストに掲載されている高齢者について、高齢者個々で緊急時の対応を決めておく。 ・終活や家族支援を重視し、終活については講座、家族支援については包括3職種全員がアセスメント力を身に付ける。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・高齢者虐待が疑われるケース3件に対し、行政機関や医療機関と連携して支援を行った。 ・金銭管理が困難な高齢者に対し、成年後見制度に5件、日常生活自立支援事業に1件繋がった。 ・アルソック警備保障(株)において、6/16（木）と6/28（火）の計2回、認知症サポーター養成講座を開催した。 ・認知症地域支援推進員1名は、認知症サポーター養成講座スキルアップ講座班の活動に参加した。		
後期	具体的な取り組み状況	・高齢者虐待が疑われるケース2件に対し、行政機関と連携して支援を行った。 ・金銭管理が困難な高齢者に対し、成年後見制度に2件繋がった。 ・事業所主催の犢橋公民館出張介護予防教室において、11/24（木）に認知症サポーター養成講座を開催した。 ・さつきが丘宮野木台地区部会より相談を受け、12/3（土）の認知症フォーラムにて講座を行った。 ・あんしんケアセンターこてはし台と協働し、12/17（土）に花見川いきいきプラザにて認知症徘徊模擬訓練を行った。 ・12/16（金）に法人内の居宅介護支援事業所とあんしんケアセンター合同で高齢者虐待の研修を行った。 ・1/17（火）に事業所内で消費者被害についての勉強会を行った。 ・区認知症初期集中支援チームへ2件依頼し、連携して認知症高齢者の支援を行った。 ・認知症地域支援推進員2名は、認知症サポーター養成講座スキルアップ講座班と認知症見守り班の活動に参加した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・高齢者虐待、成年後見制度、日常生活自立支援事業については、各種関係機関と連携し、適切な支援に繋ぐことができた。また、消費者被害についても、関係機関に繋がった。 ・認知症フォーラムについては、アンケート結果より好評をいただくことができた。 ・事業所として初めて認知症徘徊模擬訓練を行うことができた。 ・権利擁護に関する出張講座や内部研修を複数回行うことができた。
	次年度に向けた展望	・各種関係機関と連携し、成年後見制度及び日常生活自立支援事業の利用促進、普及啓発活動を行う。 ・高齢者虐待の発生を見落とすことがないよう、高齢者虐待に関する周知活動を行う。 ・成年後見制度、高齢者虐待、消費者被害に関する個々のスキルアップを図るため、内部研修を充実させる。 ・権利擁護に関する地域住民向けの講座を今年度以上に行う。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・地域の介護支援専門員より相談を受け、6/27(月) に個別課題の地域ケア会議を開催した。出席者は11名であった。 ・あんしんケアセンターにれの木台と協働し、8/2 (火) に多職種連携会議を開催した。出席者は18名であった。 ・第2層生活支援コーディネーターとサービス事業所と共に、9/1 (木) に自立促進ケア会議に出席した。 ・あんしんケアセンターにれの木台と協働し、地域の介護支援専門員に対する後方支援として、圏域内ケアマネの会を2回開催した。		
	具体的な取り組み状況	・第2層生活支援コーディネーターとサービス事業所と共に、12/2 (金) に自立促進ケア会議に出席した。 ・区内のあんしんケアセンターと協働し、2/14 (木) に多職種連携会議を開催した。 ・2/24 (金) に今年度の重点的活動地域としていた宮野木台4丁目にて、地域課題の地域ケア会議を開催した。出席者は16名であった。 ・11月に圏域内の居宅介護支援事業所(9ヵ所)を訪問し、管理者の介護支援専門員と面談を行った。 ・あんしんケアセンターにれの木台と協働し、地域の介護支援専門員に対する後方支援として、圏域内ケアマネの会を2回開催した。また、圏域内ケアマネの会にて、介護支援専門員同士が気軽に連絡を取り合えるよう、橋渡し役となった。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・第2層生活支援コーディネーター配置により、地域のネットワーク拡大が図れ、地域の高齢者支援を手厚くすることができた。 ・事業所主催にて、個別課題、地域課題の地域ケア会議を各1回ずつ行うことができた。 ・圏域内ケアマネの会や居宅介護支援事業所訪問を行い、地域の介護支援専門員に対する後方支援を強化することができた。また、適宜介護支援専門員からの相談対応を行い、必要時には同行訪問した。
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターとの連携し、地域の諸団体に対する支援を強化する。 ・個別課題、地域課題問わずに地域ケア会議の回数頻度を増やす。 ・地域の介護支援専門員に対する後方支援を強化する。圏域内だけでなく、幅広く後方支援を行うこととする。また、圏域内外問わずに介護支援専門員同士が顔の見える関係構築が行えるよう、引き続き橋渡し役にもなる。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・6/30 (木) に開催されたさつきが丘いきいきセンター健康フェスティバルに参加し、地域高齢者への生活相談を行った。 ・さつきが丘いきいきセンターより依頼を受け、7/7 (木) に生活相談会を行った。 ・さつきが丘いきいきセンターとさつきが丘、宮野木台地区部会より出張講座の依頼があり、講師を務めた。 ・花見川いきいきプラザと第1,2層生活支援コーディネーターと連携し、7/19 (木) に買い物支援を試行した。 ・地域の高齢者に対し、5/20 (金) にURさつきが丘団地と共催にてイベントを行った。 ・新たな取り組みとして、8月より月1回、事業所主催にて犢橋公民館において出張介護予防教室を開催した。		
	具体的な取り組み状況	・10/19 (水) 花見川いきいきプラザ、12/14 (水) さつきが丘いきいきセンターにて開催された健康フェスティバルに参加し、地域高齢者への生活相談を行った。 ・花見川いきいきプラザより依頼を受け、10/27 (木) に介護予防に関する出張講座を行った。 ・URさつきが丘団地との共催イベントにおいて、11/18 (金) に介護予防に関する出張講座を行った。また、3/17 (金) にも共催イベントを行う予定である。 ・明治安田生命と協働し、講座や健康チェックなどの介護予防に関する内容の企画を行い、2/17 (金) にイベントを共催した。 ・花見川いきいきプラザと第1,2層生活支援コーディネーターと連携し、11/15 (火) に買い物支援を試行した。 ・花見川いきいきプラザ、さつきが丘いきいきセンターより依頼を受け、生活相談会を計3回行った。 ・事業所主催にて月1回、犢橋公民館において出張介護予防教室を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・計3回の健康フェスティバルにて、いきいき活動手帳を数多く配布し、普及啓発活動を行った。 ・介護予防に関する出張講座を計4回行うことができた。 ・前年度に引き続き、2回の買い物支援に協力することができた。 ・依頼を受けた生活相談会については、相談者が多く、事業所の周知にも繋げることができた。 ・犢橋公民館出張介護予防教室については、参加者が少なく、顔ぶれもほぼ同じであった。
	次年度に向けた展望	・依頼があった健康フェスティバルや生活相談会、出張講座は全て引き受ける。 ・買い物支援について、今後は当事業所が窓口となるため、定期運行に向けて第2層生活支援コーディネーターと協働する。 ・犢橋公民館出張介護予防教室の参加者を増やすために、犢橋公民館周辺の高齢者に対し、アンケートを行う。また、多くの参加者が見込めるさつきが丘公民館においても、教室開催を検討する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンターにれの木台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・圏域内の高齢化率は35.4%、介護保険認定者率は14.42%。 ・UR「にれの木台団地」や「西小中台団地」はEVなしの大規模な団地。どちらの団地も建設当初からの入居者が多く住み、独居や高齢者世帯が増えている。高齢化率40%を越えており、介護予防の普及啓発活動や認知症予防についての活動、集いの場の周知活動や新規開拓など必要性を感じている。 ・朝日ヶ丘1丁目～3丁目、5丁目は事務所から比較的近く、相談件数も多い。民生委員からの情報も多い地区。 ・宮野木台1丁目は高台の戸建てと低層のマンションやアパートが混在している地域。 ・圏域の約半分の面積を有する畑地区は古くからの集落に加え新興住宅も増加している。広範囲に農地が広がり人口密度も低い地域。徒歩圏内にスーパーや商業施設がなく、バスを利用するには坂道や細い路地を通して大きな街道にでなければならない。足腰が弱ることで外出意欲が低下する可能性がある。高齢化率は30.2%とそれほど高くはないが介護保険認定者が多く要介護認定の割合が19.4%と高くなっている。			
活動方針 (総合)		・あんしんケアセンターの周知活動の継続。 ・高齢者が支援を受けながらも住み慣れた地域でその人らしい生活ができるよう医療、介護、福祉の連携を図る ・センターだけでは解決困難な課題に対しては、行政機関や関連機関と連携を図り対応していく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	自治会関係者や民生委員などとの顔の見える関係性ができ、あんしんケアセンターの周知がされてきている。相談件数も年々多くなっている。 研修や会議、個別ケア会議などを開催し、行政や関係機関とのネットワークの構築が図れた。	
	次年度に向けた展望	・引き続き関係機関とのネットワークの構築を強化していく。 ・生活支援コーディネーターと連携し地域資源の把握や利用状況、シニアリーダー体操の新規立ち上げや認知症カフェ立ち上げに対する後方支援を行う。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・定期的に基本チェックリストを行い利用者本人が自己の目標を明確にできるよう支援を行った。 ・生活機能低下の要因や背景をアセスメントし、課題を整理したうえで個々の状況に合わせたサービス利用に繋がった。 ・生活支援コーディネーターや職員間での情報共有を図り、利用者にフォーマル、インフォーマルサービスに関する情報提供を行った。 ・自立促進ケア会議に事例提供を行い、専門職からの助言を受け事例の検討を行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・生活機能低下の要因や背景をアセスメントし、課題を整理したうえで個々の状況に合わせたサービス利用に繋がった。 ・ケアプラン作成時には介護保険サービスだけでなく住民主体の通いの場やインフォーマルサービスの情報提供を行った。 ・生活支援コーディネーターと連携し地域のゴミ出し支援などの情報を収集し、ケアマネージャーに情報提供を行った。 ・自立促進ケア会議での事例に関して専門職からの助言をセンター内で共有して知識を深めた。			
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・高齢者が抱える課題の整理を行い個々の状況に合わせたサービスにつなげることができた。 ・生活支援コーディネーターと連携しインフォーマルサービスを位置付けることができた。 ・介護支援専門員に地域資源の情報発信ができた。	
	次年度に向けた展望	・住民主体の集いの場やインフォーマルサービスについて生活支援コーディネーターと連携し情報収集を行う ・集いの場やインフォーマルサービス情報や生活支援サイトの活用など住民や委託の居宅介護支援事業所にも情報提供を行う。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・畑地区へのあんしんケアセンターの周知活動の実施（11/18） ・引き続き自治会や民生委員との連携を図り周知活動を行う。 ・包括3職種でのケース検討会の継続と、研修会に参加し個々のスキルアップを図る ・西小中台の出張相談所の周知活動を継続していく。		
後期	具体的な取り組み状況	・初回相談や困難ケース相談に関して複数での対応をおこない、包括3職種間で情報共有を図り対応した。 ・複合的なケースにも対応できるようスキルアップに向け研修に参加し知識を深めた。 ・民生委員の会や自治会の活動に参加し地域の実態把握に努めた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・初回相談や困難ケース相談に対して複数で対応できた。 ・困難事例に関して事業所内でタイムリーに情報共有が行えた。 ・高齢障害支援課や自治会、民生委員などの関係機関と連携して対応ができた。 ・生活支援コーディネーターが収集した情報を相談者に発信することができた。
	次年度に向けた展望	・引き続きあんしんケアセンターの周知活動を行う。 ・初回相談、困難ケース相談に関しては今後も複数での対応を継続する。 ・所内会議を活用し困難事例ケースの情報共有や方針の共有を図る。 ・センターだけでは解決できない相談には関係機関と連携し対応する。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・認知症で日常生活に支障をきたしている方を、病院受診や社会援護課など関係機関へ繋げた。 ・認知症のため日常生活に支障をきたしている方を、関係機関と連携し、成年後見制度へ繋げた。 ・企業や小学校で、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に対する理解を深めた。 ・区内の社会福祉士会議に参加し、権利擁護ケース検討を行い、またセンター内で情報の共有を図った。		
後期	具体的な取り組み状況	・203地区部会の方を対象に認知症サポーター養成講座を開催し認知症に対する知識を深め対応方法を広めた。 ・畑小学校でキッズ認知症サポーター養成講座を開催した。 ・みかんの会に所属し認知症カフェ班や若年性認知症班に所属しチーム員として活動を行った。 ・多職種連携会議を開催し、関係機関にカスタマーハラスメントについての対応について情報提供を行った。 ・認知症初期集中支援チーム員会議に参加し意見交換を行った。 ・虐待疑いのケースに関しては高齢障害支援課と連携して対応した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・小学生や民生委員に向け認知症サポーター養成講座を開催できた。 ・みかんの会にも積極的に参加出来た。 ・地域の集いの場や民生委員の会などで消費者詐欺や特殊詐欺の発生状況の発信をした。
	次年度に向けた展望	・消費者被害や詐欺被害防止に向け関係機関と連携し注意喚起や対策についての周知活動を行う。 ・虐待の予防、早期発見のため関係機関との連携を図る。 ・成年後見制度や日常生活自立支援事業について周知活動を行う。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・地域の介護支援専門員に向け定期的に勉強会を開催し介護支援専門員のスキルアップを図った。 ・さつきが丘圏域と連携し多職種連携会議をZOOM開催し意見交換を行い医療や介護、行政とのネットワーク構築を図った。 ・区内のセンターと協力し合同連絡会を開催し、委託先の介護支援専門員に情報提供を行った。 ・個別困難事例に対し地域ケア会議を実施し、今後の支援に対する助言・協力を行った。 ・区内の主任ケアマネの会で事例検討会を行いスキルアップを図った。		
後期	具体的な取り組み状況	・圏域内（にれの木台・さつきが丘）の主任介護支援専門員と連携を図れるよう支援体制を整えた。 ・困難事例に関して個別ケア会議を開催して情報の共有や支援方針の確認を行った。 ・困難ケースに対し同行訪問を行い利用者情報やサービス状況の確認をおこない後方支援を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・相談しやすい関係性ができ、同行訪問や個別ケア会議を開催し問題解決に向け支援が出来た。 ・介護支援専門員同志の横のつながりができるような仕組みづくりが出来た。 ・連携の会に関するアンケートを実施し介護支援専門員のニーズを把握した。
	次年度に向けた展望	・アンケート結果をもとに定期的な勉強会の開催や情報交換の会を定期的に開催する。（さつきが丘と共同開催） ・ケアマネジメント業務に必要な研修に参加しスキルアップを図る。 ・多職種連携会議を開催し、関係機関とのネットワーク構築を支援する。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・地域住民に向け毎朝（月～金）にラジオ体操を継続して実施した。ラジオ体操参加者に体力測定を行いセルフケアの必要性を伝えた。 ・にれの木台健康教室、西小中台健康教室で、健康課や地域の薬剤師などと連携し、健康に関する情報提供や体操を行った。 ・生活支援コーディネーターと連携し、総合相談利用者や地域住民に対して、シニアリーダー体操や地域で実施している集いの場の情報提供を行った。 ・西小中台の敬老会で、セルフケアの必要性を説明し、体操を行った。 ・自治会が開催している集いの場に参加し、自治会との関係性を深めた。		
後期	具体的な取り組み状況	・事務所前で実施しているラジオ体操を継続して行った。 ・にれの木台健康教室や西小中台健康教室を定期的に開催し介護予防に関する講話や運動を行い地域住民にセルフケアの必要性を発信した。 ・自主活動組織やシニアリーダー体操教室の継続支援や、総合相談者などへ情報の提供を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・ラジオ体操や健康教室など少しずつ参加者も増え介護予防に関する意識の向上が図れてきている。 ・自主組織やシニアリーダー体操教室関係者と関係性が深まった。
	次年度に向けた展望	・シニアリーダー体操教室の新規立ち上げ支援を行う。 ・ラジオ体操や健康教室などの継続して行い介護予防普及啓発を行う。 ・介護予防普及啓発活動時にいきいき活動手帳を配布してセルフケアの必要性を発信していく。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター花園		
担当圏域 地区概況及び 地区課題		JR新検見川駅に近い南北に広がる地域。比較的交通の便は良く、東京のベッドタウンとして40年以上前に建てられた住宅が多い。独居や高齢者世帯も多く、地域によっては住民同士の関係性が希薄である。高齢化率も上がっている為、認知症や高齢者サービス等の周知活動が必要である。また、地域活動の場所はあるが、駅周辺の交通の便が良いところに集中しており、周辺部に行くにしたがって、坂が多く道幅が狭い箇所もあり移動手段が限られてしまう。そのため活動を利用したくても利用できない地区もある。		
活動方針 (総合)		地域住民が安心して地域に住み続けられるように、地域組織や関係機関との連携を大事にしていく。住民組織やサロン、地域住民の方と話す機会を継続的に持ち、それぞれの問題点や意向を確認しながら活動していく。新型コロナウイルスの影響で対面が難しい状況もある為、対面以外での連絡方法を活用していく。		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	コロナ禍であり、住民組織やサロンなどへの参加、対話の機会は限られていたが、感染対策を注意しながら参加してきた。民生委員との関係を大切にし、地域高齢者からの様々な問題を関係機関と連携しながら対応、解決してきた。
	次年度に向けた展望	・地域住民が安心して地域に住み続けられるように、民生委員や自治会、その他の関係機関と連携を図る。 ・あんしんケアセンターの業務内容の周知を行い、介護予防につながる活動に努める。 ・住民組織やサロン、地域住民の方と話す機会を継続的に持ち、それぞれの問題点や意向を確認しながら活動していく。 ・感染対策をしつつ、活動の場を増やす。		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	・7月から選任された生活支援コーディネーターと共に、新たな地域のニーズや社会資源の把握のため、各種サークルや活動の会場となっている施設を、実際に見学した。集積した情報を、個々の支援につなげられるよう、整理している。 ・情報収集を行い、個々の状況に応じて適切なフォーマル・インフォーマルサービスを提案し、包括的・効果的につなげられるよう支援を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・地域のニーズや社会資源の把握を行い、個々の支援の活用にも努めた。 ・適切なフォーマル・インフォーマルサービスを提案し、包括的・効果的につなげられるよう相談・支援を行った。		
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	適切なフォーマル・インフォーマルサービスを提案し、包括的・効果的に利用できるよう相談・支援を行った。
	次年度に向けた展望	・引き続き介護予防や地域のニーズを把握し、支援を行っていく。 ・新しい情報を収集し、センター内での共有、必要な方々への情報提供を積極的に行っていく。		

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・新規相談は迅速な対応と対面支援を心掛けた。家庭訪問を可能な限り実施することで、相談者の訴えだけにとらわれず生活環境全般を含めた課題の把握に努めた。 ・緊急性の高い相談や多種多様な相談に関しては、高齢障害支援課をはじめとした各関係機関への相談、連携を図り問題解決に努めた。 ・毎朝の朝礼時間で、支援中のケースについて、包括3職種で進捗と方針を共有した。 ・研修への参加、ケースの共有を通して、スタッフの質の向上を図ってきた。		
		・相談があった際は、きちんと受けとめ関係機関との連携や適切な窓口へとつなげた。 ・主に訪問による相談を実施しているが、本人家族の意向に沿い来所での相談対応を行った。 ・ケースに応じ、複数名で対応することで、迅速かつ適切な支援を行うことができた。 ・毎朝の朝礼時に、支援中のケースの相談、状況を報告することで、包括 3 職種内の情報共有と適切な支援ができた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・丁寧な対応を心掛け、ワンストップ窓口としての役割を担うことができた。 ・ケースに応じて複数名での訪問、対応と、高齢障害支援課をはじめとする各関係機関との連携に努めた。 ・所内会議を利用しての事例検討や振り返りができなかった。
	次年度に向けた展望	・引き続き、訪問を基本とした総合相談支援を行っていく。 ・包括 3 職種がどのケースでも対応ができるよう、スキルアップを図る。 ・所内会議でのケースの振り返り、事例検討について、職員が負担なく話せる場として活用できるようにする。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・権利侵害を防ぐため、地域ケア会議を実施し、必要に応じて成年後見制度や日常生活自立支援事業の提案、利用につなげることができた。 ・法人内での虐待研修の講師を行うことで、虐待の定義やプロセスを再度確認し、専門職としての力量につなげることができた。 ・虐待が疑われるケースは早期に相談、報告、情報共有し迅速に対応した。 ・コロナの流行が落ち着かず、地域住民を対象とした権利擁護に関する普及啓発活動の着手はできなかった。		
		・成年後見制度が必要な方々に制度説明を行ってきた。具体的に申請に至ったケースは2ケースだったが、制度や手続きの説明、窓口の紹介を行ったケースは、数件あった。 ・虐待のケースはなかったが、常に早期発見できる視点を持って相談援助を行ってきた。また、虐待が疑われるケースに関しては、複数でケースを検討し、高齢障害支援課と情報共有し、相談を行ってきた。虐待に関する研修に複数の職員が参加した。 ・消費者被害に関する情報をシニアリーダー体操、自治活動組織の中で提供し、注意喚起を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	成年後見制度の利用について支援することができた。 権利擁護に関する普及啓発活動の着手ができなかった。 権利擁護に関する研修に参加し、専門職としての学習を行った。
	次年度に向けた展望	・引き続き、高齢者の権利侵害を予防し、専門職としての力量を付けるよう研修や事例検討を行っていく。 ・成年後見制度や日常生活自立支援事業等を積極的に活用し、高齢者の権利侵害を予防する。 ・研修および事例検討を通じ、虐待の定義や対応プロセスなどを再度確認し、専門職としての力量を付ける。 ・虐待が疑われるケースは早期に高齢障害支援課と情報共有し、その関係機関と協議、対応を行う。 ・地域住民に対し、高齢者虐待および消費者被害の防止と早期発見を目的とした普及啓発活動を行う。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・包括、区、圏域内の主ケアマネの会を2カ月に1回開催、参加をし、センター間での情報共有を図ることができた。 ・圏域の居宅事業所に対しての年度初めの訪問は、一部の事業所に対して実施した。訪問ができなかった事業所は、電話や資料を送り、情報交換を実施した。 ・感染対策を講じ、圏域内のケアマネと対面での会議が、徐々に開催できるようになった。		
後期	具体的な取り組み状況	・前期と同様に、対面での包括、区、圏域内の主任ケアマネの会を2カ月に1回開催・参加をし、勉強会や情報共有を図った。 ・圏域の居宅事業所に対しては、対面や電話でのニーズや困り事の把握を務め、困難ケースでは連携をし対応することができた。 ・2月14日には、区が多職種連携会議をハイブリット方式で開催した。 ・運営目標である近隣の問題点や課題把握、社会資源や、地域課題に対する情報交換については、7月から生活支援コーディネーターが配置された後、生活支援コーディネーターが中心となり活動し、共に情報交換を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・定期的な対面での主任ケアマネの会の開催が定着し、スムーズに情報交換を行うことができた。 ・10月4日は幕張、花園圏域。2月14日は花見川区全体で多職種連携会議の企画や開催を行うことができた。
	次年度に向けた展望	・引き続き、包括、区圏域の主任ケアマネの会、合同連絡会の開催・参加を積極的に行う。 ・地域のケアマネジャーとの連携を深め、定期的な情報交換を行う。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・民生委員役員及び協力員とで発足している「陽だまりの会」にて地域の高齢者の状況や問題点に関して情報交換を1回／月～1回／2か月実施した。 ・社協地区部会とは地域の高齢者の要望の情報を共有し、サロンでの活動内容の拡大の支援を行った。 ・生活支援コーディネーターが地域のサロンや活動の場を再確認し、現場の見学、代表の方から聞き取りを行った。 ・介護予防活動に関しては、体操教室やサロンでの感染症予防の注意喚起を行い、コロナ禍の生活でもできる、フレイル予防等の情報提供を行った。 ・前期には広報誌の発行はできなかった。		
後期	具体的な取り組み状況	・「陽だまりの会」での今年度のふりかえり、次年度の活動予定・後方支援の取り組みに関して3月に打ち合わせを行う。 ・シニアリーダー体操、自治会、老人会、自主活動の活動状況や参加者の変化に関し確認。コロナ感染症や高齢者詐欺、フレイル予防に関して情報発信を行った。 ・健康課と協力し、地域住民への口腔ケア、フレイル予防および食事に関する話を開催した。 ・広報誌に関しては今年度1回のみ発行。大手商店や郵便局へ貼付、自治会回覧板への配布を依頼し、各家庭回覧をしていただいた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・地域の民生委員さんと協力し、地域の問題の情報収集を積極的に行うことはできた。 ・コロナの感染拡大を配慮しつつ、各活動の場に出向き最新情報の提供をすることができたが、その場での相談対応や指導者との情報交換等への積極的関りはできなかった。 ・健康課一体事業と協力し、地域予防への取り組みを行えた。 ・広報誌について年初に4回発行を計画していたが、2回発行した。
	次年度に向けた展望	・自主組織、自治会、老人会に積極的に関与し、フレイル予防や日常生活、介護等の情報発信を行う。 ・健康課一体事業や生活支援コーディネーターと協力し、地域への予防事業を計画していく。 ・いきいき活動手帳の利用に関し、対象者を増やし普及する。 ・今年度できなかった広報誌の定期的な発行を最低年2回実施する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター幕張			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		幕張町から武石町にかけて急速に戸建て住宅が整備され、子育て世代の方々の転入がみられる。一方、古家跡地に単身者用集合住宅が多数建築され、若い単身者の転出入が目立つ。両親の呼び寄せ介護の相談も増加しているが、転入者のあんしんケアセンター認知度は極めて低いと推測される。JR幕張駅北口側の区画整理で駅前スーパーやコンビニが閉店したことにより、日常的な買い物に難儀している高齢者が増えた。1970年代の海岸開発時に整備されたマンション群は、入居者の多くが後期高齢者になっており、親族や近隣住民と疎遠な方々も多い。 令和2年からのコロナ禍において、活動の縮小や受診控えなどによる健康被害もみられる。訪問診療の医療機関が増えてきているが、経済的理由から依頼につながらない場合もある。また、他者交流や支援介入を望まないまま、事態が悪化・困窮して発見につながることもある。			
活動方針 (総合)		1.行政機関や民児協や自治会をはじめ、社協地区部会や自主活動組織と連携し、高齢者が安心して暮らし続けられる環境整備を目指す。 2.地域住民間の顔なじみを増やし、変化への気づきや一声かけられる関係づくりの構築を推進する。 3.相談対象者の意思を繰り返し確認しながら情報提供や理解援助を行い、意思決定支援を意識して対応する。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	D	自己評価を 選択した理由	・前年度同様に、自治会や民生委員等からの相談対応において、以前から気がかりな対象者だったものの、いよいよ事態が深刻化して生命維持の心配が高まったとの連絡が度々あった。対象者が明確に意思表示している状態の時や他者の介入を好まない場合、本人の意に沿わない相談や通報を躊躇する心理がある。早期対応の重要性を周知することが不十分だった。	
	次年度に向 けた展望	・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施にあたり、健康課や生活支援コーディネーターとの情報共有や意見交換の機会を経て、高齢者が通うことができる範囲内に、活動場所や支援団体が存在することの重要性を再認識した。現在の活動者とも協力し、活動回数の増加や分散などについて検討していく必要がある。また、事態が深刻化する前に相談してみようと思える関わりと、生活相談窓口であるあんしんケアセンターの周知活動を継続する。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取 組み状況	・感染予防対策として、訪問時は、短時間もしくは距離を確保した対話を心がけた。説明に時間を要す内容は、文書や手紙などを補足資料として活用し、相談者の理解や意思を確認するよう取り組んだ。 ・日常的な困りごとを詳細に聞き取ることで、セルフケアに関する助言や地域資源の情報提供などを組合せ、介護保険サービス以外の活用を提案しながら、生活課題や困り事の深刻化を招かないような対応を心がけた。			
後期	具体的な取 組み状況	・新型コロナウイルス感染症の感染者数の波を重ねるごとに、高齢者の死亡率が高まっている状況だったことに配慮し、感染予防対策の徹底を心がけた。事業所職員の感染と休職に伴い、サービス事業所の提供体制が一時的に縮小されたり、変更されたりすることもあったが、代替サービスも情報提供しながら、利用者の生活が継続できるよう支援した。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・利用料の負担能力に左右されるが、介護保険サービス以外の千葉市事業や家事代行、通信サービス等の情報提供を行い、利用者の生活が維持できるようサービス調整した。 ・利用者自身の強みや能力維持を意識的に発揮できるようなケアマネジメントを目指し、所内会議でのケース協議や事例検討の機会を設けた。	
	次年度に向 けた展望	・生活支援コーディネーターとともに、千葉市事業や家事代行などの市場サービスの情報収集に努める。 ・コロナ禍前から、特に総合事業のサービス調整が難航することが常態化している。加えて、サービス提供の縮小や廃業等により、再調整が必然になった。地域包括ケア推進課や介護保険事業課と実情を共有しつつ、各事業所への対応の協力を求めるアプローチを継続する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・毎月1回、雨天時以外はセンター前でまちかど相談を実施し、センターパンフレットや注意喚起のチラシ等を配布した。 ・朝礼や毎月の打合せにてケース情報と支援方針などを協議しながら、包括3職種全員がケース概要や進捗をおおよそ把握するように取り組んだ。 ・新任者を中心に、積極的に外部研修へ参加して知識習得に励んだ。		
後期	具体的な取り組み状況	・あんしんケアセンターの周知活動として、毎月1回のまちかど相談と、偶数月の広報紙発行を継続した。 ・当センター敷地内のプランター栽培を継続した。広報紙にも栽培の育成過程を掲載することで、直接の相談者以外にもあんしんケアセンターに興味を持ってもらうきっかけになった。 ・職種を問わず、現任者研修や虐待対応研修を中心に出席し、知識や技術の習得に取り組んだ。		
年度総括	自己評価	D	自己評価を選択した理由	・相談対応件数が増加の一途。月平均件数は、前期6ヶ月は149.8件。後期5ヶ月は205.4件。感染予防対策や行動制限の緩和による地域住民の交流や再開機会の増加とともに、周囲の人々が相談対象者のフレイルや困窮などの変化に気づく場面が発生していると推測され、事態が深刻化する前の早期発見の難しさを感じた。
	次年度に向けた展望	・生命維持の心配が高い状態での相談や孤独死の事例が発生している現状がある。生活相談窓口であるあんしんケアセンターの周知を図るとともに、朝礼や毎月の打合せにおいて、ケース支援の進捗確認や方針を協議し、チーム支援を意識して対応する。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・特殊詐欺被害が過去最悪の状況であることから、千葉県警と千葉市が作成した注意喚起のチラシを相談者やケアマネージャーへ配布した。併せて、センター前掲示板にポスターを貼付したり、広報紙に記事掲載したりして、被害防止対策を呼びかけた。通話録音装置等の購入費助成の千葉市事業を紹介した。 ・新任者2名が虐待研修を受講し、復習をかねて他職員へ伝達講習をした。		
後期	具体的な取り組み状況	・特殊詐欺被害の注意喚起として、居宅介護支援事業所にチラシ配布したり、屋外掲示板にポスター掲示を継続した。 ・花園圏域と共同し、「おひとりさま支援」をテーマに多職種連携会議を開催した。また、6センター合同で「カスタマーハラスメント」をテーマに多職種連携会議を開催し、利用者と支援者の適切な関係構築や配慮すべき点などについて、専門職間で協議する機会を設けた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・職種を限定せず、虐待対応研修を受講した。 ・対象者の意思確認や意思決定支援の重要性を意識し、毎朝の朝礼や毎月の包括3職種・生活支援コーディネーター打合せにて、ケースの進捗確認と支援方針を協議した。 ・精神障害や知的障害のある対象者について、障害者基幹相談支援センターとともに対応した。
	次年度に向けた展望	・緊急連絡先や身元保証人などを依頼できる存在がおらず、本人のみではサービス利用や各種契約が締結できない対象者がいる。対象者の生活保障に関わることも多く、成年後見人制度の利用をはじめ、権利擁護の知識や情報について学習する。 ・認知症サポーター養成講座をツールに、困りごとを抱える対象者への対応姿勢について、地域住民の意識啓発を図る。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・幕張と花園の2センター圏域で事業所アンケートを実施し、今年度は、隔月で主任ケアマネージャー会議を開催することにした。花見川区合同連絡会はオンラインで開催し、操作習得の機会とした。 ・花見川区あんしんケアセンターの主任ケアマネージャー会議では、事例検討会のファシリテーターやミニレクチャーの講師を持ち回りで実施しながら、各自の技術向上に励んだ。		
後期	具体的な取り組み状況	・花園圏域と共同し、圏域主任ケアマネージャー会の隔月開催を継続した。居宅介護支援事業所の後方支援を意識し、各主任介護支援専門員が主体的に会活動が出来るよう役割分担しながら運営した。 ・在宅医療・介護連携支援センターの協力を得ながら、多職種連携会議を開催した。グループワークにて、医療職と介護職がそれぞれの立場から発言しつつ、協議できる場づくりに努めた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・居宅介護支援事業所の状況把握も兼ねて、圏域主任ケアマネージャー会を開催継続した。 ・多職種連携会議では、主任介護支援専門員にグループワークの司会を依頼し、支援者のコーディネートと意見調整などの技術向上の機会とした。 ・6センターの区主任ケアマネージャー会を継続し、介護保険制度の帳票、手続き手順などの確認を共有した。
	次年度に向けた展望	・各専門機関の機能や各職種の役割を理解して多職種連携が図れるよう、各種会議の開催において、職種や職歴を問わず運営できるよう会議企画や運営を輪番で実践する。 ・6センターの区主任ケアマネージャー会と圏域主任ケアマネージャー会を継続し、介護支援専門員とともに地域課題の抽出や課題解決に向けた協議に取り組み、生活支援コーディネーターとの情報共有を図る。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・複数店舗の協力を得て、5月に介護予防相談（健康づくり）の催しを開催した。各店舗に共通イラストを掲示し、居場所やつながりをテーマに来客者へ案内を行い、当センターの周知も図った。 ・月1回程度、シニアリーダー体操教室等の自主活動団体へ訪問し、いきいき活動手帳の配布や活動継続の支援等を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施にあたり、健康課や生活支援コーディネーターとの情報共有や意見交換の機会を持った。圏域内のシニアリーダー体操教室に月1回程度出席し、活動状況の確認と助言やいきいき活動手帳の配布を行った。 ・子ども支援の活動者とともに、公園の有効活用を考える勉強会や一本松公園でのイベントに参加した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・プレーパーク運営者とともに、多世代交流や高齢者が役割を持って参加できる場の検討について、定例会議を開催した。 ・生活支援コーディネーターとともに、老人会などを対象に介護予防に関する出前講座を開催した。自身の暮らしを振り返り、ライフプランニングについて再考する機会を提供した。
	次年度に向けた展望	・高齢者の居場所づくりや生きがいづくりをイメージし、プレーパーク運営者とともに、多世代交流の方法や機会の設定を検討していく。 ・健康管理と介護予防の取り掛かりとして、糖尿病ゼロプロジェクトの取組みを参考に、フレイル予防や病気悪化を防ぐ取組みの意識啓発を行う。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター山王			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		山王町、小深町、六方町は四街道市に隣接した地域で、戸建てが多い。稲毛駅、四街道駅にもバスがでているため交通の便は良い。長沼町、長沼原町はスーパーや商業施設が点在している。長沼町は利便性は高いが、高齢化が進んでおり、長沼原町は農地や工場が多く、利便性の悪い地域もある。宮野木町は高齢化率は低い、75歳以上の高齢者が多い。坂が多いため、移動・買い物などが難しくなる方も多い。柏台、小中台町は集合住宅が多い。小中台町は高齢化率が低く、柏台は高齢化率が高いが、地域コミュニティが機能している。 戸建住宅、集合住宅においても地域コミュニティが機能している地域は多いが、高齢化から支える力が弱くなってきている。自治会のない集合住宅、新型コロナウイルスの影響から地域活動や民生委員の訪問調査の中止など、要支援者の把握が難しい地域がある。			
活動方針 (総合)		地域活動の継続・地域ケア会議の開催などを行い、地域課題の抽出・解決を目指していく。ICTの活用などにより、地域活動を継続し、つながりが保持できるようにしていく。地域活動や会議への積極的な参加や民生委員などとの連携により、要支援者の把握に努めていく。 宮野木出張所においても自治会などと連携し、地域包括ケアシステムの構築を目指していく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	ICTを活用することで、少人数の体操教室から大人数での多職種連携会議まで開催することができた。社会情勢の変化から、地域サロンなども活動が再開し、対面での地域活動支援も再開できた。生活支援コーディネーターを配置することができ、地域資源の把握をより充実させることができた。	
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターと連携することで、地域とのつながりを深め、地域資源の把握や活用を図る。 ・行政や関係機関との連携を図り、地域包括ケアシステムの推進を目指す。 ・ICTにより、会議やイベント、体操教室などの活動が継続できるよう支援する。 ・緊急時の対応などが行える体制を維持し、迅速で適切な対応が行えるよう努める。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・生活支援コーディネーターと連携してインフォーマルサービスの把握に努め、情報提供を行った。 ・千葉市自立促進ケア会議を千葉市と協力して開催し、後期の開催に向けての準備を行った。 ・委託ケースに対して書類等の管理を行い、適切な介護予防ケアマネジメントが行われるようにした。			
後期	具体的な取り組み状況	・生活支援コーディネーターと連携してインフォーマルサービス等の地域情報の把握を継続して行った。 ・行政や稲毛区の主任介護支援専門員と連携して自立促進ケア会議を開催し、自立支援に資するケアマネジメントの実践力の向上を図った。 ・委託ケースに対して必要書類の管理を継続し、適切なケアマネジメントが行われるよう取り組んだ。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・生活支援コーディネーターを配置し、地域資源の情報把握を充実させることができた。 ・千葉市自立促進ケア会議を3回開催した。行政や稲毛区の主任介護支援専門員と協力して運営を行い、参加した介護支援専門員などに対して自立支援に資する介護予防ケアマネジメントへの認識を深めることができた。	
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターなどと連携して地域の情報把握を行い、介護予防・日常生活支援総合事業利用対象者等に対し、適切な情報提供を行えるようにする。 ・行政や稲毛区の主任介護支援専門員と連携して自立促進会議を開催し、地域の介護支援専門員等の自立支援に資する介護予防ケアマネジメントの実践力の向上を目指していく。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・全ての相談に対してスクリーニングを行い、地域課題の抽出に努めた。 ・24時間電話相談を受ける体制を維持した。 ・医療機関や障害者事業所、成年後見支援センター等と会議を通じたネットワーク構築を行い、複合した課題を持ったケースに連携して対応を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・全ての相談に対してスクリーニングを行い、地域課題の抽出に努めた。 ・夜間、休日の電話相談を受ける体制を維持し、緊急時には時間外の訪問対応も行った。 ・関係機関と会議等によるネットワーク構築を行い、複合した課題を持ったケースに対して、会議や同行訪問などの連携した対応を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・夜間、休日における電話相談対応や相談に対するスクリーニングを行う体制を維持し、地区部会や民生委員の会議にて相談における地域分析の情報共有を行うことができた。 ・様々な機関と連携を図り、個別ケースに対してケース会議の開催や同行訪問等の連携した対応を行うことができた。
	次年度に向けた展望	・地域の高齢者の総合相談窓口として、受け付けた相談に対して的確に対応できるよう努めていく。また、複合した課題を持った相談へ対応できるよう、センター内や関係機関との連携を図り、チームアプローチを行う。 ・24時間電話相談を受けられるようにし、緊急性が高いケースに対しては、迅速に対応できる体制を整える。 ・多職種連携会議や地域ケア会議等を開催し、関係機関との連携を図る。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・虐待が疑われるケースに対し、高齢障害支援課などと連携して対応を行った。 ・成年後見制度利用を検討するケースに対し、成年後見支援センターと連携して対応を行った。 ・成年後見支援センターと共催で、リーガルサポート千葉、ばあとなあ千葉、千葉ファミリー相談室などと介護保険事業所を対象とした成年後見制度の研修を2回開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・虐待が疑われるケースに対し、高齢障害支援課や介護支援専門員、生活自立・仕事相談センターなどと連携し対応した。 ・成年後見制度利用が必要と思われるケースに対し、家族や司法書士と制度利用に向けた調整を行った。 ・事例検討会を開催し、関係機関との連携を深めた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・虐待が疑われるケースに対しては、行政や関係機関と連携し、迅速で適切な対応に努めることができた。成年後見支援センターと共催で成年後見制度の研修会を開催し周知を図ることができた。成年後見制度の利用を検討しているケースに対し、関係機関と連携して対応を図り、制度利用につなげることができた。
	次年度に向けた展望	・虐待や支援困難ケースに対し、高齢障害支援課や他関係機関等と連携して、適切で迅速に対応する。 ・権利擁護に関する啓発活動を行う。 ・成年後見制度の周知を図り、必要な人に対して制度利用に向けた支援を行う。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛区のアんしんケアセンター合同で、主任ケアマネジャー会議、ケアマネ研修会、事例検討会の開催とケアマネ通信を発行した。圏域においてもケアマネ連絡会を開催した。 ・支援困難ケースに対して、助言や同行訪問などによる支援を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛区内のアんしんケアセンター合同で、主任ケアマネジャー会議、ケアマネ研修会、事例検討会等の開催とケアマネ通信を発行した。併せて、圏域内においてケアマネ連絡会を開催し、圏域並びに稲毛区の介護支援専門員に対する支援に取り組んだ。 ・支援困難・虐待が疑われるケースに対して、助言や同行訪問などにより支援した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・ICTを活用することで、圏域や稲毛区のアんしんケアセンター合同での会議、研修会などを新型コロナウイルスの感染状況に左右されことなく開催することができた。支援困難・虐待が疑われる個別ケースに対しては、助言や会議の開催、同行訪問などによる支援を行うことができた。
	次年度に向けた展望	・稲毛区内あんしんケアセンター合同で、ケアマネ研修会、主任ケアマネ連絡会、事例検討会等の開催やケアマネ通信を発行する。地域の介護支援専門員に対する情報提供やスキルアップを図る。 ・圏域の介護支援専門員に対するニーズ把握を行い、会議などによる連携や支援を図る。 ・支援困難事例に対して、同行訪問や会議などを通じ、介護支援専門員への指導・助言を行う。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛区のアんしんケアセンター合同で、「終活」をテーマとした介護予防イベント開催に向けて準備を行った。 ・地域活動においては、2ヶ所の公民館で月1回体操教室を開催した。サロンや老人会などで介護予防についての講話、地区部会との共催で終活に向けた講座を開催した。 ・稲毛区のアんしんケアセンター保健師職会議に健康課も参加し、連携を図った。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛区のアんしんケアセンター合同で「終活」をテーマとした介護予防イベントを開催した。 ・地域の認知症カフェの立ち上げと運営支援を行った。 ・ICTを活用し、2ヶ所の公民館での体操教室を継続して開催した。 ・地域のサロンや老人会にて健康講座などを行い、介護予防の普及啓発を図った。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・ICTを活用することで、公民館での体操教室、稲毛区のアんしんケアセンター合同での研修会を新型コロナウイルスの感染状況に左右されることなく開催することができた。体操教室の開催や地域のサロンでの講話などを行い、介護予防の普及啓発を図ることができた。認知症カフェの立ち上げから運営支援を行い、月1回の開催継続につなげることができた。
	次年度に向けた展望	・保健福祉センター等と連携し、効果的な介護予防の推進を目指す。 ・介護予防イベントや体操教室の開催、地域のサロンでの講話などを行い、介護予防の普及啓発に努める。 ・ICTを活用して介護予防イベントや測定会、体操教室などが開催・継続できるような体制を維持する。 ・介護予防を目的として活動する自主グループに対し、運営支援を行う。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター園生			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		イベントや会議などの町内会活動が制限されており、住民同士で交流する機会が減少した。そのため、孤立化や外出減少によるフレイルが心配される。また、認知症と思われる相談業務も増えており認知症の方本人や家族への支援も必要。 圏域内団地の高齢化率が高いのは変わらずだが、それ以外の地域でも昭和40年代頃から建築されたマンションが多く立ち並ぶところでは、住民の高齢化が進み、老々介護世帯も多くなっている。 本人や家族が精神的な障害を抱えているケースも多く、65歳未満の方が第一窓口として相談することも多くなっている。			
活動方針 (総合)		コロナ禍でも社会参加や交流ができるような環境や資源を生活支援コーディネーターとともに育成していく。 高齢者のみならず、どのような相談にも対応できるスキルを職員全員が身につけ、第一窓口として相談者を受け止める。 ICT等のオンライン形式を確立できるようにする。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・社会参加の場、資源の発掘に関しては生活支援コーディネーターが主にはなってしまったが、できる範囲で育成を行うことはできた。また、全職員が自分に足りないスキルを理解し、年間を通じて計画的に研修等に参加することはできた。 相談用のメールアドレスの作成、zoom利用などオンラインでの環境は整えることができた。	
	次年度に向 けた展望	・地域住民が気軽に立ち寄り、安心して相談できる場所を確立していく。 ・民間企業等で行っている高齢者向けサービスを把握するとともに、積極的に連携を図っていくよう努める。 ・どのような相談に対しても「受け止める」ことを大事にするとともに、相談者と同じ目線に立ち進めていくように努める。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取 組み状況	・生活支援コーディネーター、あやめ台いきいきセンターと協力し、認知症予防、終活、生きがいや楽しみを持てる場作りとして、地域交流サロン「アイリス」を立ち上げた。 ・既存の体操教室において区健康課と協力し、運動面以外の介護予防の意識を高めることができるよう、歯科衛生士や栄養士の講話を開催した。			
後期	具体的な取 組み状況	・区全体として、いなげまちづくり研修会をハイブリット形式で開催した。講義とグループワークで地域住民と交流を図ることができた。また、UR都市機構の協力のもと、地域住民に向けて「フレイル予防対策」の講義を行い、社会参加、交流の楽しさ等を伝えることができた。 ・歯科衛生士や薬剤師等の協力を調整し、定期的に学びの場を提供することができた。			
年度 総括	自己評価	A	自己評価を 選択した理由	・コロナ禍により研修や講座開催では人数制限等が必要ではあったが、オンライン方式等の感染対策を講じたことで、感染者を出すことなく、実施することができた。 ・多くの専門家の協力を得て、地域住民に対し、「学ぶ楽しさ」などを提供することができた。	
	次年度に向 けた展望	・地域住民が介護予防を「楽しみながらできる」ために、関係機関と連携を図り、講座やサロン等の開催を目指す。 ・あやめ台いきいきセンター、地区部会等と協力し健康測定会、健康相談会の開催を目指す。 ・ICTをもっと身近な存在として活用できるよう、自治会等の小さな単位に対し、積極的にアプローチする。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・年齢や圏域内外問わず、「まずは受け止める」という姿勢での対応を心がけ、実施できた。必要に応じて、他機関の紹介や支援の引き継ぎ等を行い、「地域住民の立場」に立って相談に対応した。 ・スズメバチの駆除、木の侵食問題、スマホの操作、機械の操作等、介護に関する相談以外についても、家庭訪問等を行い、状況の確認と支援に努めた。		
後期	具体的な取り組み状況	・職員全員が、介護分野の相談以外にも「まずは受け止める」という同じ意識と姿勢で対応することができた。 ・虐待等の困難ケースについては、後方支援班や民生委員と協力し、状況を悪化させることなく対応することができた。また、生活支援コーディネーターの協力を得て、インフォーマルサービスの活用などを積極的に取り入れて対応することができた。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選出した理由	・どのような相談に対しても「まずは受け止める」という姿勢を職員全員が1年通じて行うことができた。 ・困難ケースについては後方支援班や民生委員、生活支援コーディネーター等と連携し、公的サービスだけでなく、積極的にインフォーマルサービスなども活用し、対応することができた。
	次年度に向けた展望	・今年度同様、圏域や年齢、分野に捉われることなく「地域の第一相談窓口」としての意識を職員全員が持って対応にあたる。 ・後方支援班や民生委員、生活支援コーディネーターとの連携をさらに深めるとともに、職員個々のスキルアップを図る。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・虐待相談は数件あったが、全ケースともに千葉県高齢者虐待防止マニュアルに従い、48時間以内に区高齢障害支援課、ケアマネジャーや介護事業所、他機関等と連携し、安否確認を含め、対応することができた。 ・8月、9月に区あんしん社会福祉士、市成年後見支援センター共催で、成年後見制度の重要性の意識を高めることを目指し、「成年後見制度」に関する研修を、民生委員、介護事業所向けに開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・前期同様、虐待ケースについては千葉県高齢者虐待防止マニュアルに従い迅速に対応することができた。 ・終活講座の中で、成年後見制度や信託制度の説明を行った。 ・認知症サポーター養成講座を開催し、住み慣れた地域で最期まで生活できるよう地域作りを行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選出した理由	・虐待ケースについては、死亡事案を発生させることなく、各関係機関と迅速に対応することができた。 ・介護予防講座等の小さい単位の中では成年後見制度の周知をすることはできたが、自治会等の単位では開催することができなかった。
	次年度に向けた展望	・千葉県高齢者虐待防止マニュアルに従い、迅速かつ適切な対応する。 ・民間企業及び成年後見支援センター等と連携を図り、「元気なうちから先のことを考える」ということを周知していく。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域内ケアマネのスキルアップを目指し、ケアマネ連絡会を2回開催し、千葉北警察署から高齢者の交通事故防止に関する説明や、地域包括ケア推進課からの「みかんの会」の説明、民生委員との情報交換を行った。 ・区あんしん主任ケアマネ主催で事例検討会（医療との連携）、ケアマネ研修会（ACP）を各々1回開催した。 ・区あんしん主催で9月に多職種連携会議（8050問題）を開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・これまで圏域内ケアマネ連絡会として行っていた会議を地域ケア会議へと移行し、認知症初期集中支援チーム、若年性認知症、精神疾患に関する勉強会等を行い、地域課題の抽出や解決を行った。 ・ケアマネ事例検討会では近年注目されているカスタマーハラスメントへの対応について、グループワークなどを行いスキルアップを図った。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選出した理由	・関係機関の協力を得て、圏域内ケアマネや民生委員に対し、年間を通じて勉強会を開催することができた。また、関係機関の協力が広がり、圏域内の地域ケア会議に移行できたのは非常に価値があった。
	次年度に向けた展望	・今年度築くことができた関係者とのつながりを活かし、事業継続計画（BCP）の作成に努める。 ・生活支援コーディネーターと連携し、インフォーマルサービスの情報や地域資源を周知し、総合的な支援体制が築いていける体制を作る。 ・ケアマネジャーに対し、事例検討会、研修会を開催し、スキルアップを図る。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・体操教室参加者、要支援認定者の一部の方に、いきいき活動手帳を配布し、介護予防の普及活動を行った。 ・第1号介護予防支援事業と同様、体操だけでなく、歯科衛生士や栄養士、行政書士、ファイナンシャルプランナー等の協力のもと「生きがいのある生活」の実現に向けて取り組んだ。		
後期	具体的な取り組み状況	・10月に稲毛まちづくり研修会を開催。民生委員や地域住民の方に対し、講義とグループワークを通じて、介護予防の重要性について周知することができた。 ・稲毛区健康課の協力のもと、栄養、口腔、フレイル予防についての講座を体操教室の中で行った。 ・あんしん園生通信を年4回発行し、介護予防に関する情報を地域住民の方に発信した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・いきいき活動手帳は年間約70冊配布。体操教室や介護予防講座で活用し、参加者の健康への意識付けを高めることができた。 ・多くの専門家の協力を得て、地域住民に対し、「楽しみながら」終活や栄養に対する講座を開催することができた。
	次年度に向けた展望	・体操教室のような運動だけでなく、音楽などの分野も取り入れ「生活の中に楽しみが持てる」介護予防活動に取り組む。 ・共生社会に近づけるよう、まずは世代間交流の場を設ける。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター天台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・千草台地域は高齢化率が高く、身元保証人不要のU R 賃貸の為独居高齢者が多く、孤独死の割合が高い。独居高齢者が亡くなり空いた部屋に若年層で精神疾患を抱える人が入居する事も多く、隣近所とのトラブルとなっている。ここ数年はトラブルとなっている隣同士がそれぞれに精神的な病気を抱えているケースも見られている。 ・萩台町は8050問題や高齢者虐待のケースが比較的多く、問題が深刻化しても家族の問題としてなかなか表に出てこない等の問題がある。 ・天台地区ではペット（特に猫）の多頭飼いや不衛生な環境による問題、独居高齢者が施設入所をした後にペットの引き取り手が見つからない等の新たな問題が増えてきている。 ・作草部町は自治会の見守り活動が行われており、地域の問題を地域で解決していく仕組み作りが出来ている。新しく出来たマンションが自治会に加入しておらず、災害時の見守りや支援について、自治会の防災対応の中に組み込むことが出来ないなど、地域課題となっている。県営住宅は複合的な問題を持つ世帯が多く、高齢化により生活が立ちいなくなるケースも見られている。			
活動方針 （総合）		・複合的な問題に対応する為、高齢者支援の窓口だけでなく様々な相談機関と連携を取りながら地域課題の解決に向かって支援を行っていく。昨年度に行えなかった精神保健福祉課とのイベントを行い、精神疾患を抱える人を地域で受け入れていく体制作りを行っていく。 ・I C Tを用いて感染症が拡大しても地域活動を継続できる仕組み作りを地域の様々な団体と考えていく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・コロナで実施できなかった地域ケア会議を今年度は各地域で開催する事が出来た。 ・障がい者基幹相談支援センターやU R、居宅支援事業所のケアマネや生活支援コーディネーター等と連携を図りながらセンター運営を行うことが出来た。 ・年度初めに企画した301地区のケア会議や声掛け訓練等は実施できなかった。	
	次年度に向 けた展望	・コロナ禍で実施できなかった認知症声掛け訓練や各種交流会、参集での研修会等を企画、実施していく。 ・各地域における地域課題を取り上げた地域ケア会議を企画、開催する。 ・地域共生社会実現に向け、高齢者支援以外の支援機関窓口と連携を図る。 ・生活支援コーディネーターと連携し、地域におけるインフォーマル支援の充実を図る。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取 組み状況	・URと協力し介護保険制度の講演会を企画し、10月の開催に向けて着手した。 ・必要時にインフォーマルサービスにつなげられるよう、生活支援コーディネーターと情報共有を図るとともに、チラシなどの分類について更新をした（適宜）。 ・区内センターや居宅介護支援事業所とともに自立促進ケア会議を開催し、地域課題の把握に努めた（8月）。			
後期	具体的な取 組み状況	・URや公民館と協力し、地域住民に対して介護保険制度の講演会を行った（10月、1月）。 ・インフォーマルサービスの情報整理を行うと共に、生活支援サイトの活用についてセンター内で勉強会を開催（1月）。 ・区全体の地域ケア会議にて障害サービスからの移行時に必要な視点について、関係機関との情報共有が図れた（10月）。			
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・介護保険制度の講演会を行うことで、地域住民に対して制度利用に関する知識等の周知を図ることができた。 ・サービス利用希望の要支援者に対して、担当件数等の都合上、お待たせしてしまうことがあった。	
	次年度に向 けた展望	・介護保険サービスが必要な方がスムーズにサービス利用につなげることができる支援体制作りについて、検討したい。 ・必要時にすぐ案内ができるよう、生活支援コーディネーターと協力しながらインフォーマルサービスの情報収集や整理を継続する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・高齢者をとりまく課題に関して、毎月センター内で勉強会を実施するほか、外部研修に参加した（随時）。 ・総合相談の進捗管理や支援方針の共有のため、包括3職種内で朝ミーティングを実施した（毎開所日）。 ・関係機関につながらず、継続的な見守りを要するケースに対し包括3職種ミーティングにて状況確認を行った（月1回）。		
後期	具体的な取り組み状況	・毎月開催するセンター内での勉強会にて、認知症の方への接し方や、成年後見制度等について取り上げた。また、ZOOMやオンデマンド開催の外部研修へも参加した（随時）。 ・毎開所日の朝ミーティングにより、相談の進捗管理や支援方針の共有を図ることができた。 ・緊急対応が求められるケースに対し、関係機関との連携を密にしながら高齢者の保護につなげることができた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・朝ミーティングの継続により、複雑なケースでも包括3職種内での情報共有が図れた。 ・1月～3月にかけて緊急対応を求められるケースが続き、複数の関係機関との連携により、いづれも高齢者の保護につなげることができた。 ・外部研修と会議等が重なり、研修参加が難しいこともあった。
	次年度に向けた展望	・これまで直接的な関わりの少なかった機関に、地域ケア会議や事例検討会等への参加を調整することで、複合的な課題を持つ世帯の課題解決に、連携して取り組めるようにする。 ・センター内での勉強会や事例検討会、外部研修等への参加により相談対応の質の向上につなげる。 ・朝ミーティングの継続により、主担当以外の職員でも必要に応じた対応ができるようにする。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・センターお便り春号、夏号を発行し、積極的に情報発信した。 ・稲毛区あんしん社会福祉士会が、成年後見人と介護事業所の連携についての地域ケア会議をオンラインで開催した。 ・成年後見制度、日常生活自立支援事業の利用に向け、研修受講によるセンター内スキルアップを図った。 ・みかんの会、カフェ班、認知症サポーターステップアップ講座班の活動に参加した。		
後期	具体的な取り組み状況	・センターお便り秋号、冬号を発行し、積極的に情報発信した。 ・認知症高齢者のジュニア認知症サポーター養成講座を千草台中で開催した。 ・成年後見制度利用促進に向け、利用検討ケースを支援した。 ・みかんの会、カフェ班、認知症サポーターステップアップ講座班の活動に参加した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・おたよりを発行し積極的に情報発信に務めた。 ・成年後見人利用ケースの申請に向けた支援を実施した。 ・認知症でネグレクト状態の方を生活保護につなぎ、介護認定取得、介護サービス利用を実現 ・みかんの会の活動に積極的に参加した。
	次年度に向けた展望	・自己決定権を意識させられる事例があり、再度、基本的人権、自己決定権、尊厳の保持を意識して、支援および啓発活動を行う。その為にも、成年後見制度の周知を進める。 ・認知症の方と家族の間で高齢者虐待の発生リスクが高いことを再認識したので、通報を受けた場合は、速やかに情報を確認し、行政と連携し対応する。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・ケアマネ向けの研修会を1回、事例検討会を1回、自立促進ケア会議を1回企画し、実施した。 ・圏域ケアマネ連絡会、主任ケアマネ連絡会を実施、民生委員やコーディネーターの役割を学ぶ勉強会を企画し実施した。圏域の主任ケアマネと共にケアマネ向けの救命救急講座を企画、開催し、心肺蘇生やA E Dの使い方を学んだり、救急搬送時における注意点等について消防士とディスカッションした。		
後期	具体的な取り組み状況	・ケアマネ向けの研修会を1回、事例検討会を1回、自立促進ケア会議を2回企画し、実施した。 ・稲毛区全体の地域ケア会議を2回、多職種連携会議を1回、センター主催の地域ケア会議を2回、企画し実施した。 ・圏域ケアマネ連絡会を2回実施、「成年後見制度について」「U R 住宅における高齢者支援と課題について」それぞれミニ勉強会を企画、実施した。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・研修会や事例検討会、自立促進ケア会議などにおいて、地域の主任ケアマネが企画段階から関わり、ファシリテーターなどの重要な役割を担う事が出来るようになった。 ・ケアマネージャー自身のスキルが向上し、あんしんケアセンターが関わらなくても居宅支援事業所同志で勉強会を企画したり、スーパーバイズ出来る環境整備が行えた。
	次年度に向けた展望	・地域のケアマネをけん引することが出来るような主任ケアマネの育成を支援する。 ・主任ケアマネだけでなく、地域のケアマネ一人一人が個人のケースのみならず地域社会に目を向けることが出来るような仕組み作りを行う。 ・ケアマネ向けの勉強会や事例検討会を企画しケアマネ全体の質の向上を図る。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・3、4ヶ月に1度のペースでシニアリーダー体操や自治会サロンに参加し、介護予防のミニ講話を実施した。 ・5月に都賀公民館にて健康測定会を実施。高齢障害課や健康課の協力を得て個別相談にも対応した。 ・い〜ねの会、グリーンカフェは感染対策をとり、継続出来た。参加者にはいきいき活動手帳を配布し活用している。 ・8月にURとのコラボでスマホ相談会を実施。また、あんしん天台の広報誌にスマホ操作についてのコラムを毎回掲載。		
後期	具体的な取り組み状況	・10月稲毛区のあんしんケアセンター保健師職主催で介護予防への啓発も含めたACP研修会を行った。 ・11月千草台公民館にて健康測定会実施、41名と想定より多い参加者数であった。 ・11月健康課とのコラボで、い〜ね体操教室にて低栄養予防のミニ講話実施。通常のい〜ねの会より多くの参加者あり。 ・1月地域リハビリテーション事業利用し、脳トレ体操の講座を一般住民向けに開催。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	コロナ感染拡大にて地域の集まりが中止となったが、再開時には足を運び、介護予防の周知活動を行うことが出来た。予定したイベントはすべて開催出来た。しかし、い〜ねの会天台に関して、実施場所が老健施設であり、再開が難しかったため休止中のままである。今後の運営に関して検討中である。
	次年度に向けた展望	・自治会やシニアリーダー体操など地域の集まり等に参加し、随時介護予防やいきいき活動手帳についての周知をする。 ・健康測定会などの単発イベントを企画し、介護予防に取り組めるよう、ミニ健康講話を実施する。 ・フレイル予防や閉じこもり予防のため、い〜ねの会とグリーンカフェを継続する。ウォーキング教室などイベントの企画。開催時は感染症対策に留意する。また、参加者にはいきいき活動手帳の活用支援をし、セルフマネジメントできるよう促す。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター小仲台		
担当圏域 地区概況及び 地区課題		地区によって町会・自治会の自治意識に差が生じている。自治意識が高い地域(小仲台、穴川)はコロナ禍においても高齢者同士の助け合いを目的としたサークル活動や見守り活動の継続など、自助だけではなく互助への和が広がっている。一方、組織の自治意識が比較的低い地域(轟町、弥生町)は、自助、互助への意識が低く、公助、共助を利用し、生活再建を目指す傾向にある。そのため、地域の問題を住民主体で解決することが難しい。		
活動方針 (総合)		コロナ禍において、可能な範囲での活動（住民主体で集合したサロンや体操教室、あんしんケアセンター主催の講座の開催等）を継続する。ICTの利用、人数制限、開催場所の選択など感染対策を講じながら、その実情に合わせた開催形式で、今後も介護予防を含め、個人の課題から地域で取り組む具体的課題へ変換できるように働きかけていく。		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	地区課題に対し、関係機関と連携しながら計画通りに活動できたため
	次年度に向けた展望	・新型コロナウイルス感染予防に留意しつつ、地域住民主体で運営されているサロンや体操教室の後方支援や、当方主催の講座の開催を引き続き実施する。 ・2025年に向けて、圏域全体で自助、互助への意識をさらに広めたい。そのために高齢者1人ひとりがセルフマネジメントの意識をもち、自立した生活が送れるような具体的課題と向き合えるように働きかける。		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	・地域の情報や終活、成年後見制度などをケアマネジャーや介護サービス事業所などに発信する方法として、自立支援を目的とした地域ケア会議や研修会を行った。 ・小仲台だよりは計画通り発行した。掲示場所は発行するタイミングで、その都度検討し依頼しているので、今期も新たなマンションや薬局などで掲示してもらえ等、拡大することができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・ケアマネジャーや介護サービス事業所などを対象とした自立支援を目的とした地域ケア会議や研修会を3回（12月・2月・3月）実施した。 ・小仲台だよりは計画通り発行した。掲示場所は後期もその都度検討し依頼した。それを検討する中で総合相談受理後、連絡の途切れた方や「基本チェックリスト」の記入内容が事業対象者と判断できる者に対し直接、小仲台便りと共に手紙や介護予防教室の案内などを自宅へ投函した。それにより介護予防の視点で対象者の近況を探り、支援が必要かどうか改めて判断した。 ・いきいき活動手帳を交付した団体が現在5カ所あり、活動状況のモニタリングとして定期的に訪問できている。毎月訪問している活動団体では個別的に活用状況を確認し、セルフマネジメント促進となるような助言や情報提供をした。		
年度 総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	計画通り実施できたため
	次年度に向けた展望	・今期同様に自立支援を目的とした地域ケア会議や研修会を行う。 ・自治会長や民生委員と地区やマンション内の課題を共有し、高齢者自らが介護予防や健康の維持・増進に向けて取り組んでいく重要性を伝えていく。更に高齢化が進むことから、地区で主体的に介護予防活動が促進するよう整備体制の見直し段階から介入していく。 ・いきいき活動手帳を交付した団体へのモニタリングとして、定期的に訪問する。		

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・上半期はあんしんケアセンター小仲台だよりを春・夏号を計画通り発行し、圏域の主要施設、民生委員、自治会に高齢者にまつわる情報提供とあんしんケアセンター機能を周知した。 ・総合相談件数も前年比で133%を超えている。虐待、権利擁護は前年と変わらず、介護予防の対応が増加傾向にあった。新規相談も100件/月と多く、介護保険申請にまつわるものも多かった。		
後期	具体的な取り組み状況	・下半期はあんしんケアセンター小仲台だよりを秋・冬号を計画通り発行し、圏域の主要施設、民生委員、自治会に高齢者にまつわる情報提供とあんしんケアセンター機能を周知した。 ・総合相談件数は前年比で145%を超えている。虐待、権利擁護は前年と変わらず、介護保険の相談が増加傾向にあった。新規相談も平均120件/月と多く、介護保険申請や認知症にまつわるものが多かった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・職員のスケジュールを事業所内で共有し、なるべく早い対応日で相談を受けるよう日々、努めているため
	次年度に向けた展望	・圏域内で複数の民生委員が交代となったため、民児協定例会には積極的に出席し、また新たにあんしんケアセンターの機能を周知し、顔の見える関係づくりの促進を図る。 ・所内会議など全職員で共有出来る場を活用し、情報共有や対応の方針決定を行い、常に全体化を図りながらセンターとして適切な対応が出来る様努める。 ・あんしんケアセンターの普及啓発として、「小仲台だより」の発行は年4回ペースで行う。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛区のアんしんケアセンター社会福祉士により、4月に高齢、障害分野の関係職種、行政を交えての事例検討会と、8・9月に介護サービス事業所向けの成年後見支援制度についての研修を開催した。また、研修は参加しやすいようにお昼休憩や送迎時間を避け、かつ短時間で終わるように開催方法を工夫して行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛区のアんしんケアセンターの社会福祉士による事例検討会を11月に開催した。高齢、障害分野の関係職種、行政を交えての事例検討会に、今まで参加のなかった機関にも参加依頼を行い、新たなネットワーク作りに繋がった。 ・総合相談について、必要なケースについては早期に高齢障害支援課へ連絡し、情報共有を図った。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・稲毛区5センターで協働してzoomでの事例検討会を開催し、顔の見える関係性作りに取り組めた。 ・詐欺被害防止やケースの早期発見ができるように、相談窓口としての周知や普及啓発を行った。
	次年度に向けた展望	・介護サービス事業所の参加が行いやすい形式での地域ケア研修会を検討し、権利擁護の意識が高められるように研修会を開催する。 ・事例検討会を年2回の開催を継続し、行政や関係機関と顔の見える関係を構築する。 ・あんしんケアセンター小仲台だよりを活用し、近隣で起きている詐欺被害等を掲載する等、地域住民に向けて身近な相談窓口として継続して周知する。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・高齢者が地域で暮らせるようにインフォーマルサービスなどの地域資源の情報取集と、新たな課題について研修会や自立促進ケア会議等で具体的な事例を通して検討した。 ・地域課題を地域住民で共有するために、地域ケア会議を開催した。		
	後期	具体的な取り組み状況	・圏域の介護支援専門員との研修は、民生委員との対面は、感染症の拡大のために、中止となった。 顔の見える交流を来年度開催できるか検討していく。 ・自立支援ケア会議や事例検討会等具体的な事例を通して、各専門職の方々と地域資源について話し合い、これから必要となりえる地域資源について話し合った。	
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・個別事例の検討会や地域の課題の分析及び解決について、何事例か会議を行い、地域の課題や地域の方への周知に務めた。 ・研修会を開催して、介護支援専門員の実践力向上に務めた。
	次年度に向けた展望	・地域の介護支援専門員を対象とした研修会や自立促進ケア会議等を開催し、関係機関との連携や介護支援専門員の実践力向上を目指した体制づくりに務める。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・介護予防に資する講座は23回実施した。今期の重点項目地区としてあげている市営住宅や県営住宅を中心に住民のニーズが高い、健康チェックを行った。 ・自主サークルの後方支援として、毎月1度必ず訪問した。その際、いきいき活動手帳を使いセルフマネジメントを行う住民には個々に声をかけ、支援を行った。		
	後期	具体的な取り組み状況	・介護予防に資する講座は27回実施した。サロンや老人会など、コロナ禍ということで参加者も予定より少ないこともあったが、参加者1人ひとりと時間をかけて話ができて、あんしんケアセンターの周知や介護予防の必要性を時間をかけて伝えることができたため少人数で開催するメリットはあった。 ・自主サークル活動団体の後方支援として、毎月1度必ず訪問した。その際、いきいき活動手帳を使いセルフマネジメントを行う住民には個々に声をかけ、支援を行った。 ・民生委員の定例会で新しい民生委員が多かったため、改めてあんしんケアセンターの役割やあんしんケアセンターを含む多職種と民生委員が連携を伴う個別支援方法などを伝えた。 ・認知症サポーター養成講座は小学校1校、中学校2校、一般住民向けで2か所を行った。ジュニア認知症サポーター養成講座では住民参加の講座として定着できるよう認知症ステップアップ講座受講者である地域住民に、講座内容の検討並びに、講座の実施にむけた準備などから参加してもらった。	
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	計画通り実施できたため
	次年度に向けた展望	・各町会、自治会、集合住宅単位で小規模の介護予防講座やエンディングサポートに関する講座、健康に関するイベントなどを開催する。 ・介護予防を目的とした自主サークルについては後方支援を行い、自助、互助への意識を高める。 ・いきいき活動手帳の交付と基本チェックリストの実施を行い、配布後も活用出来るように支援する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター稲毛			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		圏域における高齢化率は20.7%で若い世代も多く住む地域である。公共交通機関の利便性が良く、新しく大型マンションが建設され若い世代の転入は増加している。また利便性を求め、高齢者のマンションへの転入も多く、世代格差や、地域のつながりが築きにくい傾向がある。新天地での環境で交流が深められず孤立化したり、同居世代でも子世代が就労により日中独居となり、他者との交流がないまま孤立した時間を過ごし、不活動になる。旧来の居住者に関しては近隣者と繋がりがあっても、互いの身体面の低下や配偶者の他界により孤立化しているため、引き続き地域活動の促進を急務に進める必要がある。			
活動方針 (総合)		地域資源を有効活用し全世代が暮らしやすい地域を創り出す。 関係機関と連携し、地域住民のニーズ把握から地域課題を発掘する。専門職の継続的な支援、地域の居場所などにおける様々な活動を通じてセーフティネットを構築していく。また地域課題を発掘するために地域ケア会議を実施しネットワークを構築する。高齢者に必要な情報を講座や情報誌等で発信し、幅広く啓発ができるよう進めていく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・コロナ禍において少人数で開催できる介護予防教室を開催した。地域住民が興味をもっていることやアンケートなどから地域課題を発掘できるよう、そのためにも参加者を増やすことを強化した。毎月幅広い分野の内容で10～20名の参加があり、内容によって参加人数のばらつきが見られたが、アンケートなどからも地域の特性が少しずつ把握できるようになってきた。	
	次年度に向けた展望	・1人暮らしや高齢者世帯が孤立化しないよう、専門職の継続的な支援、地域の居場所などにおける様々な活動を通じてセーフティネットを構築していく。 ・圏域全体に全世代に情報の発信、啓発を行い速やかに支援が行き届くようにする。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛、黒砂公民館にて介護予防普及啓発の継続中であり、シニアリーダーと連携し新規2箇所のシニアリーダー体操の開催につなげ、住民の通いの場を増やした。 ・地区部会、民生委員と連携し住民の身近な介護予防活動への参加を呼びかけ、地域の交流やソーシャルサポートが促進できる取り組みを行った。 ・地域ケア会議から住民の健康意識の向上に向け、骨密度測定会を行い住民の介護予防普及啓発に努めた。			
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛、黒砂公民館にて介護予防教室を行い介護普及啓発に努めた。骨密度測定会を数回実施し、健康意識の向上やいきいき活動手帳の普及を行う事ができた。 ・いなげまちづくり研修会では、「人生会議」を通して地域住民に介護予防について考えてもらう機会となった。 ・コロナ禍の活動自粛の中、地区部会と公園でのラジオ体操を実施し、地域活動や住民一人一人のつながりについての情報交換を行いながら活動できた。介護予防・日常生活支援総合事業の利用者に対して、それぞれのおかれている状況を把握し適切なサービスが提供されるよう支援した。また地域の介護予防教室などへの参加を促すよう努めた。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	介護予防教室や、住民主体の活動を継続し、介護予防普及啓発をすることができた。また介護予防教室を通していきいき活動手帳を普及することが出来た。しかし継続的に活用できているか把握が出来ていないため、セルフマネジメントを高めるために活用できる取り組みをしていく必要があると考える。	
	次年度に向けた展望	・稲毛、黒砂公民館にて介護予防教室の開催。 ・社会福祉協議会、民生委員、生活支援コーディネーター、自治会、シニアリーダーとともに住民主体の活動を推進する。 ・地域ケア会議を通じ地域のニーズに応じ健康測定会を開催し介護予防普及啓発を行う。 ・いきいき活動手帳を継続して活用できるような取り組みを行う。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・毎朝のミーティングや月 1 回包括 3 職種会議にて、包括 3 職種間の意見交換を行い、支援の進行状況の確認や必要なサービスに繋げる為の助言等、対象者支援を行った。支援している困難事例については高齢障害支援課・民生委員・認知症初期支援チーム等の関係機関と連携し、支援を行うことができた。 ・4月22日稲毛区社会福祉士連絡会主催にて、オンラインを活用した事例検討会を実施し、対応に苦慮した困難ケースについて話し合いを持つことができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・電話や来所で受け付ける相談を随時、包括 3 職種で話し合った。また、毎朝のミーティングや毎月開催している 包括 3 職種会議（月 1 回）の継続を図った。これにより、支援が滞ることのない様に支援の進行状況や方向性を確認し、迅速に必要なサービス等に繋げることができた。 ・近年増加傾向にある多重課題を抱えた世帯への支援について事例検討会を実施した。障害者基幹相談支援センターや県精神科医療センター精神保健福祉士（PSW）、成年後見支援センター等に参加を依頼し、ケースに応じた柔軟な支援体制が構築できるよう働きかけた。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・事例検討会を通じて、県精神科医療センターや障害者基幹相談支援センターなど障害者の支援機関とのつながりが持て、世帯単位での支援の必要性についての共通認識を得られた。今後、具体的な支援事例が生じた際には、チームとしてのアプローチが行えるきっかけが得られたことは大きな成果と言える。
	次年度に向けた展望	・多重課題への対応力を向上するため、今年度構築できた各支援機関以外にも、ひきこもり支援センター等新たな関係性を構築する。また、介護予防や多重課題をもつ事案の発生予防も踏まえ、子育て世代へのあんしんの周知なども考える。 ・地域との関係強化を目的とした地域ケア会議やあんしんの周知目的とした講座の企画などを続けていくことで、困窮に至る前に相談につながる地域を目指す。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛区社会福祉士連絡会が主催し、成年後見制度の普及啓発を目的とした地域ケア研修会（1回目8/19、2回目16）を開催した。参加対象は制度の提案者となり得るサービス事業所やケアマネとし、制度の概要説明及び複数の受任者からの事例紹介を通じ、後見制度の正しい理解を促した。 ・8月27日に圏域内施設にて認知症高齢者の声かけ訓練を実施した。子どもから高齢者まで幅広い層の参加があった。 ・8、9月のよくばり講座で終活講座を実施のため、依頼先と講座の内容確認の準備を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛区社会福祉士連絡会にて事例検討会を実施し、関係機関との連携強化を図った。 ・虐待支援（疑い含む）では、迅速かつ正確な情報収集を徹底し、課題解決に向けた支援を行った。 ・月 1 回の認知症初期支援チームへケースを依頼し、チーム員会議への出席、検討を行った。 ・よくばり講座にて、ハッピーエンディングカードを利用した終活講座を開催し、成年後見制度等の普及啓発を行った。 ・生活支援コーディネーターと連携し、認知症サポーター養成講座、稲毛中学校ジュニアサポーター養成講座、認知症高齢者声かけ訓練を実施した。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・毎年実施している地域ケア研修会では参加者の固定化がみられるため、アンケート調査にて参加者側の状況把握を実施したところ、参加しやすい時期や研修時間などの傾向が掴め、実施方法の見直しを行うことができた。 ・虐待支援（疑い含む）では行政への報告をしながら、包括 3 職種で検討を重ね、迅速な対応を図ることができた。 ・コロナ禍で実施することができなかった認知症高齢者声かけ訓練を実施することができた。 みかんの会に参加し、千葉市認知症施策に取り組む。
	次年度に向けた展望	・圏域の事業所や地域住民を対象に地域ケア研修会を開催し、権利擁護についての普及啓発を行う ・事例検討会を実施し、関係機関との連携強化と困難事例への対応力向上を図る ・認知症初期集中支援チームと連携・協力し、認知症高齢者の早期対応・支援へとつなげる ・権利擁護に関する講座の開催や掲示物などで情報提供や注意喚起を行い、地域住民へ啓発を行う ・認知症サポーター養成講座、ジュニアサポーター養成講座、徘徊模擬訓練の実施。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛区多職種連携会議はテーマを「気づく・見つける・つなげるフレイル予防！」として、稲毛区地域ケア会議はテーマを「コロナ禍において地域で見えてきた課題を考える・8050問題を考える」として開催した。両会議とも多機関の参加があり、意見交換することができた。 ・稲毛区内の主任ケアマネジャーと共に、稲毛区ケアマネ事例検討会、自立促進ケア会議、ケアマネ研修会の開催、並びに、ケアマネ通信の発行を企画し、居宅介護支援事業所との連携を深めることができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛区地域ケア会議（12月）、稲毛区多職種連携会議（3月）「ストップ！介護難民」を開催した。グループワークを交え、多職種で意見交換を実施することができた。 ・稲毛区内の主任ケアマネジャーと共に、稲毛区事例検討会、自立促進ケア会議、ケアマネ研修会、並びにケアマネ通信の発行を企画し、連携を深めることや専門職としての知識を深めることができた。 ・稲毛東1～4丁目（10月）、稲毛台町（12月、2月）、稲毛東南部自治会（3月）にて、地域ケア会議の実施。地域の状況を確認。稲毛東南部自治会においては、ゴミ出し支援事業への取り組みを検討した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・主任ケアマネジャーより横のつながりを強化していきたいという意見が多かったことから企画した「圏域でのケアマネ交流会」であったが、直前にコロナ感染が拡大したことで一旦中止となり、その後も開催することができなかった。
	次年度に向けた展望	・稲毛区多職種連携会議、地域ケア会議、その他主任ケアマネジャーで企画した会は例年通り目的を持った内容で開催することができているため、引き続き次年度も開催していく。圏域内においては、ケアマネ交流会を開催し、ケアマネジャーの思いをくみ取り連携強化に繋げる。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・稲毛公民館では「よくばり講座」を開催し、毎月テーマ毎に介護予防普及啓発を実施した。 ・黒砂公民館では老人会と連携しボランティアを中心に介護予防運動を実施した。 ・シニアリーダーの活動支援、メール登録者には講座案内や健康情報を配信し、グループLINEの活用も継続した。 ・いきいき体操は毎週レクリエーション活動とともに地域のだれでも参加できる活動の場となっており、活動への参加促進や活動の場が増えるよう自治会や老人会へ働きかけた。		
後期	具体的な取り組み状況	・稲毛公民館では「よくばり講座」を月1回開催し、介護予防をテーマ（絵手紙、骨密度測定、リハパートナーによる体操、栄養講座、警察からの消費者被害講座、スマホ講座）に実施することが出来た。 ・黒砂公民館ではボランティアを中心に介護予防体操を月1回開催し、地域住民の交流が継続的に行えるよう支援した。また健康意識向上のため黒砂公民館主催の骨密度測定会に参加し、介護予防普及啓発を実施した。 ・健康意識の向上のためにイベント開催時にいきいきプラザや健康課と連携して取り組むことができた。 ・稲毛地区部会主催の稲毛いきいきサロン、にこにこ体操、歩こう会に参加し、地域住民との交流を図る。 ・緑、黒砂地区部会と共同で、あおぞら公園ラジオ体操にて、脳トレを実施した。 ・新規三晃会館シニアリーダー体操に参加し、実施状況の確認や口腔体操実施調整を行う。 ・新規黒砂公民館シニアリーダー体操に参加。参加者が少ないため、広報活動に協力。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・地域の特性や住民のニーズに合った介護予防講座が開催できるように努めた。新規でシニアリーダー体操を開始することが出来た。地域で行われている活動への参加者が増えるよう、さらに自治会などの地域住民に働きかける。
	次年度に向けた展望	・講座受講者へのアンケート調査にて、様々な地域住民のニーズや地域の特性を把握し、介護普及啓発活動を行う。シニアリーダー体操など住民主体の活動が継続的に行われるように支援する。介護予防体操や活動について発信し、新規参加者が増えるような取り組む。いきいき活動手帳の活用が継続できるような取り組む。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンターみつわ台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・コロナ禍の長期化により、高齢者、民生委員の方の地域活動も慎重になり、これまでの繋がりが希薄になりかねない。 ・自治会の数が多く、地域を細分化している。自治会活動をする場が少なく、自治会活動に支障を来たしている。 ・支え合い活動が充実している地域とそうでない地域の差異がある。 ・地域福祉を推進する次世代の担い手が不足している。 ・医療、福祉、教育等の各分野間の連携が十分では無い。 ・エレベーターの無い団地の高齢化が進み、買物等の生活支援を要する世帯が増えている。			
活動方針 (総合)		・民生委員、生活支援コーディネーターと連携を図りながら、N P O、ボランティア活動等によるサービス資源の開発を支援する。(今般の感染状況の長期化が生活にどのような影響を及ぼしているのかも加味していく。) ・感染症予防を徹底し、地域ケア会議等で、地域の支え合い活動団体との協議の場を持ち、地域課題の抽出、実行性のある目標立てをする。 ・原町等の高齢化率の低い地域との関係性を構築していく。民生委員や地域住民等と協議も場を持ち、課題の把握を行っていく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	地域の集いの場の再開や老人会及び民生委員の定例会等に参加し、更にあんしんケアセンターの役割の周知活動の継続性を感じた。地域及び公的支援の担い手不足についてはより顕在化している。その為、総合相談において介護認定を取得している方においてケアマネジャーの案内に時間を有する事例もあり、課題の一つとなっている。	
	次年度に向けた展望	各圏域の主となる方との連携を軸にしながら認知症の方への理解を啓発していく。認知症の普及啓発に限らず、地域の福祉に関心をもって貰える様、総合相談、介護予防の視点から地域に積極的に関わっていく。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・生活支援体制整備について、若葉区ささえあいのまち推進協議会、各委員や自治会の皆様と防災等について意見交換を行った。予防支援においても地域における防災の意識を再認識した。 ・地域資源の構築を図る為、生活支援コーディネーターと連携し、自治会サークルへのラジオ体操の導入について試みたが、各参加者ごとにストレッチを行っており、ラジオ体操の導入には至っていない。			
後期	具体的な取り組み状況	・生活支援コーディネーターと連携し、自治会サークルへのラジオ体操の導入を啓発するも、各参加者ごとにストレッチすることに留まった為、行っているストレッチを専門職の助言を経て取り組んでもらう必要性を感じた。 ・地域ケア会議を開催し、高品ハイツ自治会のお助け隊や、見守り活動の情報が得られ、セルフケアマネジメントに組み込めるよう地域に周知することが必要と感じた。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	地域ケア会議を開催し、得た地域資源を、居宅支援事業所へ情報提供し、地域資源を用いたケアマネジメントについて継続性を持った対応を要する為。	
	次年度に向けた展望	・地域ケア会議を開催し、会議で得られた地域資源を、地域や居宅支援事業所へ情報提供し、地域資源を組み込んだ自立支援に資するケアマネジメントが行えるよう取り組んでいく。 ・生活支援コーディネーターと連携を図り、対象者の心身や環境にあった住民主体の通いの場や助け合いの会などの地域資源に繋がられるよう努める。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	認知症の当事者を支えるご家族も精神疾患や健康の問題を抱えているケース対応が増えてきている。相談の依頼先が多様になってきた印象もある。包括 3 職種が朝礼にて情報共有し、若葉区高齢障害支援課や若葉区障害者基幹相談支援センターと連携しながら継続支援に取り組んでいる。ケースの内容により、生活支援コーディネーターからの情報を提供し、同行訪問をする様なケースもあった。		
後期	具体的な取り組み状況	家族アセスメントや居住区の地域性を大切にしながら包括 3 職種間で継続支援に取り組んだ。近隣のスーパーマーケットに置かせて頂いたパンフレットを見て、来所相談に見える方もいた。パンフレットについては3か月に1回、配布をしている。電話相談や来所での相談件数も増えているが、電話相談の後に訪問相談に何う件数も増えている。課題の多いケースも多く包括 3 職種で役割分担をし継続的に関わる機会も増えている。		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	40歳代の家族介護者も増え、それぞれ時間的に余裕がない世帯も家族間の問題に入りこむ様なケースも増えている。包括 3 職種の連携のみで解決出来るケースは多くはなく、基幹相談センターや生活自立仕事相談センターと連携しても解決に時間を要す状況が増えている。
	次年度に向けた展望	多様な相談が増えており、センター内外問わず、ケースの特性に応じた連携を迅速且つ、密に図っていく。圏域内において、あんしんの周知が行き届いていない地域に対し、パンフレットの配布や講話活動等の普及啓発活動を行っていく。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	今年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため若葉区ソーシャルワーカー連絡会は年 2 回(ハイブリット形式)の開催となり「年金」をテーマとし開催。病院、障害、高齢者に関わる社会福祉士に参加してもらい連携の強化を図った。また、コロナウイルス感染予防を行いながら地域のボランティア団体の定例会やサロンに参加し、消費者被害と成年後見制度、日常生活自立支援事業の周知をおこなった。また、地域でボランティアとして活躍している方を集め認知症サポーター養成講座を開催し認知症についての基礎知識や対応について周知を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	コロナウイルス感染拡大防止の対策を行いながら若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催し、若葉区内のソーシャルワーカーの連携強化、相談援助技術の向上を図った。ボランティアの定例会やサロンに参加し消費者被害についてのチラシを配布、周知し詐欺対策の具体的な事例についても紹介した。また、地域のボランティア団体にエンディングサポートの講演会を開催し終活についての知識も周知した。		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	認知症サポーター養成講座やエンディングサポートの講演会などを開催し、参加して頂いた方々が高齢者に接する際に学んだことを生かして対応をしていた。しかし、コロナウイス感染予防の為、サロン参加者が少なく参加されている方も同じ方が多かったので、老人会などにも周知ができるよう生活支援コーディネーターと連携を図る必要があった。
	次年度に向けた展望	感染症対策を講じ、若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催し、各職域のソーシャルワーカーとの連携の強化、総合相談技術の向上を図り、円滑に連携が取れる関係性づくりを構築していく。また、サロンや民生委員、各ボランティア団体の定例会などに参加し地域にお住まいの高齢者の方やボランティア団体、民生委員に成年後見制度や消費者被害の周知、普及啓発を行っていく。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	圏域の介護支援専門員連絡会及び若葉区介護支援専門員連絡会等において、居宅介護支援事業所のケアマネジャーが抱えているケースから身元保証に係る課題共有を行った。多職種連携会議においては、今般のコロナ禍及び有事の際の連携においてICTの成功事例や導入にあたっての課題共有を図り、今後のチームアプローチにおいて有益な情報交換を行えた。区内5センターにおける定例地域ケア会議にて得た情報を圏域のケアマネジャー等へ情報提供も行った。		
後期	具体的な取り組み状況	偶数月に圏域の介護支援専門員研修を開催。ケアマネジメントのプロセスを再確認出来る様、研修内容の工夫も行った。アセスメントにおいては家族アセスメントに重点をおいた内容についてはケアマネジャーのみならず、チームで情報共有しながらケアプランに繋げていく必要性を協議した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	研修において圏域のケアマネジャーの参加者が少なかったことを鑑みて、ケアマネジャーの意見も取り入れながら内容も決めていく必要性を感じ、B評価とした。
	次年度に向けた展望	地域住民一人一人の生活の維持に繋がっていきける様、多職種連携及びケアマネジャー支援に取り組んでいく。 若葉区定例地域ケア会議において、圏域内の課題を共有していく。居宅介護支援事業所の事業所数も限られている為、各ケアマネジャーの方の支援状況を共有しながら連携を密にしていく。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・街づくりサロンにてオーラルフレイルの講話をおこなった。NPO法人アワーズ美助っ人クラブの健康セミナーにおいて、健康寿命の延伸を図る為、生活習慣病予防の講話をハイブリッド形式でおこなった。（5月）体操教室（元気フレンド）にて、民間企業の協力を得て、歩行測定会をおこない、歩行する際の注意点を助言していただき、3カ月後の評価時には、歩行時の推進力、バランス力などが向上し、参加者の身体機能向上や心身機能の向上が図れた。（7月、9月）		
後期	具体的な取り組み状況	・若葉区あんしんケアセンターで、低栄養防止、オーラルフレイル予防のための口腔体操動画を作成した。 ・柚子の会（老人クラブ）の体操教室やグランドゴルフに出向き、いきいき活動手帳を元気な高齢者へ配布。セルフマネジメントの手法を啓発した。 ・高品ハイツ自治会にて地域ケア会議を開催し、地域の活動の休止状況を把握。生活支援コーディネーターより、コロナ過		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	地区部会を始め、コロナ禍で活動を休止していた団体が多くみられたが、介護予防の必要性を地域住民に啓発し、活動を再開に繋げるよう意識変容に務めた。
	次年度に向けた展望	・保健福祉センターや企業等の専門職と連携し、自治会や地域サロン等へフレイル予防を啓発。さらに動画を用いながら効果的に介護予防の推進を図っていく。 ・地域のサロンに出向き、セルフケアマネジメントの手法を啓発し、各サロンの情報得て住民に情報提供もしていく。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター都賀			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・圏域の中で、若松台・都賀・西都賀の高齢化率は微増。若松町北部と都賀の台は若い世代の入居が増えているが、高齢化率は微減に留まっている。都賀駅周辺は介護保険事業所が多く、コミュニティーセンターやいきいきセンター等の地域活動を含めると住民の選択肢はあるが、シニアリーダー体操やいきいき体操等も含め、体操教室が多い反面、サロン等の憩いの場は少ない。地域住民による支え合いやボランティア活動はコロナ禍でも継続しているが、活動の拠点となる自治会館等の利用制限から停滞気味である。そのような状況でも新しく始まった地域食堂や参加人数が増加している体操教室もあり、地域にもよるが住民の意識は高い。 ・昨年度の当センターへの相談は、前年度と比べて新規の相談が増加している。介護保険に関する相談が最多で相談全体の約55%、施設入所や経済的な問題、認知症に関する相談が微増となっている。新型コロナの影響から、引きこもりによる認知機能の低下や経済的な問題が増加しているものと思われる。また相談内容も複雑化してきており、8050問題や老々介護、障害のある独身の子供と親の同居等、介護保険制度だけでは対応しきれず、他機関との連携が必要な相談が多くなってきている。			
活動方針 (総合)		・コロナ禍で活動が見合されていた地域活動の拠点を訪問し、活動の再開に向けた支援を行う。 ・介護や医療につなげるだけでは解決できない課題を抱えるケースをはじめ、さまざまなケースについて地域関係者、多職種、多機関との連携を積極的に図り、ネットワークの構築と連携に努める。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総 括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・入居施設で行われていた認知症カフェや体操教室については再開できなかったが、中断・再開を繰り返していた住民主体の活動については、継続できるよう支援した。 ・支援困難ケースでは、関係機関と連携して対応した。	
	次年度に向けた展望	・年間の総合相談件数は増加傾向で、複合的な課題を抱えるケースも増えており、他機関と連携しての対応はこれまで以上に必要な状況になっている。連携を深める為にも、各団体主催の会議等に積極的に参加し、顔の見える関係づくりを行っていく。 ・生活支援コーディネーターと連携し、地域の活動団体と住民が繋がりを持てるよう支援する。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・自立促進ケア会議に参加し、専門職からの助言をもとに支援を行った（7・9月） ・センター会議で事例検討会を行いスキルアップを図った（毎月） ・地域の教室で基本チェックリストを実施し、対象者に地域の体操教室を紹介した。 ・定期的にサービス利用状況をモニタリングし、必要な支援を行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・生活支援コーディネーターと連携して地域の会合やサロン、体操教室の情報を収集し、地域住民に周知した。 ・センター内で事例検討を行い、スキルアップに努めた（毎月） ・直営と委託の利用者に適切なサービスが提供されているか確認し、必要な支援を行った。 ・自立促進ケア会議に参加した（11月）			
年度 総 括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・生活支援コーディネーターと連携して地域活動に参加し、必要に応じて地域住民に情報提供した。 ・地域住民に対して基本チェックリストを実施したが、数が少なかった。 ・利用者に対して適切なサービスが提供できるよう、職員のスキルアップを図った。	
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターとの連携を深化し、関係機関とも連携して地域資源の活動状況の把握に努め、適切なサービスの提供に努める。 ・利用者に対し、適切なアセスメントに基づき、公正中立の立場で適正なサービス利用に繋ぐようにマネジメントする。 ・居宅介護支援事業所に委託している利用者について、適切なサービス提供が行われているか確認する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・社会福祉協議会都賀地区部会と共催で広報誌を作成し、あんしんケアセンターの周知を図った（隔月） ・毎月のカンファレンスを継続し、包括3職種間の情報共有と対応方法の検討を行った。 ・介護保険に関する講座と出張相談会を開催してあんしんケアセンターの業務について説明し、事例を通じて相談窓口としての役割を説明した（若松町北部自治会館5月、都賀いきいきセンター9月、若松台3丁目自治会館9月）		
後期	具体的な取り組み状況	・若松公民館で出張相談会を開催した（10月） ・社会福祉協議会都賀地区部会と共催で広報誌を作成し、高齢者に必要な情報発信に努めた（隔月） ・様々な相談に対して、必要な情報提供を行い、必要に応じて他機関に繋いだ。 ・地域住民を対象に、介護保険に関する講座を開催した（SUNCAFE・1月）		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・毎月のカンファレンスでその日の相談事例と継続している相談の情報共有を行い、対応方法について検討して、職員のスキルアップを図った。 ・社会福祉協議会若葉区事務所と共催で広報誌を作成し、個別訪問や地域の会合時に配布して高齢者に必要な情報提供とあんしんケアセンターの広報に努めた。
	次年度に向けた展望	・毎月のカンファレンスを継続し、相談ケースの情報共有と対応方法について検討し、スキルアップを図る。 ・各種研修会に参加し、OJTを通じて職員全体のスキルアップを図る。 ・支援困難ケースは関係機関と連携して対応する。 ・広報誌の作成を継続し、あんしんケアセンターの周知を図る。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・認知症サポーター養成講座を開催した（山王中学校6月・若松高校9月） ・千葉東警察との情報交換会に参加した（6月） ・住民主体の教室で消費者被害についてのチラシを配布し、権利擁護に関する普及啓発を図った。 ・区内5センター共催で若葉区ソーシャルワーカー連絡会を開催した（6月）		
後期	具体的な取り組み状況	・認知症サポーター養成講座を開催した（若松中学校10月・非営利発動法人SORA10月） ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会に参加した（12月）・権利擁護に関する研修会に参加した（12月） ・地域住民に消費生活センターの消費者被害注意報を配布し、注意喚起を行った。 ・虐待の疑われる事例について、高齢障害支援課と情報共有した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・認知症サポーター養成講座を開催し、若年層を含む地域住民に対して、認知症に関する正しい知識が持てるよう支援した。 ・消費生活センターの注意報を様々な場所で配布し、権利擁護の普及啓発を図った。 ・あんしんみつわ台と共催予定の権利擁護に関する研修会はコロナ禍で開催できなかった。
	次年度に向けた展望	・地域の体操等に参加する際に、消費生活センターのチラシを使うなどして権利擁護の普及啓発を図る。 ・虐待の相談については若葉区高齢障害支援課と連携して対応する。 ・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の方でも安心して生活できるよう、地域住民が認知症に関する正しい認識を持てるよう努める。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・区内あんしんケアセンター主任介護支援専門員連絡会を開催し、情報共有と研修内容を討議した（6・9月） ・あんしんケアセンターみつわ台と共催で、圏域の多職種連携会議を開催した（9月） ・若葉区5センター共催で若葉区介護支援専門員連絡会を開催した（5月） ・支援困難ケースに関して同行訪問、情報提供、個別地域ケア会議の開催等の後方支援を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・圏域の介護支援専門員ネットワーク会議を開催した（1月） ・区内5センター共催で若葉区介護支援専門員連絡会（12月）、若葉区多職種連携会議（2月）、若葉区定例地域ケア会議（毎月）、区内あんしんケアセンター主任介護支援専門員連絡会（12月）を開催した。 ・介護支援専門員からの相談に対し、後方支援を行った。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・各種会議は年度当初の計画通り実施したが、上半期の圏域介護支援専門員ネットワーク会議はコロナ禍で開催できなかった。 ・支援困難ケースでは、介護支援専門員からの相談に対し、助言や同行訪問等の後方支援を行った。
	次年度に向けた展望	・多職種連携会議や介護支援専門員連絡会で事例検討を行い、関係機関との連携を強化し、地域住民に適切な支援が提供できるよう努める。 ・介護支援専門員からの相談があった際は、個別地域ケア会議の開催等の後方支援を行う。 ・生活支援コーディネーターと連携し、居宅介護支援事業所にインフォーマルサービスについて情報提供する。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・若松公民館でフレイル予防教室を開催した（毎月） ・介護予防に関する意見交換会に参加した（5月） ・地域の体操教室に出向いて季節毎の注意喚起やコロナ対策等の情報提供を行い活動が継続できるよう支援した。 ・出張相談時等に介護予防のパンフレットを配布したり握力測定を行い、地域住民の介護予防に対する意識向上を図った。若松台3丁目自治会館で介護予防に関する講座を開催した（9月）		
後期	具体的な取り組み状況	・若松公民館で地域住民を対象にフレイル予防教室を開催した（毎月） ・介護予防に関する意見交換会に参加した（11月） ・住民主体の体操教室に出向き、進行の助言や関係機関に講座を依頼する等、活動が継続できるよう支援した。 ・出張相談等で介護予防のパンフレットを配布し握力測定を行う等、介護予防に対する意識向上を図った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・若松公民館で毎月フレイル予防教室を開催し、地域住民に対して介護予防についての意識づけをする事ができた。 ・既存の体操教室を定期的に訪問し、必要に応じて季節毎の注意喚起や権利擁護、介護保険の講座を行い、活動が継続できるよう支援した。
	次年度に向けた展望	・地域の活動に参加する際は、いきいき活動手帳を活用しセルフケアマネジメントの周知を図る。 ・昨年度の利用者アンケートに基づき、若松公民館でのフレイル予防教室を継続する。 ・生活支援コーディネーターと連携して地域資源を発掘し、活動支援を行う。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター桜木			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		①高齢者世帯、独居世帯が増えている中、福祉に関する理解や意識に、個人差や地域差がある。関連機関との連携や相談等で迅速で丁寧な対応が必要である。 ②個別ケース相談では、認知症、精神疾患、身寄りのない高齢者、金銭問題、複雑な家族関係、虐待等も絡む複合的な内容もあり長期的に関わるケースが増えている。関係機関や地域との連携強化を図り、細やかな対応が必要である。 ③福祉活動の支援者が高齢となり、次に引継ぎたくても担い手不足となっている。			
活動方針 (総合)		①地域の状況に応じた、迅速で丁寧な対応を行い、あんしんケアセンター桜木としての活動を展開する。 ②地区の特性や実情、抱える課題を関係機関と連携を図りながら、地域包括ケアシステムを推進する。 ③研修会参加、事例検討会等で職員の援助技術の向上を図り、個々の総合相談を通じて地域住民や関係機関との連携を迅速に図る。 ④自然災害や感染症、不審者対応等不測の事態が発生しても、適切な運営ができるよう関係機関との連絡、連携体制を整えておく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	目標とした内容には、状況に応じながら、対応することができた。地域住民の相談等にも関係機関と連携を図り迅速に対応することができた。困難事例については、丁寧に時間をかけて対応している。相談者の意図や不安面に危機感もあり、行政、関係機関との情報共有、連携を図り長期的な支援体制となっている。	
	次年度に向けた展望	①地域の状況に応じた、迅速で丁寧な対応を行い、地域に理解され、信頼される活動を展開する。 ②地区の特性や抱える課題を、関係機関と連携を図りながら、地域包括ケアシステムを推進する。 ③研修会参加、事例検討会等で職員の援助技術の向上を図る。また、個々の総合相談に対し、必要時は地域住民と協働し、関係機関との連携を迅速に図り活動する。 ④自然災害や感染症、不審者等不測の事態が発生しても、適切な運営ができるよう職員間、関係機関との情報共有体制を整えておく。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	①委託事業所からの相談には適宜対応し、状況に応じて会議を行う等支援した。②自立促進ケア会議に参加し（7月、9月）事例提供を行った。③生活支援コーディネーターの資源把握に情報提供し、地域会合（5月、6月）に参加し生活支援コーディネーターの役割、緊急通報装置設置の周知活動を行った。④住民主体型サービスについては継続して支援している。			
後期	具体的な取り組み状況	①委託先居宅介護支援事業所からの相談や会議等を通して、連携を図ることができた。②千葉市自立促進ケア会議に参加し事例提供を行う。（11月）③生活支援コーディネーターの地域資源把握に協力し、周知活動を支援する。（桜木、貝塚）④住民主体型サービスの支援を継続して行っている。⑤「気楽に桜木」（毎月水・土）「本人ミーティング」（1月、3月）を実施した。			
年度 総 括	自己評価	A	自己評価を 選択した理由	目標に掲げた具体的な取り組みについては、達成することができた。閉じこもり予防や、社会参加を兼ねて、認知症の方やその家族、ボランティア、生活支援コーディネーター等との連携で実施している、「気楽に桜木」は参加人数が増えてきた。また、「本人ミーティング」を桜木デニーズで開催（1月、3月）し10名以上の参加となり、活発な会話ができた。	
	次年度に向けた展望	①委託先居宅介護支援事業所からの相談や会議等で、介護予防ケアマネジメントについて千葉市介護予防ケアマネジメント手引き（第2版）に基づき支援する。②千葉市自立促進ケア会議に参加し事例提供を行い、実践力を養う。③生活支援コーディネーターの地域資源把握に協力し、周知活動や情報提供を支援する。④住民主体型サービスの支援を継続する。⑤「気楽に桜木」「本人ミーティング」を支援する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	①施設内については、オンライン等を活用して定期的に行っている。その他の研修にも積極的に参加し、援助技術の向上に努めている。②毎朝の朝礼で、スタッフ間の連携を図り、チームでの対応が速やかに図ることができた。③認知症サポーター養成講座については、中学生向け講座については現在調整中である。④終活相談については、他の圏域の方を含めて相談があり対応した。		
後期	具体的な取り組み状況	①施設内については、オンライン、動画研修等を活用して定期的に行っている。その他の研修にも積極的に参加し、援助技術の向上に努めている。②毎朝の朝礼で、スタッフ間の連携を図り、チームでの対応が速やかに図ることができた。（安否確認等）③認知症サポーター養成講座については、貝塚中学校で実施することができた。（1月）本人ミーティング開催にあたり、デニーズ職員に講座を開催した。（1月）④あんしんケアセンターから遠い、加曽利公民館で出張相談を実施した。（10月、12月、2月）⑤終活相談については、他の圏域の方を含めて相談があり対応した。（3月）		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	後期の取り組みとした活動や支援は、予定通り行うことができた。また、昨年できなかった中学校において、こどもカプロジェクトとして、貝塚中学校でオンライン開催を行うことができた。その後、同校より来年度の開催依頼の相談があり、高齢障害支援課と調整中である。また、桜木デニーズで「本人ミーティング」開催にあたり、職員の認知症サポーター養成講座をあんしんケアセンター桜木事務所内で開催した。公民館出張相談を積極的に行った。
	次年度に向けた展望	①施設内外の研修会に参加し援助技術の向上に努める。②毎日の朝礼、毎月のスタッフ会議、事例検討会で情報を共有し、担当者だけでなくチームでの対応を強化する。③センターだけで解決できないケースは、認知症初期集中支援チーム、行政、関係機関等と相談やアドバイス等で連携を図り、必要に応じて個別事例の地域ケア会議等を開催して情報の共有と問題の解決に努める。④あんしんケアセンターから遠い地域は、公民館等で出張相談を行う。⑤終活相談には、本人、家族のニーズに対応しながら、民間企業と協働し支援する。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	①若葉区内あんしんケアセンター社会福祉士を中心に、研修会を実施し専門知識の向上に努めた。（6月）②5センター合同で東警察署との情報交換会（特殊詐欺対策）を実施し、情報共有を図り、犯罪撲滅に向けて防犯アドバイザーとして活動することになった。（6月）③高齢者の虐待については、高齢障害支援課等関係機関と連携を図り、アドバイスや今後の進め方等について情報共有できた。④消費者被害防止のため、情報等についてはタイムリーに圏域内居宅介護支援事業所に送ることができた。（7件）		
後期	具体的な取り組み状況	①社会福祉士を中心に、年金について第2弾研修会を実施し専門知識の向上に努めた。（12月）②高齢者の虐待については、高齢障害支援課等関係機関と連携を図り、アドバイスや今後の進め方等について、適宜情報共有を図ることができた。④消費者被害防止のため、情報等についてはタイムリーに圏域内居宅介護支援事業所に送ることができた。（4件）⑤成年後見制度の活用で、相談しながら対応した。（3件）		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	高齢者の虐待については、高齢障害支援課と連携を図りながら対応し、長期対応となっている。しかし、判断に迷う点もあり、今後の展開に注意して対応している。判断能力低下の利用者については、本人および家族の意向に添うよう関係機関と連携し制度の利用に向けて支援した。
	次年度に向けた展望	①若葉区内あんしんケアセンター社会福祉士を中心に、ソーシャルワーカー連絡会を開催し連携と専門知識の向上を目指す。②5センター合同で東警察署との情報交換会を開催する。③千葉県高齢者虐待防止マニュアルに沿って、関係機関と対応する。④消費者被害を防止するため、情報の把握、地域住民、介護支援専門員向け情報提供を行う。⑤認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を深める。担当圏域の中学生向け講座（若葉区こどもカプロジェクト）を実施する。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①若葉区地域ケア会議については、後半実施に向け検討中である。②5センターでの定例地域ケア会議、自立促進ケア会議は、コロナ感染拡大の状況によりオンラインや集合形式で行うことができ、情報共有を図ることができた。③小さな圏域（桜木、千城台、大宮台）での多職種連携会議は、ハイブリッド形式で行うことができた。（7月）④生活支援コーディネーターとの連携を図り社会資源の情報を活用することができた。⑤介護支援専門員の支援として、5センター合同で研修会（5月）を開催した。居宅介護支援事業所の事例検討会に参加した。（7月）		
後期	具体的な取り組み状況	①5センター合同での若葉区地域ケア会議をハイブリッド形式で開催した。（3月）②5センター合同での定例地域ケア会議は毎月第3火曜日に開催した。その他自立促進ケア会議（11月）、若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク会議（3月）に参加した。③若葉区多職種連携会議をオンラインで開催した。（2月）④生活支援コーディネーターとの連携を強化し、社会資源、資源開発等の情報を共有した。また、活動の協議体に参加した。（3月）⑤介護支援専門員の支援として研修会開催（12月）や居宅介護支援事業所の事例検討会（3箇所）に参加した。個別地域ケア会議を相談時迅速に対応した。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	予定の取り組みは開催することができ、関係機関と連携や強化を図ることができた。コロナ化の中、関係機関との連携を図るため、オンライン、ハイブリッド、参集等 その時の状況に合わせた形態で研修会や話し合いの機会を開催することができた。
	次年度に向けた展望	①5センター合同での若葉区地域ケア会議を開催し、ネットワークの強化を図る。②5センター合同での定例地域ケア会議は毎月第3火曜日に開催し、地域課題の検討、情報共有を図り、地域ケア会議としての役割を果たすようにする。その他自立促進ケア会議、年度末は若葉区高齢者保健福祉相談ネットワーク会議とする。③在宅医療・介護連携支援センターの支援を受けながら多職種連携会議を開催する。④地域の地域ケア会議開催時は積極的に参加する。⑤生活支援コーディネーターとの連携を強化し、社会資源、資源開発等の情報を積極的に活用する。⑥介護支援専門員に対し研修会開催や居宅介護支援事業所の事例検討会、困難事例に助言等行い支援する。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	①行政の一般介護予防を地域に紹介、普及啓発活動を実施した。②シニアリーダー体操を支援し、地域住民に広報活動を行った。③地域の体操教室を、継続してあんしんケアセンター都賀と合同で支援した。④都賀コミュニティーセンターにおいて、出張相談会を実施した。（9月）若葉区民祭りは中止。⑤生活支援コーディネーターからの情報提供から支援に繋げることができた。⑥看護職会議に参加し、連携を図っている。		
後期	具体的な取り組み状況	①総合相談や介護予防ケアマネジメントに行政の一般介護予防事業の広報活動を行った。②シニアリーダー体操教室の支援（毎月）や地域住民への広報活動を支援した。（3月2か所）③地域の体操教室2か所月2回をあんしんケアセンター都賀と合同で継続して支援した。④都賀いきいきセンター祭り等で広報活動に努めた。（1月）⑤生活支援コーディネーターの情報から必要な情報を適宜提供できた。⑥若葉区あんしんケアセンターと行政の看護職会議に参加し、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」について会議に参加した。5センターの保健師、看護師で、口腔ケアのビデオ作製が提案され、作製し最終段階に至っている。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	地域の活動への支援を、状況を見ながら対応することができた。地域の体操教室も、工夫しながら（二部制にしたり）、対応することができた。また、口腔ケアのビデオを作製し最終段階の確認に至っている。地域住民に口腔ケアの大切さを周知できるよう前向きに取り組むことができた。
	次年度に向けた展望	①総合相談や介護予防ケアマネジメントに行政の一般介護予防事業の広報活動を行う。②シニアリーダー体操教室の支援や地域住民への広報活動を実施する。③地域の体操教室2か所月2回をあんしんケアセンター都賀と合同で支援する。④区民祭り、都賀コミュニティー祭り、都賀いきいきセンター祭り等で広報活動に努める。⑤生活支援コーディネーターの情報から必要な情報が適宜提供できる体制を整える。⑥若葉区あんしんケアセンターと行政の看護職会議に参加し、「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」について連携する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉県あんしんケアセンター千城台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・圏域は①モノレール沿線や御成街道沿いの地域は人口密度が高く、圏域総人口の9割が居住、②郊外の更科地区は田畑が多く農業が盛んだが人口密度が低く、高齢化や人口減少が進んでいる地域に分類される。 ・圏域総人口、高齢者人口ともにここ数年は減少傾向だが、モノレール「千城台北駅」「小倉台駅」周辺は住宅が整備され人口流入が進み、平成15年度と平成30年度の比較で夫々、年間約7万人、約11万人の駅利用者が増加した。 ・モノレール「千城台駅」は上記期間の比較で、年間利用者が約18万人減少、通勤通学でモノレールを利用する世代が激減、令和2年以降に小学校5校が3校に再編される等、少子高齢化が顕著となっている。 ・地域課題は、①圏域内に市営住宅1,683戸、県営住宅1,837戸が存在、経済面を含めた課題が複合化していること、②令和2年9月の圏域介護保険認定率が20,2%と同年の千葉県認定率の17,3%より高く、介護予防活動の普及啓発や実践が必要なこと、③75歳以上の単身高齢者割合が19,2%と高く、コロナ禍で外出機会や交流機会の減少により、社会的孤立や認知症、うつ等のリスクが高くなっており、感染防止に配慮した継続的な地域活動が必要なこと。			
活動方針 (総合)		・多様化、複合化する総合相談に対応するために、包括3職種が中心となり関係機関と連携を図りながら適切な支援を行い、個別課題の解決を図りつつ、地域包括ケアシステムのさらなる深化を図る。 ・コロナ禍における地域活動の縮小、フレイルといった現状に対し、地域住民が介護予防や健康づくりに関心を持つことで、積極的な自立支援、重度化防止を促す取り組みを行う。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・総合相談は包括3職種が個別ケースの進捗状況を情報共有しながら対応したほか、圏域居宅介護支援事業所や医療機関、民生委員等と連携で業務を遂行することができた。 ・コロナ禍での地域活動となったが、感染防止に配慮しながら対外活動を再開、サロン訪問や公民館での講話等、健康づくりに対する普及啓発活動を行うことができた。	
	次年度に向けた展望	高度化多様化する総合相談に3職種が連携して対応することで、課題解決に向けて速やかな対応を行う。そして必要な支援に結び付け、関係機関との連携が図れるよう圏域介護支援専門員情報交換会、多職種連携会議等を通じて顔の見える関係づくりを継続する。また、感染対策を行いながらセンター主催の健康づくりの場の開催や地域活動への支援を行うことでフレイル予防に向けた情報発信を行う。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・生活支援コーディネーターや地域団体と連携し、通いの場やインフォーマルサービスの情報収集に努めた。また、セルフケアマネジメント・介護予防ケアマネジメントに活用できるよう、利用者や介護支援専門員に向け情報提供を行った。 ・自立支援促進会議に委託事業所の介護支援専門員と参加することにより、自立支援に関する知識や手法を圏域内居宅支援事業所・介護支援専門員と広く共有できるよう努めた。			
後期	具体的な取り組み状況	・コロナ感染予防の規制緩和により、徐々に地域の通いの場やインフォーマルサービスが再開または、活動が正常化したりと流動的であった。その情報を地域団体や生活支援コーディネーターと連携・共有に努め、介護予防ケアマネジメントに活用できるよう利用者・ケアマネジャーに情報提供を行った。 ・地域の介護支援専門員に対し、介護予防や地域資源の理解が深められるよう講話会を開く。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・介護予防ケアマネジメントに活用できるよう、地域資源の情報収集はできた。しかし、コロナ禍で高齢化や感染予防を理由に地域資源が縮小傾向にある。そのため、自立支援に資する地域資源・インフォーマルサービスの十分な支援・情報提供はできなかった。 ・地域の介護支援専門員に介護予防の知識提供し連携を深めることができた。	
	次年度に向けた展望	・引き続き自立支援に資する地域資源やインフォーマルサービスの情報収集・提供に努める。また、介護支援専門員が自立支援に関する知識をより深め、地域資源の情報を活用することができ、利用者に対し介護予防・自立支援の支援ができるように、介護支援専門員や地域と連携する。 ・介護予防の資源として作成した口腔体操動画の普及に努め、セルフケアマネジメントにつなげられるよう啓蒙する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・若葉区内の相談員連絡会をハイブリッド方式で開催し、新たに社会保険労務士との関係形成を行った。 ・個別ケースにおいて障害・介護・医療担当者や地区担当民生委員と適宜双方相談や会議を行った。 ・地域住民に個別に社会資源の需要について聴取することができ、近隣の社会資源の提供希望団体とのマッチングを模索した。		
後期	具体的な取り組み状況	・現在活動している社会資源(備災に取り組む畑)の進捗と機織り教室等の新しい活動場所を直接出向き確認した。 ・若葉区内の医療・介護・障害分野の相談員連絡会を開催し、社会保険労務士の講師による年金制度の学習を行うことで自己研鑽の場にできた。 ・個別的な支援過程において医療・介護・障害等横断的に適宜相談を行い、必要に応じて会議を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選出した理由	・地域の社会資源として新たに機織り教室に訪問し、今後機織りの素材となる栽培者・教室主催者たちが合同で地産地消の新たな活動を始める場に立ち会い参加することができた。 ・新たに社会保険労務士会との連絡会開催を通してそれぞれの活動実態を理解した。 ・個別的事例において専門職・地区担当民生委員と連携し支援することができた。
	次年度に向けた展望	・医療、介護、障害各分野の相談員職の交流・勉強の機会として相談員連絡会を年2回開催する。 ・備災の畑づくりや機織り教室、有償ボランティアの活動等社会資源の具体的な活動内容を把握し、地域住民や関係機関の方々に適切に情報提供ができるよう努める。 ・各分野の相談員と交流し様々な分野の相談に対応できるよう、小規模での勉強会開催に向け土台づくりを行う。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・若葉区の相談員連絡会の企画を通して、千葉県社会保険労務士会との関係を築くことができた。 ・認知症サポーター養成講座を千城台西中、千城台高校剣道部（ステップアップ講座）、若葉図書館で開催した。 ・虐待（疑い含む）ケースの相談時にはケース会議を開催し、行政機関、民生委員、各事業所と速やかに情報を共有し対応することができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・個別ケースの対応を通して、司法機関と連携しネットワークを強化することができた。 ・更科公民館、いきいきプラザ、市新人職員向けに認知症サポーター養成講座を開催した。認知症当事者ご夫妻にご参加いただき、普段の生活の様子や希望をお話しいただいた。認知症の理解に加え、当事者の思いを伝えることができた。 ・消費者被害情報をセンター内に掲示し注意喚起を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選出した理由	認知症サポーター講座では当事者を招くという新しい形式で開催することができた。成年後見制度の利用や詐欺被害の相談においては、弁護士・司法書士と連携し、相談しやすい関係性を築くことができた。虐待（疑い含む）ケースでは関連機関と連携し速やかに対応することができた。消費者被害については、情報をまとめ市民へ発信していくことが不十分。
	次年度に向けた展望	・認知症になっても主体的に地域で活動できるような街づくりを目指す。そのために、地域住民や学生、関連機関に対し、認知症の正しい理解や関わり方を広めていく。 ・消費者被害の拡大を防止するため情緒を収束し、地域住民や関連機関に発信していく。 ・成年後見制度の普及啓発、権利侵害の早期発見や解決に努める。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・定期的な圏域内における居宅介護支援事業所を対象とした連絡会を2回開催し、虐待ケース対応などについての関係機関との連携や介護保険法の改正に伴う業務の変化や対応についての情報の共有などを行うことができた。 ・ソーシャルワーカーなどとの連携を通じて、支援環境の制度的整備を行うことは、必要性を感じつつも具体的な情報交換を行うなどの場を設けることはできなかった。		
後期	具体的な取り組み状況	・若葉区介護支援専門員連絡会にて、障害者制度から介護保険制度への移行におけるケアマネジメントについて研修を開催し、障害者制度について知識を深め多機関、多職種との連携、ネットワーク構築の一助となった。 ・圏域内介護支援専門員連絡会にて、介護予防事業について情報発信した。フレイル予防と地域社会資源について情報共有し、地域住民の心身の健康維持、住み慣れた地域での生活継続について考える機会となった。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選出した理由	・定期的に連絡会を開催し、関係機関とのネットワーク構築に寄与した。 ・介護支援専門員の身近な課題に対して情報提供し、ケアマネジメント力向上に努めた。 ・圏域の連絡会が4回開催の予定だったが、3回の開催となってしまった。 ・コロナの影響で、地域密着型サービス事業所との情報共有が積極的にできなかった。
	次年度に向けた展望	・定期的に開催してきた圏域の居宅介護支援事業所との連絡会を継続し、介護予防や自立支援促進、多職種多制度や困難ケース対応事例などの情報交流をおこなう。 ・地域密着型サービス事業所との情報共有、地域住民への情報提供をおこない、双方の地域交流に繋げる。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・行政や地域団体と連携し、地域高齢者に介護予防体操教室や講話会を開催し、介護予防の啓蒙・社会参加の場の提供を行った。また、生活支援コーディネーターと連携し、地域の活動の場の活性化に努めた。 ・既存の地域の活動の場に訪問し、円滑かつ効果的に継続されるよう支援するとともに、介護予防の啓蒙を行った。 ・新規の活動の場の立ち上げ・継続支援を行い、介護予防教室を開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	健康ひろばを2回実施、定期介護予防体操教室再開等地域の高齢者の社会参加・介護予防行動の場の提供に努めた。また地域高齢者により広く情報が行き届くよう、若葉区健康課の一体化事業と協働し、サークル活動団体等に対して介護予防知識の啓蒙を行った。更に既存の介護予防活動の場に関し、コロナ予防対策などの現状を把握し、円滑にかつ効果的に継続されるよう支援を行った。加えて地域資源を活用し介護予防口腔体操動画を作成した。		
年度 総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・健康課一体化事業の取り組みに連携することができ、“囲碁サークル”など普段、介護予防とは縁遠い団体にかかわるなど、当初、計画・想定していた以上の啓蒙活動の機会があった。 ・コロナ感染対策による活動制限の緩和により、開催場所の選択肢が増え、天候等に左右されない安定した活動の場の確保ができた。また、新規に参加する高齢者も増加した。
	次年度に向けた展望	地域の高齢者が閉じこもり・フレイルに陥ることのないよう、行政や地域団体と連携しながら、地域の介護予防ニーズに答えるべく新たな場の提供を検討していく。そして地域高齢者により広く情報が行き届くよう、自治会・住民団体・民間、既存の介護予防活動の場に対し、介護予防の資源として作成した口腔体操動画の普及に努め、セルフケアマネジメントにつなげられるよう啓蒙する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター大宮台			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		【地区概況】 ・若葉区でも面積の広い地域であり、農業が盛んで集落が点在している地域特性がある。 ・高齢化率46%を超える圏域であり、独居や高齢者世帯が多く、認知症(疑い)の方も増えている。 ・圏域内の商店や開業医が減っており、交通の利便性も良くない。 【地域課題】 ・何らかのニーズを持ってもサービスにつながっていなかったり、問題を抱えたまま生活しているケースが考えられる。複合的な問題を抱えたケースの相談が増えている。 ・買い物や通院、集いの場に出かける際に利用できる移動手段の確保が困難である。			
活動方針 (総合)		・各地域における地区特性や実情を踏まえて、地域ケア会議等を通じて地域住民が抱える課題を把握し、地域の様々な関係機関と連携を図りながら、「地域包括ケアシステム」の構築・推進に取り組む。 ・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、在宅医療・介護に関する情報収集や相談支援を行い、医療機関や介護サービス事業者等の高齢者に関わる様々な資源が協働できる体制づくりに取り組む。 ・コロナ禍においてもICT等を活用することで、他機関と連携し、会議等を開催する。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	圏域での地域ケア会議や説明会等を開催し、地区部会や自治会、民生委員等と連携を深めることができた。支援困難事例が多くなっているが、関係機関と連携して対応した。在宅医療・介護連携支援センターの協力を仰ぐことで、ICT等を活用しながら、連絡会や会議等は計画通り実施できた。	
	次年度に向けた展望	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが緩和されることにより、連絡会や会議等の開催方法をどうするか、地域活動をどのように行っていくかなど、最新情報を把握しながら、関係機関と連携して取り組む。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。公正・中立性の確保に努めた。 ・第2層生活支援コーディネーターとともに、社会資源や地域の活動状況の把握を行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・適切なアセスメントを行い、個々のニーズにあったサービスを提案した。公正・中立性の確保に努めた。 ・第2層生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、地域の活動状況を把握・共有しながら、適切な事業や活動につなげた。大宮いきいきセンターを訪問し、活動状況や利用者について情報交換を行った。第3回若葉区支えあい活動団体連絡会に参加した。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	第2層生活支援コーディネーターや関係機関と連携し、地域の活動状況を把握・共有することができた。適切なアセスメントを行い、適切な事業や活動につなげ、公正・中立性の確保に努めた。	
	次年度に向けた展望	・第2層生活支援コーディネーターや関係機関と連携して地域の活動状況を把握・共有しながら、個々のニーズにあった適切な事業や活動につなげるように努め、廃用症候群や閉じこもりの予防を図る。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・包括 3 職種が連携して対応し、継続・終結を含めた進捗管理を行った。支援困難事例については複数人で関わり、関係機関とも連携して対応した。 ・桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議(7月)と第1回若葉区介護支援専門員連絡会(5月)はオンライン形式で開催し、第18回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(6月)はハイブリッド形式で開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・包括 3 職種が連携して対応し、継続・終結を含めた進捗管理を行った。支援困難事例については複数人で関わり、関係機関とも連携して対応した。 ・若葉区多職種連携会議(2月)と第2回若葉区介護支援専門員連絡会(12月)はオンライン形式で開催し、若葉区地域ケア会議(3月)と第19回若葉区ソーシャルワーカー連絡会(12月)はハイブリット形式で開催した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選じた理由	新規相談は昨年度よりも若干減少し、延べ件数は増加する見込みである。支援困難事例が多く、包括 3 職種や関係機関と連携して対応した。「よろず亭」での出張相談は開催できなかった。連絡会や会議等は、在宅医療・介護連携支援センターの協力を仰ぐことで計画通り実施できた。認知症初期集中支援チームに依頼したケースは少ないが、チーム員会議には毎回出席した。
	次年度に向けた展望	・包括包括 3 職種の専門性を活かしたチームアプローチを実践する。また、関係機関とも連携を図る。 ・会議や連絡会等については、在宅医療・介護連携支援センターと連携し、状況に応じた方法で開催する。 ・多部田町にある自主活動の場「よろず亭」での出張相談の開催に向け関係者と連携する。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・新規虐待ケースは2件で、関係機関と連携して対応した。第18回若葉区ソーシャルワーカー連絡会をハイブリット形式で開催した(6月)。区内センター社会福祉士会議を開催した(2回)。 ・千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会をハイブリッド形式で開催した(6月)。区内センター管理者で生活安全課へ挨拶に行った(4月)。千葉東警察署管内電話de詐欺防犯アドバイザーを受嘱した。		
後期	具体的な取り組み状況	・新規虐待ケースは1件で、関係機関と連携して対応した。困難ケースについては、高齢障害支援課や健康課、社会援護課等と話し合ったり、同行訪問したり、連携して対応した。 ・第19回若葉区ソーシャルワーカー連絡会をハイブリット形式で開催した(12月)。区内センター社会福祉士会議を開催した(2回)。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選じた理由	虐待や困難ケースについては、包括 3 職種で連携し、高齢障害支援課の助言・協力を得ながら対応できた。新規の虐待相談は今年度も例年に比べて非常に少なかった。若葉区ソーシャルワーカー連絡会は区内センター社会福祉士が連携してハイブリット形式で開催できた。千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会もハイブリット形式で開催できた。
	次年度に向けた展望	・包括 3 職種や関係機関と連携して対応する。権利擁護について様々な場面で普及啓発を行う。 ・若葉区ソーシャルワーカー連絡会については、区内センター社会福祉士と連携し、内容や状況に応じた方法で開催する。千葉東警察署と介護サービス事業者等との情報交換会については、千葉東警察署生活安全課と相談して開催方法を検討する。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・圏域内介護支援専門員対象の情報交換会(7月)と第1回若葉区介護支援専門員連絡会(5月)をオンライン形式で開催した。区内センター主任介護支援専門員会議を開催した(2回)。 ・個別事例の地域ケア会議(2回)と定例地域ケア会議(集合2回・オンライン1回)を開催した。桜木・千城台・大宮台圏域多職種連携会議(7月)をオンライン形式で開催した。自立促進ケア会議に出席した(7月運営側・9月事例提供)。		
後期	具体的な取り組み状況	・圏域内介護支援専門員対象の情報交換会(1月)と第2回若葉区介護支援専門員連絡会(12月)をオンライン形式で開催した。区内センター主任介護支援専門員会議(2回)と管理者会議(1回)を開催した。 ・個別事例の地域ケア会議(1回)、白井地区地域ケア会議(11月)、若葉区地域ケア会議(3月)、定例地域ケア会議(集合4回)、若葉区多職種連携会議(2月)を開催した。自立促進ケア会議に出席した(11月事例提供)。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選じた理由	連絡会や会議等は、在宅医療・介護連携支援センターの協力を仰ぐことで計画通り実施できた。前期に加え、自立促進ケア会議、地域密着型サービス運営推進会議(出席2回・書面9回)、若葉区SC第一層協議体、高齢者保健福祉相談ネットワーク連絡会に出席して連携を図った。白井地区地域ケア会議の開催にあたり、白井地区部会と連携を深めた。
	次年度に向けた展望	・連絡会や情報交換会等の開催及び個々のケース対応のサポートにより、介護支援専門員のスキルアップを図り、お互いに相談し合える関係づくりを支援する。 ・在宅医療・介護連携支援センターと連携し、状況に応じた方法で会議や連絡会等を開催する。関係機関が開催する会議等に出席して連携を図る。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・「お達者カフェ」は開催を見合わせた。自主サークル9カ所の後方支援を行った(37回)。 ・406地区民生委員、410地区民生委員、26地区部会、大宮台自治会、本郷自治会の定例会、及び大宮いきいきセンターと若葉いきいきプラザにて説明会を行った。認知症カフェ「転ばぬ先の杖」の立ち上げ支援を行った。 ・新宮田自治会館と白井公民館、白井中学校にて認知症サポーター養成講座を開催した。		
後期	具体的な取り組み状況	・「お達者カフェ」の開催と「よろず亭」の活動支援は、新型コロナウイルス感染リスクを考慮して開催を見合わせた。公園での体操教室「青空のびのび講座」を開催した。自主サークル10カ所の後方支援を行った(37回)。 ・本郷自治会館にて説明会を行った(2回)。認知症カフェ「転ばぬ先の杖」での本人ミーティングに参加した。 ・野呂団地自治会館と高根自治会館、大宮中学校にて認知症サポーター養成講座を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	自主サークルには定期的に訪問して後方支援を行った。センター主催の2つの予防教室は地域の方がリーダーとなり自主サークルに移行できた。認知症サポーター養成講座や説明会を多く開催することができた。キッズ認知症サポーター養成講座打ち合わせや若葉区シニアリーダー連絡会は出席したが、若葉区介護予防事業に関する意見交換会は出席できなかった。
	次年度に向けた展望	・「お達者カフェ」の開催はコロナの状況を見て検討する。自主サークルやその他自主活動組織の後方支援を行う。 ・認知症や介護予防に関することなど、住民や中学校の要望に沿った講座を行う。 ・区内センターの保健師と看護師が連携し、口腔動画委員会を立ち上げ、口腔体操動画を作成中である。地域住民や団体等に提供し、フレイル予防・低栄養防止につなげる。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター鎌取			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		当圏域の高齢化率は市内で最も低いものの、高齢者人口の増加率は最も高くなっている。40代から50代の層が多いことから、今後は急速に高齢化が進んでいく。また、交通アクセスの良さ等から今後も人口の増加が見込まれている。圏域内には連帯意識の希薄化が散見される地域がある一方、従来の地縁関係が残り、住民同士の結びつきが強い地域も数多くある。人口構成や連帯意識など地域特性は様々である。こうした中で地域包括ケアシステムの構築を目指していく為には、地域特性を踏まえた介護予防や生活支援に関する受け皿、個々の生活状況に応じた住民主体の通いの場を創設していく必要がある。住民同士の結びつきを強めながら高齢者が安心して生活ができる体制の構築を推進していく。			
活動方針 (総合)		①地域住民や自治会、生活支援コーディネーターなどとの連携や多職種協働による地域ケア会議を開催し、地域課題の把握に努める。 ②住民同士の繋がりによる通いの場の創設を推進し、地域包括ケアシステムの構築を目指す。 ③コロナ禍や自然災害の際にも必要な支援をスムーズに提供するため、ICTの活用に努める。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	生活支援コーディネーター未配置の中、他専門職が生活支援コーディネーターの会議に参加し、情報収集及び、センター内で共有を図った。多職種協働で高齢者の課題を把握し、適宜、適切な支援に繋げることができた。コロナ禍でオンラインを積極的に活用し、事例検討会や会議を重ね、ネットワークの更なる構築に取り組むことができたと考えられるため。	
	次年度に向 けた展望	・多職種連携や多職種協働による地域ケア会議を開催し、高齢者の課題解決に向けた支援を行うとともに、地域包括ケアシステムの構築を目指す。 ・コロナ禍や自然災害の際にも切れ目なくサービスを継続できるように、ICTの活用拡大、事業継続計画（BCP）に取り組む。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取 組み状況	・総合相談やケアマネジメント支援において、介護保険サービスの提案にとどまらず、状況に応じてインフォーマルな資源の情報提供と利用提案を行った。 ・委託プランの内容を確認し、必要に応じ担当介護支援専門員への助言や当センターが把握しているインフォーマルサービス、生活支援サイトを案内した。			
後期	具体的な取 組み状況	・第一層生活支援コーディネーターに協力を得て、鎌取圏域内の高齢者サロンの情報を更新し、情報提供時の統一化を図った。サロンや公民館でコロナフレイルに係る講座を情報提供した。 ・委託プランについて、担当介護支援専門員に必要な応じてインフォーマルサービス、生活支援サイトの情報提供を行った。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	高齢者のセルフマネジメント力の向上を目指すため、介護保険などの公的サービスのみの提案に留まらず、地域におけるインフォーマルサービスなどの社会資源の提案も適宜行うことができたため。	
	次年度に向 けた展望	対象者がセルフケアマネジメントを考え、自主的に介護予防活動に取り組めるよう支援する。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・総合相談に関する申し送りを毎日行った。また、複合的な課題を有する世帯や虐待案件などは、迅速かつ適切に対応すべく、包括 3 職種間によるケース検討会議を行った。 ・民生委員や自治会をはじめ、様々な関係機関とのネットワークを活用することで、支援を必要とする高齢者の早期発見に努めると共に、相談支援体制の機能強化を図るべく、個別訪問での相談対応を積極的に行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・相談対応においては、毎日行う申し送りから、包括 3 職種間の情報共有を行うと共に、医療機関や介護サービス事業所等と連携し、適切なタイミングで必要とするサービスに結びつけられるよう支援を行った。 ・市民の多様化するニーズに対応すべく、終活に関する専門的な知識を有する民間企業と講演会の開催を協働し、情報発信に努めた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	包括 3 職種間での情報共有や関係機関との連携、専門的な知識を有する企業との協働などネットワークの活用を図ることで、課題の解決に向けた支援を行うことができたため。
	次年度に向けた展望	誰もが住み慣れた地域で安全に安心して生活できるよう、包括 3 職種の専門性を活かすとともに、相談者の気持ちに常に寄り添い相談対応をする事で、早期の課題解決に繋がるよう支援を行う。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・高齢者虐待については2カ月に一度の虐待連絡会の開催時に対応方法に関する検討や検証を行うことで、他のセンターの虐待対応を学び、職員のスキルアップに繋げることができた。 ・成年後見制度に関し、適切な情報を提供するとともに、適宜必要な専門機関に繋ぐことができた。 ・消費者被害に関する情報収集を行うとともに、個々の相談者に対し、必要に応じて注意喚起を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・高齢者虐待対応については、高齢障害支援課とも連携を図りながら、虐待の状況について精査し、虐待の解消に向けて支援を行うとともに、必要に応じて分離等を検討した。 ・3センター合同で権利擁護に関する勉強会を企画していたが、日程等の調整がつかず次年度に延期することとなった。 ・見守り活動団体の会合を中心に、消費被害や詐欺被害に関する注意喚起を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	権利擁護に関しては、包括 3 職種間で情報共有を図りながら、適切な対応が行えるように努めている。また見守り活動団体の会合に参加し、消費被害や詐欺被害に関する注意喚起を行うことで、被害防止に向けた啓発に繋がったと考えられるため。
	次年度に向けた展望	権利擁護業務を行うにあたっては、引き続き関係機関との連携を図りながら、迅速かつ適切な支援が行えるようにする。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・医療機関、サービス事業所、千葉市生活自立・仕事相談センター緑、緑区基幹相談支援センター、緑区高齢支援班、健康課、援護課などと必要に応じて連携し、支援体制の充実を図り高齢者の支援に結び付けることができた。 ・鎌取・菅田圏域の特定居宅介護支援事業所と今年度の研修計画について話し合い、オンラインによる事例検討会を2回実施した。介護支援専門員より延べ30件の相談を受け、プラン作成の助言や困難ケースの対応方法を協議した。		
後期	具体的な取り組み状況	・医療・介護及びインフォーマルサービスの情報収集、情報発信に努め、関係機関との連携を強化することにより、支援体制の充実を図り、高齢者を適切な支援に繋げていくことができた。 ・緑区の介護支援専門員を対象に、医療機関との勉強会を1回、鎌取菅田事例検討会をオンラインで5回開催した。専門職として介護支援専門員の立ち位置を再確認をした。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	複合的課題を抱える世帯の支援について、各関係機関と連携を図り、時間をかけながらも必要な支援に結び付けることができた。介護支援専門員との事例検討会はオンラインを積極的に活用し、計画的に実施できたため。
	次年度に向けた展望	・医療・介護及び多様な関係機関との連携を強化しながら支援体制の充実を図ることにより、高齢者が住み慣れた住まいで生活を続けられるよう支援する。 ・介護支援専門員の抱える課題やニーズの把握に努めるとともに、介護支援専門員同士のネットワークを強化し、包括的・継続的ケアマネジメントが実践できるよう環境を整える。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・活動中のサロン（9団体）へ参加した。熱中症予防、フレイル予防などの健康に関するミニ講座を8回、いきいき活動手帳について使い方を説明し、2団体へ計34冊配布した。 ・緑いきいきプラザと共催し、介護保険制度説明会、健康測定会、健康講座の開催を調整した。しかしながら、コロナ感染拡大の影響により、健康測定会と健康講座は中止せざるを得なかった。		
後期	具体的な取り組み状況	・体操教室やサロン（10団体）へ参加した。健康に関するミニ講座を9回実施。 ・緑いきいきプラザと共催し、動脈硬化予防に関連したミニ講座と、健康測定会及び体操を実施した。 ・定期的にシニアリーダー連絡会へ参加することで、顔の見える関係性作りと適時活動状況の把握に努めた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	地域活動の場への積極的な参加により、顔の見える関係性作りや健康維持・増進のための支援を行うことができたため。
	次年度に向けた展望	・元気なうちから積極的に健康づくりや介護予防に取り組むきっかけとなるように、地域に向けて広く介護予防の普及啓発に努める。 ・介護予防に向けた取り組みが自主的に実施されるように、地域活動団体への支援を行う。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター 菅田			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・圏域内（４町）の高齢化率は約26%と、ここ数年で大きな変化はない。特に平川町は高齢化率が40%を超え、後期高齢者は20%を超えている。面積は広いが交通手段がない。地区である。菅田町３丁目も高齢者率32%と高く、同様に後期高齢者は20%を超えている。町内の多くが急な坂道になっている。２町とも高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるには厳しい環境にある。 ・圏域を東西に走るJRとそれに並行している幹線道路を運行しているバス以外に交通手段はない。生活に必要なスーパー、銀行や郵便局などは、この幹線道路沿いにある。少しでも離れた地域に住んでいる高齢者は、自力で出てくることができなくなっている。さらに幹線道路の歩道は狭く平坦ではないため、歩行器を使っても歩きにくい。ましてセニアカーは走れず、車道を利用するしかなく危険が大きいことから、利用を勧めることが難しい。その結果、ますます自力で移動する手段がなくなっている。 ・昨年来、訪問看護ステーションの開設が続いている。住民と医療機関との橋渡し役の強化が期待できる。 ・コロナ禍で虐待や生活困窮を含む多問題の相談が増えている。			
活動方針 （総合）		１．第２層生活支援コーディネーターと協働で、①多少不便でも住み慣れた地域で生活するために必要な筋力や体力を維持できるように、運動教室などを立ち上げていく。②インフォーマルサポートグループの立ち上げや拡充を支援し、生活の不便さを補える環境を整えるような活動を進める。また高齢者自身にも地域での役割を持ってもらい、自分のこととして共に活動に参加してもらう。③様々な角度から地域診断を行う。 ２．医療関係者や介護保険関係者との連携を深め、地域ケア会議やネットワーク会議で課題解決の糸口を見出していく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	第２層生活支援コーディネーターによる意向調査もあり、徐々に地域活動などが再開できた。菅田あんしんネットワーク会議も参集型で開催できるようになり、「地域課題解決に向けた地域ケア会議」を開くことができた。また総合相談の件数が増え続け、相談内容も複雑化していたが、各種関係機関や関係職種との連携で迅速に、丁寧に対応できた。	
	次年度に 向けた展 望	・第２層生活支援コーディネーターとともに、住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なサポート活動を増やすと同時に、民間のサポートグループを立ち上げていく。 ・医療や障害関連をはじめとした、各種関係機関との連携を深め、多問題を抱える相談や複雑化した相談の解決に向けたチームを構築する。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取 組み状況	・コロナ禍であっても活動している場の情報提供や自宅でもできる体操のパンフレットを配布し、活動量が低下しないように促している。通いの場へつなぐ話を出したケースもあったが、コロナのことがあり話は進まなかった。 ・対面式や参集型の活動はほとんどできなかったため、住民の声を聞く機会が少なかった。そのなかでも住民の希望をもとに地域のスーパーに働きかけた結果、移動販売の運行が実現できた。			
後期	具体的な取 組み状況	・第２層生活支援コーディネーターとともに社会資源マップやインフォーマルマップを作成・更新し、配布できた。 ・「感染症を理由に利用を見合わせる」という人が減り、一年を通して通いのサービス利用が続けられた。 ・移動販売について、アンケート調査を行った。この時の会話の中で、「この時間が団地内での交流の場となっている」ことが明確になった。			
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	情報の発信を続けることができた。また移動販売の導入が、地域の活性化につながった。一方で、潜在的な要支援者の発見ができなかった。また地域の介護支援専門員に対して、インフォーマルサービスの効用を周知できなかった。	
	次年度に 向けた展 望	・第２層生活支援コーディネーターとともに、地域の介護支援専門員に対し、インフォーマルサービスの利用にも目を向けてもらえるような働きかけを行う。 ・サービスの利用にあたっては、「その人らしい暮らしとはどのようなものか」「住み慣れた地域で暮らし続けるために何が必要か」について、より丁寧に聞き取り実現に向けた取り組みを進める。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・生活自立・仕事相談センター緑の支援調整会議に参加し、情報を共有している。現在連携してフォローしているケースは少ないが、双方の支援体制を理解しセンター内で共有している。 ・寄せられた相談に対しては、状況把握を行い、まずセンター内で支援について意見を交換し、さらに必要なネットワークを活用し支援することができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・生活自立・仕事相談センター緑と緑区障害者基幹型相談センターとともに継続フォローしているケースについて、個別ケース会議を開いた。 ・12月に民生委員の改選があった。改めてあんしんの周知を行ったが、その直後から相談が寄せられている。 ・出張相談など、身近な相談窓口を開くことができなかった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	相談件数が増え続ける中でも、ネットワークを活用しつつ迅速に対応できたが、欠員ということもあり、初回相談に一人で訪問することが多かった。 年度の後半、孤独死が続いたので、地域ケア会議を開催し、見守りについて検討することができた。
	次年度に向けた展望	・自治会館や集会所を活用した出張相談窓口を開設するなど、身近な相談場所を増やしていく。 ・所内でのチーム支援体制を再確立し、そのうえで多機関との連携による支援体制を強化していく。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・個別ケースについて、高齢障害支援課、生活自立・仕事相談センター緑、千葉市成年後見支援センター、緑区障害者基幹相談支援センターと連携し、対応策を検討した。 ・緑区虐待対応連絡会に参加し、事例の提供、事例の対応策等の情報共有ができた。また、『千葉市高齢者虐待対応マニュアル』が改訂された直後に、虐待事案が発生し、新しいマニュアルで行動を確認しながら支援することができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・関係機関と継続フォローしており、会議などで対応策を検討できている。 ・消費者被害防止について、広報紙で周知した。老人会や認知症カフェで、オレオレ詐欺について啓発した。 ・緑区虐待対応連絡会に参加し、事例を通して対応策などの情報を共有できた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	緑区虐待対応連絡会や生活自立・仕事相談センターの会議で、情報の収集や共有はできたが、生活困窮者の生活を改善するところまでには至っていない。また会議や事例を通して、虐待対応に対する職員のスキルアップをすることで、「虐待」の早期発見や「虐待防止」活動につながるようにしたい。
	次年度に向けた展望	・会議や事例を通して対応策などの情報を得たり、スキルアップにつなげる。 ・介護支援専門員に対して、権利擁護に関する情報や知識の周知を行い、被害を未然に防げるような働きかけを強化する。 ・広報誌の活用に加えて、警察や行政の関係課との連携を深め、地域への周知活動を行う。		
5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・毎月、オンラインによる事例検討会や講座あるいはケアマネ連絡会などで、地域のケアマネが意見交換する場を作れた。 ・多職種連携会議で「おひとりさま支援」について意見交換ができた。この会議では初めて不動産管理会社や郵便局からの参加、民生委員の参加人数も増え、より地域からの声が多くきかれた。 ・菅田あんしんネットワーク会議を書面2回・参集1回開催して地域の活動状況や課題について検討した。		
後期	具体的な取り組み状況	・後期もほぼ毎月ケアマネが意見交換のできる場を作れた。また医療職との事例検討会を開いた。 ・居宅介護支援事業所や主任ケアマネに対してアンケートを取り、現状の確認や今後に向けた意向を調査した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	圏域のケアマネだけでなく、緑区全体のケアマネと意見交換や情報共有することができた。しかしオンラインでの参加ができない居宅介護支援事業所に対して資質向上に向けた支援が提供できなかった。
	次年度に向けた展望	・地域のケアマネから、「地域ケア会議などで介護保険関連以外の方と意見交換をしたい」と希望が出ているので、その実現に向けた地域ケア会議を、年間数回開催し、介護保険と地域とが密接につながる機会を作る。 ・特定事業所や主任ケアマネと協力して、地域のケアマネのスキルアップを図る。		

6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・生活支援コーディネーターが中心となって支援し、認知症カフェを立ち上げることができた。 ・毎月開催予定のほんだ貯筋倶楽部は、4月から3回実施した後、休止状態になっている。その間フレイル予防に資する資料などを郵送して自主運動を促した。一昨年から休止している認知症カフェの登録メンバーにも同様の働きかけを行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・ほんだ貯筋倶楽部を継続して開催できるようになった。地域のNPOや緑いきいきプラザと協働できた。 ・二か所の長寿会に対して、地域リハを活用したミニ講座を開いた。		
年度 総 括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	地域での活動を少しずつ再開できたことは良かった。 第2層生活支援コーディネーターによってサロンなどの現状や意向は知ることができたが、こちらからサロンを訪問することはなかった。 いきいき活動手帳の普及ができなかった。
	次年度に向けた展望	・長寿会だけではなく、サロンにも訪問し、ミニ講座や基本チェックリストの実施などを行い、介護予防やセルフケアの意識を高めていきたい。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター土気			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		【地区概況】 人口44,417人　高齢者人口13,330人　高齢化率30%（令和3年12月末時点） JR外房線を境に北部は旧農村地域で昔から居住する住民が多く、南部は30年程前に開発された新興住宅地と宅地開発され40年経過した戸建ての団地が混在する地域。 【地区課題】 ・子育て世代の転入で高齢化率が10%に満たない新興住宅地と宅地開発され40～50年経過し、高齢化率が45%を超えている戸建て団地の地域が混在しており、圏域全体で高齢化が進行している。 ・高齢化率が高い地域は単身や高齢者夫婦のみの世帯が多く、孤独死の発生や老老介護の状況が多く見られる。 ・圏域全体が交通の便が悪く、通院や買い物、通いの場等への移動に困っている高齢者が多い。 ・高齢者と同居する家族が精神疾患や障害を抱えている等8050問題や複合的な課題を抱える世帯の相談が増加している。 ・入院可能な医療機関が1か所しかなく、総合病院ではない為、遠方の医療機関へ入院しなければならない。			
		活動方針（総合） 1．高齢化率の高い地域では複合課題を抱える事例が多いため、障害福祉や児童福祉等の相談機関も含めた関係機関や地域との連携を強化し、家族全体を支援できるよう支援体制づくりを行うとともに、地域課題解決に向けた検討や認知症施策に関する地域への働きかけ、通いの場等地域の活動団体への支援を行っていく。 2．高齢化率が比較的低い地域では地域へ出向き、センター（出張所含む）の周知及び健康づくり、介護予防に関する啓発活動を積極的に行っていく。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	複合的課題を抱える事例への支援活動を通じて、障害福祉や生活困窮等様々な相談機関や民生委員等地域の関係者との連携を図ることができた為。 また、民生委員や自治会の会合、地域のサロン等へ出向き、センターの周知と健康づくり、介護予防に関する啓発が継続できた為。	
	次年度に向けた展望	・今後も地域の高齢化が進み、複合的な課題を抱える世帯に関する相談が増加する事が予測されることから、高齢者やその家族の支援に関わる様々な関係機関や地域との連携を密にし、多機関、多職種での支援体制の強化を図っていく。			

2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	①介護予防・日常生活支援総合事業利用者に対して、適切なアセスメントに努め、個々のニーズに合わせた自立支援に繋がるよう地域のインフォーマルな社会資源を活用したケアマネジメント実践に努めた。 ②生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の収集発信を行った。また、生活支援コーディネーターを中心に地域の活動団体等とインフォーマルな支援について検討するインフォーマルケア会議を実施した。		
後期	具体的な取り組み状況	①利用者に対して、適切なアセスメントに努め、個々のニーズに合わせ、地域のインフォーマルな社会資源を活用したケアマネジメント実践に努めた。 ②生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の情報収集と利用者に対して情報発信を行った。また、生活支援コーディネーターと共に地域の活動団体等とインフォーマルケア会議を継続して実施し、地域資源やインフォーマルな支援について話し合う会議を行った。 ③自立促進ケア会議を2度、インフォーマルケア会議を毎月行い、地域資源や利用者の自立支援の為に検討を行った。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	ケアマネジメントを行うにあたり、地域のインフォーマルな資源の活用を含めたマネジメントが行えている為。
	次年度に向けた展望	・生活支援コーディネーターと連携を図り、地域のインフォーマル資源の情報収集や発信を継続して行う。 ・インフォーマルケア会議を継続的に実施することで、地域ニーズの把握や、新たな社会資源の創出に繋がるようにする。		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	①総合相談についてはセンター内で共有し、緊急性の判断や支援方針を立て、状況に応じて複数職員でチームで対応している。 ②8050事例等高齢者だけでなくその家族への支援も含め、関係機関（行政や仕事相談センター等）と連携し、地域ケア会議等を実施し、対応した。③圏域内にある4地区の民生委員の会議への参加や地域のサロン等高齢者が集う場へ出向き、センター（出張所含む）の周知活動を行った。④生活自立仕事相談センター緑と協働し出張相談会を2度実施した。		
後期	具体的な取り組み状況	①複合的な課題を抱える困難事例等はセンター内で情報を共有し、複数職員でチームで対応した。 ②8050事例等障害者基幹相談支援センターや生活自立仕事相談センター等関係機関と連携を図り、高齢者だけでなく、その家族も含めた支援を行った。圏域内の民生委員の会議や地域のサロン等高齢者が集う場へ訪問し、センターの周知活動を継続的に行った。③生活自立仕事相談センターと共に出張相談会を2度実施し、相談が1件あった。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	複合的な課題を抱える事例に対し、地域ケア会議やケース会議等関係機関と連携を図り、高齢者だけでなくその家族への支援も含めて対応することができた為。
	次年度に向けた展望	・複合的な課題を抱える事例が多い為、行政担当部署の他、障害者基幹相談支援センターや生活自立仕事相談センター、医療機関等様々な関係機関との連携を密にしていく。 ・民生委員や自治会、地域のサロン等へ出向き、センターの周知活動を継続して行っていく。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	①高齢者虐待に関する相談に対して、高齢障害支援課と対応を協議し、連携して対応できた。 ②親族からの協力が得られない認知症高齢者について介護支援専門員から複数件相談を受け、成年後見制度の利用に関して高齢障害支援課や法テラス弁護士、司法書士等と連携し、申立てに繋がった。 ③消費者被害に関する情報を民生委員や自治会長、介護支援専門員に対して周知し啓発を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①高齢者虐待に関する相談について高齢障害支援課とケース会議等で対応を協議し、連携して対応した。 ②身寄りがなかったり親族からの協力が得られない認知症高齢者について介護支援専門員から複数件相談を受け、高齢障害支援課や法テラス、弁護士等司法専門職と連携し、4件成年後見申立てに繋がった。あんしん合同での勉強会は実施できなかったが、法テラスの協力を得て、介護支援専門員に対して成年後見制度に関する研修会を実施した。③地域ケア会議時に消費生活センター担当者に出席頂き、消費者被害に関する情報について民生委員や社協地区部会等関係者に周知した。介護支援専門員に対しても消費者被害に関する情報を随時メールにて周知した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・法テラスや弁護士、司法書士等司法関係者と連携し、成年後見制度利用につなげることができたこと、介護支援専門員に対し、成年後見制度に関する研修会ができた為。 ・消費者被害について消費生活センターと連携し、幅広く情報発信ができた為。
	次年度に向けた展望	・「高齢者虐待防止」、「成年後見制度利用促進」、「消費者被害防止」について関係機関と連携を図り、地域住民や民生委員、介護支援専門員等への情報発信を継続していく。 ・権利擁護の対応が必要なケースについては関係機関と連携し、迅速に適切な権利擁護制度につないでいく。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①介護支援専門員が抱える困難事例について個別ケース会議や地域ケア会議を開催し、関係機関と連携し後方支援を行った。 ②民生委員や自治会長、社協地区部会等地域の関係者と地域課題共有、検討する地域ケア会議を4回開催した。 ③介護支援専門員を対象とした研修会、事例検討会をオンラインで計画的に行えた。・5月に圏域の介護支援専門員を対象に法テラス弁護士による成年後見制度の研修会を行った。・6月と9月に圏域の介護支援専門員対象の事例検討会を行った。 ・7月に緑区あんしん合同で介護支援専門員と生活自立仕事相談センター緑との合同事例検討会を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①介護支援専門員が抱える困難事例について個別ケース会議や地域ケア会議を開催し、関係機関と連携し後方支援を行った。 ②民生委員や自治会長、社協地区部会等地域の関係者と地域課題共有、検討する地域ケア会議を4回開催した。 ③介護支援専門員を対象とした研修会、事例検討会をオンラインで計画的に行えた。10月に民生委員と圏域の介護支援専門員との意見交換会をオンラインで実施し、Zoom機能を利用しグループワークができた。緑区内あんしん合同で病院の医療ソーシャルワーカー、訪問看護事業所、介護支援専門員とでオンラインで事例検討会を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・介護支援専門員からの相談事例等個別事例の支援を通じて関係機関との連携強化、ネットワーク構築ができた為。 ・地域課題検討の為の地域ケア会議が継続的に実施できた為。 ・圏域の介護支援専門員を対象とした事例検討会や研修会について、オンラインでのグループワーク機能の操作を習得し、機能を活用することで活発に意見交換ができるようになった為。
	次年度に向けた展望	・介護支援専門員が抱える困難事例に対して必要に応じて関係機関と連携し、包括的な支援を行う。 ・地域課題共有、検討する地域ケア会議を定期的に開催し、充実した内容にする。 ・介護支援専門員に対する研修会を継続的に開催する。圏域ケアマネ研修会3回/年、圏域事例検討会4回/年、主任介護支援専門員意見交換会1回/年、緑区合同研修会2回/年を予定している。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	【介護予防普及啓発事業】・出張健康相談（土気公民館・あすみが丘プラザロビー）を4回実施した。（延べ参加人数27名） ・いきいきサロン7か所訪問した。うち3か所でいきいき活動手帳の説明・配布、4か所は地域リハ活動支援事業を活用し、介護予防の普及啓発を行った。・いきいき活動手帳は91冊配布した。 【介護予防活動支援】・4か所の地域の通いの場の関係者と協働し、活動支援を継続した。7月に健康課にも協力依頼し、新たな通いの場の立ち上げ支援を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・出張健康相談は2会場で合計4回実施した。延べ参加人数は9名。 ・いきいきサロン7か所訪問した。4か所で地域リハ支援事業を活用し理学療法士による運動指導等実施した。3か所はちばいきいき活動手帳についての説明・配布を行った。 今年7月に立ち上げた通いの場も定期的な開催が継続できている。運営について後方支援を行っている団体が5団体あり、不定期ではあるが訪問を継続し、運営状況の確認と支援を行った。		
年度総括	自己評価	A	自己評価を選択した理由	・昨年度より、サロン参加者・地域活動参加者・いきいきセンターいきがい活動参加者を対象にちばいきいき手帳の配布説明を実施しており、今年度合計161冊配布することができた為。 ・活動の支援を行っている地域の通いの場は、コロナ禍で休止時期もあったが活動を継続でき、参加人数も維持または増加している。健康相談会は参加人数が少ない状況。
	次年度に向けた展望	・R3～4年度で圏域内のサロンや活動の場についてはいきいき活動手帳の配布は終了しており、次年度からは活用の継続に向け意識づけを行えるよう支援を行っていく予定。また地域活動団体への介護予防普及啓発や実施内容の活性化を目的に、地域リハ活動支援事業や出張出前講座などの情報提供も行い、活用への支援を行う。地域活動の場の後方支援も継続する。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター真砂			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		●独居・高齢世帯からの相談が増加している。（令和3年度※1月末時点 世帯別相談割合 独居高齢者↓32.1% 高齢世帯↑37.2% 同居↓20.6% その他↑3.2% 不明↑6.9%）※矢印 令和2年度比 ●認知症・精神・知的障害など複数の問題を抱える世帯が増え、成年後見制度等、他制度への繋ぎが必要な方及び高齢者虐待の疑いも含めた対応の増加。（成年後見制度 令和2年度 新規20名延べ324回 ⇒ 令和3年度※1月末時点 新規20名延べ301回。／高齢者虐待 令和2年度 新規10名延べ101回 ⇒ 令和3年度※1月末時点 新規9名延べ対応件数111回） ●障害の制度や法的な問題に対しての地域住民及び専門職や支援者のサポートが必要である。 ●近隣との交流・見守り体制が希薄、相談・支援先を知らないことで問題が潜在化、事態の重症化を招き易い。 ●エレベーターのない低中層住宅がおよそ80棟あり、居住する高齢者の閉じこもりや外出困難が問題となっている。			
活動方針 （総合）		●地域の課題を住民へ伝え、介護予防及び地域の見守り意識を高める。 住民からの通報により、要支援高齢者が早期に発見され、住み慣れた地域で安心して暮らせるように総合相談支援、権利擁護、介護予防ケアマネジメントなど適切な支援につなげる。 ●地域包括ケアシステムの推進に向けて、介護予防講座の開催、介護予防活動団体への支援、1層生活支援コーディネーターとの 連携により、地域住民や関係機関・団体とのネットワーク構築を図る。真砂圏域への2層生活支援コーディネーターの配置する。 ●在宅医療と介護、障害の情報収集に努め、複合的な問題を抱える世帯への相談支援及び連携体制の基盤づくりに取り組む。 ●介護予防、地域課題の普及啓発や会議等は、ICT環境の有無などニーズを把握した上でオンラインも含めた方法で行う。 ●自然災害や感染症のまん延などの不測の事態においても、適切なセンター運営ができるようにBCP作成に取り組む。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	複合的な課題を抱える高齢者及び世帯に対し適切な支援に繋げるため、新型コロナウイルスの感染拡大防止に十分に配慮し、真砂圏域及び美浜区で関係機関と多職種連携会議を対面＋ズームによるハイブリッド開催で実施できたこと。住民向けの測定会やミニ講座の開催を通じて地域の課題を伝え、介護予防や地域の見守りの重要性について普及啓発に取り組み、年度当初の活動計画を概ね実践する事ができた為B評価とした。	
	次年度に向 けた展望	高齢者自身が元気なうちから健康づくりや介護予防に取り組めるように地域の関係機関や団体とネットワークを構築し適切な情報提供や繋ぎ支援を行う。情報提供や支援環境の整備においては、次年度新たに圏域に配置する2層生活支援コーディネーターを活用する。一方で高齢者虐待など複合的な問題を抱えている世帯への支援について対応力を高めるため、千葉市や既存の相談窓口との新たな連携・協働体制づくりに取り組む。美浜区の主任ケアマネの組織化や研修会の実施により、ケアマネジメントの質の向上に取り組む。地域の介護支援専門員の困難事例に対し、同行訪問や関係者会議の調整など支援を行い、負担軽減を図る。また近年のケアマネ不足について実態調査を行い、住民の介護サービス等の利用に支障がでないよう千葉市、在宅医療・介護連携支援センターとも連携し、対策を講じる。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取 組み状況	①ケアプランの作成については千葉市総合事業の他、「ささえあいまさご」、「ケアサポートあいあい」、「ヘルパーリンク」など保険外自費のサービスを位置付けた。委託先のケアマネジャーに対しても幅広い主体からサービスを選択するように指導・助言を行った。ケアマネジャーの紹介は特定の事業所へ偏る事が無いようにケアマネ照会票を確認しながら行った。②相談者へ社会資源情報の提供については、1層生活支援コーディネーター、UR生活支援アドバイザーと連携し行った。併せて千葉市の生活支援サイト、センター保有の社会資源ファイルを活用した。			

後期	具体的な取り組み状況	①前期に引き続き、ケアプランへ民間の生活支援サービスなど保険外自費サービスを位置付けた。委託先のケアマネジャーに対しても、プランへのコメント、ケアマネジメントチェック、ケアマネジャーからの相談時に民間のサービスの情報提供を行い指導・助言を行った。ケアマネジャーの紹介は紹介履歴を確認し、偏りがないように行った。要支援のプラン作成依頼を断られる状況が多く、受けてくれる事業所へ依頼する状況もあった。サービス事業所については公正中立調査により状況を把握し、偏りがないように注意した。②UR生活支援アドバイザー、1層生活支援コーディネーターとの連携、千葉市サイト、当センターのファイルを活用し情報提供を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	直営のケアプラン作成時に幅広く、様々な主体からサービスを選択することを徹底し、委託先のケアマネジャーに対しても同様に助言・指導を行ったこと。1層の生活支援コーディネーターに加え、UR生活支援アドバイザーと共に地域課題の把握に取り組み、地域住民に対し、介護保険制度について説明するとともに地域課題や住民主体の重要性、介護予防について普及啓発を行うことができた為、B評価とした。
	次年度に向けた展望	○介護予防及び日常生活の自立のため利用者の状況に応じて、適切なサービス提供されるように援助を行う。 ○介護保険サービスなど公的な支援の他、「地域コミュニティの中での孤立・閉じこもり予防」「社会参加」「生きがいづくり」等についても配慮し、通いの場やインフォーマルサービスなども個々のニーズに合わせて活用する。		
3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	①-1、①-2とも計画通り実施した。要支援認定を受けた96名の介護保険サービス利用希望者に対して、居宅介護支援事業所へ229回の担当依頼を行った。多様な相談に対し課題を把握し、緊急性を踏まえた上で高齢・障害関係機関と連携し、適切な制度やサービスへ繋げた。②総合相談の実績内容を分析し、地域課題を把握した。様々な相談支援機関との連携、協働の体制づくりを早期に進めることが必要であるとの結論に至り、美浜区高齢障害支援課、生活自立・仕事相談センター、障害者基幹相談支援センター、社協美浜区事務所コミュニティソーシャルワーカーとの連携会議の開催を計画した。		
後期	具体的な取り組み状況	①-1 ケース会議では対象者及びご家族等の課題に対する担当者の支援方針をセンターで検証することを徹底した。①-2 計画通り実施した。要支援認定の75名に対し、205回の担当依頼を行った（2/28時点）。多様な相談に対し、課題及び緊急性を踏まえ主治医・弁護士・身元保証団体、高齢障害支援課・美浜障害者基幹相談支援センター・生活自立仕事相談センター美浜など関係機関と連携し支援を行った。②相談支援機関との連携、協働の体制づくりの為、圏域の相談支援事業者と多職種連携会議を開催した。（具体的な内容は5包括的～④に記載）		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	相談件数の増加に専門職が対応が出来るようにケース会議を見直し、支援方針の決定、見直しをタイムリーに行うことができた事。ケアマネジャーの紹介にあたり居宅介護支援事業所とのネットワークを活用し、可能な限り速やかに紹介を行い、見つからない方についてはセンター専門職が対応し、待ち時間が無い様に手配した。複合的な課題を抱える方の相談支援の為、ネットワーク構築、連携を目的として圏域の多職種連携会議を開催したことを踏まえ、B評価とした。
	次年度に向けた展望	○ワンストップの相談窓口として多様な相談に対し、対象者及び家族介護者を含む家族全体への支援を行う。支援では的確な状況把握を行い、包括3職種協働で支援の継続・終結の判断、進捗管理を行う。 ○地域特性やニーズ・課題の把握に努めると共に様々な関係者とネットワーク構築を図る。また、複合的かつ支援困難な事例に対しては行政及び関係機関・多職種と連携し対応する。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	①虐待疑いケース22名に対し、美浜区高齢障害支援課、ケアマネ、サービス事業所と連携し、必要に応じてコア会議を開催。今年度は6名の虐待の認定に至った。②権利擁護に関する研修について地域包括支援センター基礎研修を2名受講済み。後期に課題別研修「高齢者虐待対応のプロセス」にも2名申込済み。③9/18真砂地区地域運営委員会で住民に対し、詐欺・悪質商法の被害、手口、対策について報告。詐欺被害等防止の普及啓発を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	①虐待疑いケース9名に対し、美浜区高齢障害支援課、ケアマネ、サービス事業所と連携し対応した。11/10コアメンバー会議に参加。虐待の認定と共に、対応や注意点について検討し、今後の方針を纏めることができた。②未受講であった2名の専門職について12/8「虐待防止法について」、1/19「虐待対応プロセス」の内容で受講済み。③10/20、21、1/7、12、20、2/27ラジオ体操会、10/28当センター主催の介護保険講座、12/15-12/20真砂いきいきセンター教養講座、1/28社協真砂地区部会、民生委員向けの研修会で詐欺・悪質商法被害防止の普及啓発を行った。また、居宅介護支援事業所には12/20に書面により53事業所へ詐欺への注意喚起を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	高齢者虐待（疑い）ケースへの対応を行政や警察、関係機関と連携しコアメンバー会議に参加し適切に支援を行うことができた。成年後見制度の利用支援・促進について千葉市成年後見支援センター、区高齢障害支援課、弁護士等の専門職に助言を得ながら進めることができていた。高齢者の権利擁護の普及啓発について対面で直接市民の方に行う機会が多く持てたこと、地域のケアマネジャーに対しても注意喚起を行うことができた。権利擁護に関する研修を全ての専門職が受講し、資質向上に取り組めた。
	次年度に向けた展望	○高齢者虐待に対し、速やかに行政へ報告すると共に、関係機関と連携し、適切に支援する。 ○介護支援専門員に対し、権利擁護に関する研修をあんしんケアセンター社会福祉士連絡会と協働で実施する。 ○高齢者の詐欺・悪質商法被害を未然に防止するため、地域住民や関係機関に対し情報を提供し注意を促す。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	①地域の会議体に参加し関係機関や団体とのネットワーク構築をはかり、支援環境の整備に取り組んだ。②支援困難事例を担当する介護支援専門員の相談、同行訪問、ケース会議の調整などの支援を（利用者52名延べ117回）行った。③真砂圏域のケアマネ連絡会を会場とオンライン環境で開催した。④個別事例の検討4回（2ケース各2回）、自立促進ケア会議1回、地域課題の検討1回の地域ケア会議を開催し対面で参加した。前年度の地域ケア会議で決定した体操会の立上計画から、UR真砂第2団地のラジオ体操が開始となり活動支援を行った。ラジオ体操参加者のニーズから同地域でのミニ講座を計画し10/28の開催が決定した。10/20～UR真砂第1団地5丁目ラジオ体操の開催が決定した。		
後期	具体的な取り組み状況	①10/19支え合いのまち推進協へ参加、圏域の現状や課題、取り組みについて報告を行った。11/18真砂地区地域運営委員会で市民の方に見やすいホームページの運用について検討を行った。12/15美浜区1層協議体へ参加し、圏域の地域課題について説明した。デジタルを使わない高齢者への情報伝達の方法について質問があり、商業施設や金融機関への配架など情報提供を行った。②支援困難事例を担当する介護支援専門員からの相談を受け、同行訪問、ケース会議の開催など支援を行った（利用者名延べ回）。③12/13に美浜区主任ケアマネ連絡会で「多職種・多機関協働」をテーマに介護支援専門員対象の研修会を行い、51名の参加があった。9割の参加者から好意的な評価を頂いた。事例検討の他、美浜障害者基幹相談支援センター、2層生活支援コーディネーターによる講演を行った。④地域ケア会議については11/8地域課題の検討をテーマに開催、11/25千葉市の自立促進ケア会議へ参加した。12/23に圏域の多職種連携会議として民間相談支援事業所4センターで意見交換会を実施した。様々な生活課題に対応する社会資源の見える化、生活支援コーディネーターの活用、支援者のレベルアップや心の不安・負担軽減のための研修が必要との提言をまとめた。3/15に美浜区多職種連携会議を「みんなで考える高齢者虐待」をテーマに開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	新しい住民活動への参加、活動支援により地域住民や関係機関と地域のネットワーク構築に取り組むことができた。また支援困難ケースを抱えるケアマネジャーへの同行訪問、後任ケアマネジャーの手配などの後方支援や圏域のケアマネ連絡会及び美浜区主任ケアマネ連絡会でケアマネ向けの研修会を開催しケアマネジャーへのニーズ把握、資質向上、ケアマネジメントのサポートができた為、B評価とした。
	次年度に向けた展望	①高齢者の適切な支援のため、地域の関係機関や団体とのネットワークの構築・連携を図り、支援の環境整備を行う。 ②介護支援専門員に対し、支援困難事例への助言、指導を行う。 ③介護支援専門員のニーズ把握、資質の向上に取り組む。 ④居宅介護支援事業者が主体となる美浜区主任ケアマネ連絡会立上げ準備。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	①-1美浜区あんしん運営会議で生活支援コーディネーター、コミュニティソーシャルワーカーと地域の課題の共有を行った。①-2事業所ホームページ及びハローワークへの求人掲載を行った。2件問い合わせもあるも採用には至らず。②-1総合相談において、2件基本チェックリスト実施し、将来のリスクと介護予防の観点で支援を行った。②-2認知症サポーター養成講座を千葉興業銀行（WEB）42名、高浜海浜小（対面）56名を対象として実施した。千葉市の認知症地域支援推進員活動として、8/17美浜区（7名参加）、9/20稲毛区（6名参加）で認知症サポーターステップアップ講座を開催した。6/15東建マンションで血管年齢測定「血管を丈夫にしましょう」（17名参加）を開催した。②-3あんしんケアセンター真砂通信を発行し、7/29、7/30にUR真砂第1・第2団地ラジオ体操で配布した他、センターでの配架及び真砂地区地域運営委員会ホームページに掲載を行った。③各団体の活動状況を調査、前期に3つの団体（体操会2団体、折り紙の会1団体）が新型コロナウイルス感染症の影響により解散となったが、新たに2つの体操会の立ち上げ、活動支援を行った。後期に1つの体操会立ち上げを把握した。		
後期	具体的な取り組み状況	①-1千葉市低栄養事業に取り組み、対象者10名に対し現状を確認、千葉市の介護予防事業の情報提供を行う。市の事業へ繋がった方は0名であるが、セルフケアの重要性について理解を得ることができた。①-2 2層SC1名を令和5年4月の配置で採用が決定した。②-1真砂いきいきセンターで行った教養講座12/15-12/20（5日間）で昨年度配布したいいきき活動手帳の活用状況を聞き取る。「記載内容を参考にした。」声がある一方で、活動記録としての活用は無し。今年度初めて参加した方からは手帳の説明を聞き「手帳が欲しい」との希望があり16部配布した。②-2 11/30花見川区（4名参加）で認知症サポーターステップアップ講座を開催した。1/26幕張総合高校で認知症サポーター養成講座を実施した（36名参加）。③10/20新しく始まった5丁目UR団地でのラジオ体操（参加者22名）の活動支援を開始した。10/28UR真砂第2団地で「介護保険講座」を開催した（13名参加）。12/15-12/20 真砂いきいきセンターで「介護保険講座」を開催した（44名参加）。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	地域ケア会議、活動支援を通じ地域住民及び生活支援コーディネーターと地域課題について意見交換を行った。認知症サポーター養成講座を小学生から高校生、企業など幅広い世代に対し行い、認知症ケアの推進に取組めた。また、昨年度に配布した「いきいき活動手帳」の活用について配布先で評価を行い、かつ新規に手帳を配布するなど継続した介護予防の取り組みが行えた為、B評価とした。
	次年度に向けた展望	①高齢者に対する保健事業と介護予防の一体的な実施の為、保健福祉センター等との連携を強化する。 ②元気なうちから自分自身で健康づくりや介護予防に取組めるように、介護予防に関するセルフケアの基礎知識・活動を周知する。 ③住民主体の取り組みが自主的に実施されるよう、2層生活支援コーディネーターと連携し、活動団体に対し支援を行う。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター磯辺		
担当圏域 地区概況及び 地区課題		【高浜・磯辺】一部を除き、低層マンションや戸建地区。ほぼ全域が住居専用地域のため、商店も少ない。戸建地区では高齢化が高く、町丁によっては50%近くになる。マンション地区では、エレベータがない低層マンションが多く、外出や地域活動などでも困難を生じることが多い。 【打瀬】オートロックの高層マンション群。ボランティアやサークルなどの社会参加の意識は比較的高いが、気軽な声かけや見守りがしにくい、孤立化しやすい。 【幕張西・浜田】地域住民が共有して使用できる場所が公民館のみ。そのため地域全体で連携をとりながら活動できる場所がなく、地域全体の結びつきが希薄である。自治会単位での活動になりがちで、活動の差が大きい。これは介護予防などにも大きな影響があるのではないかと推測する。 【共通の特徴】圏域全体が埋立地で、地縁が薄い		
活動方針 (総合)		・各地区の特性やニーズに合わせた地域包括ケアシステムの維持、さらなる構築へ向けて、保健福祉センター、医療機関、介護サービス事業者、民生委員、自治会、社会福祉協議会や民間事業者との連携を深め共同して取り組む。 ・地域で、住民が主体的に介護予防となる活動に取り組めるように、関係機関と連携を図る。		
1 活動方針（総合）に対する全体の総括				
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	自費サービスや民生委員による見守り活動などとの連携を通じて、地域住民の支援ができた。一方、普及啓発の活動が、一部の地域、住民に偏らないような工夫が必要である。
	次年度に向けた展望	コロナの影響により縮小している地域活動や高齢者の閉じこもりといった課題に対し、介入を進める。インフォーマルサービスとの連携を強化し、介護保険制度のみに頼らず健康を維持できる生活環境を創造する。		
2 第1号介護予防支援事業				
前期	具体的な取り組み状況	インフォーマルサービスの活用に関しては、生活支援については活用が進められたが通いの場については、コロナの影響もあり、進まなかった。総合相談件数が昨年度上半期の約500件に比べ、今年度は同期間で1255件と増加し、第1号予防支援事業に十分時間を割くことができなかった。		
後期	具体的な取り組み状況	高浜、打瀬において、助け合い活動について、住民の話し合いに参加して、支援を行った。インフォーマルサービス（民間サービスや家族など）を活用した支援を行うことができた。ケアマネジャーが不足している中、可能な限り、職員が直接担当することで早く必要なケアにつなげるようにした。		
年度 総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	適切なケアマネジメントができているか、センター内で定期的にチェックをおこなった。介護予防ケアマネジメントについては、自立支援の視点で検討するが、地域活動の活用という点では、十分な検証ができなかった。
	次年度に向けた展望	丁寧なアセスメントを行い、適切なサービスにつなげる。一般介護予防と並行しながら、利用者の介護予防に活用できそうな資源をプランに取り入れる。地域資源（コミュニティサロン、自治会活動など）の活用を提案する。圏域内での自立支援に資する地域ケア会議開催を検討する。		

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	新規ケースについては、毎日の事業所内（出張所含む）ミーティングで全員で確認をしている。 複雑なケースについては、センター内ペア、行政機関、社会福祉協議会、障害者基幹相談支援センターなど同行訪問を行ったり、意見交換をしながら多視点で進めている。		
後期	具体的な取り組み状況	包括3職種が連携し、違う視点で対応できるように心がけた。複雑な課題を抱えるケースについては、センター内でのミーティングによる確認とともに、他機関（医療機関、生活自立仕事相談センター等）と密な連絡や同行をしながら支援にあたった。終結については、高齢障害支援課と協議しながら行っている。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	対象者を適切な機関につないだ後も、モニタリングを行い確認をしている。 必要に応じ、センター内で、あるいは多機関と協働しながら支援にあたった。複雑な課題については、家族間の問題を丁寧に解きほぐしながら解決できたケースもあった。
	次年度に向けた展望	センター内の情報共有と複数でのアセスメントを継続。 複雑な課題については、地域ケア会議を活用して、支援方針を検討していく。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	虐待（疑い含む）のケースは迅速に連携できている。 不信な電話や警察を語った訪問なども報告があり、個別に確認の訪問などは行ったが、住民全体に向けた啓発活動はできていない。しかし、迷惑電話防止機器を設置した際の補助金などを勧めたり、ヤングケアラーのケースを通して家族システムの支援もできた。区内あんしんケアセンターで社会福祉士連絡会を2回開催し、権利擁護の内容をふくめたケーススタディを行った。		
後期	具体的な取り組み状況	軽度認知症の高齢者への金融商品トラブルの解決について支援した。金融機関と交渉し、支払った金銭を取り戻すことができた。家族へ、金銭管理方法の提案や成年後見制度の提案など行った。 虐待について、モニタリングを行いながら、高齢障害支援課とも情報共有した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	情報提供だけでなく、高齢者とともに、一緒に財産や権利をまもるための支援ができた。 高齢者の権利擁護のための課題に、予防的な取り組みが未達成であった。
	次年度に向けた展望	介護保険に付随する相談はもとより、金銭管理や生活困窮など制度のはざまに悩む高齢者への相談支援にアウトリーチを積極的に実施することで、高齢者の孤独・孤立に対する支援をおこない、権利を守れるようにする。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	困難事例など、多機関（行政機関、訪問看護事業所、社協、障害者基幹相談支援センター、後見支援センターなど）と地域ケア会議を開催できた。圏域のネットワーク構築の多職種連携会議を「ハラスメントか困難事例」かというテーマで開催し、医療保健福祉関係者約50名が参加した。 自立促進ケア会議を2回行い、うち1回は事例提供をした。 事業所訪問も行い、ケアマネジャーの声を拾うことができた。 ケアマネジャー向けにインフォーマルサービスを提供している代表を招いて研修会を開催し25名のケアマネジャーが参加した。		
後期	具体的な取り組み状況	居宅介護支援事業所のケアマネ向けには、普段からケアマネジメントにおける相談対応を行った。12月に美浜区圏域内で、ケアマネ対象の研修会「多職種連携・多機関協働について」を開催。1月に磯辺圏域での地域ケア会議「美浜区連携の会」を開催した。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	運営法人が変わり、新しく配置された職員もあり、効率よく進められなかったものの、ケアマネ向けの研修や他職種連携会議など積極的に企画、実施することができた。
	次年度に向けた展望	より良い事例検討の方法を模索する。美浜区主任ケアマネネットワークを強化、協同し、地域のケアマネへ研修会を企画してケアマネのスキルアップにつなげる。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	熱中症やコロナなどの普及啓発はサロンなどを活用しながら、実施できた。 フレイルや個別相談の対応については、フォーマルサービルで対応することが多かった。 サロン、認知症カフェ、孤食対策など実施できる場所はあったが、場所が使えないなどの理由で実施できない地域もあった。 支え合い活動を開始する自治会に対し、立ち上げ支援をおこなった 磯辺第3小で認知症キッズサポーター講座を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	サロンや百歳体操、見守り活動をおこなっている地域に出向き、各団体の課題の把握をした。 生活支援コーディネーターと連携し、体力測定会を実施した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	通いの場の支援にあたり、活動場所の確保や担当者の高齢化などの負担が地域課題としてあがっているが、対応策に苦心している。活動が停滞しているところへの支援の着手が十分でない。
	次年度に向けた展望	生活支援コーディネーターとともに、民間企業、ボランティアなどとの連携を図る。 要支援者に地域資源の情報提供を行い、インフォーマルサービスを含め利用者が自ら選択できるようにしていく。 美浜区自立促進ケア会議を活用して、地域課題を具体的にしていく。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター高洲			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		1. 独居率が高く高齢者世帯も多い。家族等のキーパーソンが不在であったり、遠距離に在住していることで認知機能をはじめとする身体・精神症状の変化の発見が遅れ、生活や医療等に対する対応が困難となる事案が増えている。 2. 集合住宅で占められている地域で他市、他県から移住してくる方が多く地域の資源が分からない、コミュニティをうまく活用出来ない等により「引きこもり」になっている方が多い。 3. サービス事業者、高齢者施設が少ないことで適切なサービスに結びつけていくことが遅くなる傾向がみられる。 4. 圏域内のスーパーが2店舗閉鎖したことで、買い物に不自由する住民が増えてくることが予測される。相談や介護申請希望が増えている中、生活支援コーディネーターを中心とした関係機関と連携を図り、社会資源の発掘や情報整理に努めていく必要がある。 5. コロナ禍において通いの場が随時閉鎖している中、心身ともに予防活動が損なわれ、状態悪化における相談が増えている。			
活動方針 (総合)		・感染予防が必要とされる中、総合相談の支援、関係機関との連携、介護予防等安全かつ有効に実施する。 ・生活支援コーディネーターとの連携を図り、地域資源の調査に努め、情報を住民に提供する事で介護予防の促進に努める。 ・事務所の来苑者の増加や建物内外での掲示板が有効活用されていることから、引き続き地域の中核機関として積極的な普及啓発に努める。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・感染のリスクを見極め、緊急性を図りながら相談対応を行い効率化を図った。 ・生活支援コーディネーターと随時情報共有を行い地域の資源を理解することは出来たが、実際に活動の場に顔を出す機会が少なかったことは反省すべき点であった。 ・各種機関との連携、掲示板利用における普及啓発により来所、相談者が増加した。	
	次年度に向けた展望	・相談件数が多い中で住民に迷惑や不安を与えない環境作りに努める。その為に、長期支援ケースとなっている相談への積極的なアプローチをかけると同時に、緊急性や優先順位の判断をしっかりと行う。 ・介護予防事業にかけ時間が削られている中、生活支援コーディネーターと通いの場等に足を運ぶ。 ・関係機関との連携、感染予防のリスクを避けた上で人の集まる場所への参加により普及啓発を行う。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・自立促進ケア会議の出席により圏域の特性を学ぶことが出来た。 ・各居宅介護支援事業所、サービス事業者の選定は公正中立を図り行った。 ・生活支援コーディネーターとの連携により社会資源をケアプランに多く反映させた。 ・コロナの影響により福祉用具、住宅改修の相談が多く、住宅環境についての相談を全職員が積極的に行った。			
後期	具体的な取り組み状況	・要支援認定者からの通所系の介護保険サービス希望が多かったが、ケアマネジャーの選定が困難となっており、インフォーマルサービスである地域の活動場所に関する情報を多く提供。 ・サービス事業者における公正中立調査により、偏りのないサービスを提供することを全職員が意識した。 ・第1層の協議体への参加、第2層の協議体の企画により関係機関と地域資源を共有出来た。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・ケアプランに社会資源を取り入れるケースが増え、地域のケアマネジャーにも情報提供を送った。 ・サービスにより事業者が偏った面がみられたが、大方公正中立を保つことが出来た。 ・ケアマネジャーの選定、サービスの開始利用が遅くなったことで苦情が数件発生した。	
	次年度に向けた展望	・ケアマネジャーの選定に時間がかかることが予測される中、自助努力の促進、また社会資源の活用を進めていく。その為に生活支援コーディネーターと連携し地域資源の理解に努めていく。 ・自立促進ケア会議の事例提供、参加により質の向上を高めていく。 ・社会資源の発掘によりサポートブックの更新を随時行っていく。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・各地域の民生委員会に2年ぶりに出席し普及啓発を行ったことで相談件数が増えた。 ・コロナ、猛暑により安否確認の訪問を多く実施した。 ・若年性認知症のケースが増加し、若年性認知症支援コーディネーター、生活支援コーディネーター、関係機関と連携を図り対応した。 ・長期支援ケースに積極的にアプローチをし終結させた。		
後期	具体的な取り組み状況	・安否確認が必要な方が多い中、他機関と連携し頻繁に訪問を行った。 ・相談件数が多い中、随時職員間で役割や方針を決める話し合いを行った。 ・医療機関からの相談が増えており、日常的に連携が図られた。 ・保護等の緊急対応する方が多い中、高齢障害支援課をはじめ関係機関と連携を図り解決に努めた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・訪問が多くセンター内が手薄になることも多い中、全職員が連携を図り申し送りをしっかり行い住民に迷惑をかけないように対応した。 ・随時センター内での話し合いを行うことで全職員がケースを理解し、役割を決め柔軟な対応を行うことが出来た。
	次年度に向けた展望	・他住所地から移住してくる住民が増えていることから、地域課題としてケア会議を実施し対策を練っていく。 ・各関係機関ごとに受けた相談を記録に残していく事でセンター内での連携、今後の手法に役立てる。 ・相談終結票は引き続き作成していくと同時に、長期支援ケースのケースに積極的なアプローチをかけていく。 ・ケアマネジャーの選定が遅れている中、現状説明を行い理解していただいた上で代替えのサービスを提案していく。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・虐待ケースや疑いのケースにおいて事実確認の為の訪問、解決に向けた話し合いの場を高齢障害支援課と連携を図り実施した。 ・警察からの問い合わせ（虐待・事故・身元確認等）が増えているが、早急な対応ができた。 ・警察からメールで届く消費者被害情報を常にセンター建物内に掲示することで注意喚起を図った。		
後期	具体的な取り組み状況	・医療行為を拒否したり、環境悪化によりセルフネグレクト者が多い中、随時安否確認を行いながら、高齢障害支援課と連携を図り対応に努めた。 ・後見制度が必要と思われる方が多いが、理解不足や拒否が見られている中、関係機関からの説明、話し合いの中でつなげる機会が増えた。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・後見人が必要とされる方が増えているも制度への理解に時間がかかる中、専門職の方の説明に同席し安心感を与えスムーズに制度が使用されるよう配慮を行った。 ・セルフネグレクトのケースが多く、施設入所、入院対応に向け関係機関と連携し解決に導いた。
	次年度に向けた展望	・身元保証人不在者についての課題を、地域ケア会議として取り上げ、成年後見支援センターの連携に努め、後見制度の普及啓発活動を行っていく。 ・継続している虐待ケースにおいては区高齢障害支援課と連携を図り、解決の方向性を見つけていくと同時に役割の分担を明確にしていく。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・介護支援専門員の相談から個別の地域ケア会議を開催し、今後の方向性を決め解決に努めた。 ・介護支援専門員からの相談は記録に残すことで、センター職員全員が理解に努め柔軟な対応を行った ・利用者から介護支援専門員の交代希望が増えている中、事実確認を行いフォローや交代における支援を行った。 ・圏域内の多職種連携会議は医療従事者とケアマネジャーとの顔合わせを行う場として有意義な場となった。		
後期	具体的な取り組み状況	・区あんしんケアセンター合同の研修会が行われたものの、企画、運営等に携われず事務作業に専念した。 ・地域の特色が似ている他のあんしんケアセンターとの合同ケアマネ研修会を実施した。 ・ケアマネジャーからの困難ケースの相談には複合的な問題がみられており（虐待、後見制度、家族の問題等）行政を含めた関係機関と役割を決め、指導も含め解決に努めた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・個別的なケアマネジャーの支援は行っていたものの、区全体で行う研修会には思うような参加が出来ず、他のセンターに迷惑をかけてしまった。 ・地域ケア会議は開催したものの計画性がなかったことで余裕をもって出来なかった。 ・地域の社会資源冊子は効率的な発行を行うことで多くの住民に配布が出来た。
	次年度に向けた展望	・随時各居宅介護支援事業所への連絡、訪問、来所時にコミュニケーションを図ることで相談等あるかを確認、またケアプランの依頼が難しくなっている中、空き状況を確認した上で丁寧な引き継ぎを実施していく。 ・地域のケアマネジャーの要望に応じた研修会を開催、また各地域ケア会議の参加を促し質の向上を図っていく。 ・区が多職種連携会議の代表として企画、運営を計画的に行っていく。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・高洲地域のUR相談員、各関係機関と話し合いの場をもうけ、今後の地域の予防事業について検討した。 ・生活支援コーディネーターの集めた通いの場の情報をもとに相談対応を行った。 ・地域の高齢者住宅にて介護保険、介護予防の講座を行った。 ・複数の地域でラジオ体操に参加し、フレイルおよび介護予防の普及啓発に努めた。 ・認知症キッズサポーター養成講座を3校の小学校へ実施し、認知症についての周知理解に努めた。		
後期	具体的な取り組み状況	・高洲第2団地の文化祭に2日間参加し、あんしんケアセンターの周知とフレイル及び介護予防の普及啓発を行った。 ・複数の場所でのラジオ体操への参加により相談につながったケースがあった。また参加者からラジオ体操以外の運動サークルの情報収集を行いその情報を共有をした。 ・総合相談において予防の相談も増えている中、生活支援コーディネーターにつなぐケースを増やした。 ・来年度の地域の予防活動についてUR職員と話し合いの場をもうけた。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・コロナの影響、総合相談の対応に追われ、介護予防への取り組みが減少しており、生活支援コーディネーターに業務の負担を与えてしまった。 ・コロナ禍で介護予防活動が長期に休止されているため、URとの話し合いの場を設け来年度の計画をたてた。
	次年度に向けた展望	・総合相談業務の比重が多くなり、介護予防業務が以前に比べ減少している。生活支援コーディネーターの業務を理解し、地域の通いの場や社会資源の把握に努める。 ・新規サロンについて立ち上げ支援と、ボランティアの育成に努めていく。 ・UR職員と共同で介護保険講義（7月）、福祉用具展示会（9月）を2つの地域で行っていく。		

令和4年度千葉市あんしんケアセンター運営事業計画・実績報告シート（年度末提出）

センター名		千葉市あんしんケアセンター幸町			
担当圏域 地区概況及び 地区課題		・独居、高齢世帯の孤立化、経済的困窮、精神疾患、家族問題、権利擁護が絡む複合的な問題がある。 ・地域による見守り機能や地域活動に差があり、問題が潜在化しやすい。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、地域活動や社会生活での制限も影響し、生活不活発な状態が常態化し、地域や家族との関係が希薄になっている。			
活動方針 (総合)		・新型コロナウイルス感染症対策を図るとともに、独居及び高齢世帯の見守り体制を構築する。 ・新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、潜在化し且つ深刻化しつつある引きこもり等の問題の早期発見、早期介入につなげる。 ・小さな声に寄り添いながら、ネットワークのより一層の強化を図り、更なる地域力の向上を支援する。 ・コミュニティの少ない地域の実情を把握し、相談支援体制の充実を図る。			
1 活動方針（総合）に対する全体の総括					
年度 総括	自己評価	B	自己評価を 選択した理由	・顕在化した複合的な課題に対して、コロナ禍も影響し活動を活発に行うことが出来なかった。 ・コロナ禍による活動自粛の影響もあったが、地域との絆を深める活動が行えた。 ・各専門機関や専門職との連携により、複合的な課題に取り組むことが出来た。	
	次年度に向けた展望	・新型コロナウイルス感染症拡大による影響で、潜在化し且つ深刻化しつつある引きこもり等の問題の早期発見、早期介入につなげる。 ・小さな声に寄り添いながら、ネットワークのより一層の強化を図り、更なる地域力の向上を支援する。 ・コミュニティの少ない地域の実情を把握し、相談支援体制の充実を図る。 ・生活支援コーディネーターと連携し、地域で不足している社会資源の創出に取り組む。			
2 第1号介護予防支援事業					
前期	具体的な取り組み状況	・休止していたあんしん主催の体操教室(月1回)を再開し、千葉市いきいき体操を実施した。 ・委託先の介護予防プランの確認を行い、適正な運用について助言・指導した。 ・あんしんケアセンター法人変更に伴い、ケアマネジメントCプランの作成を行い、地域支え合い支援事業と連携し支援した。			
後期	具体的な取り組み状況	・委託先の介護予防プランの確認を行い、適正な運用について助言した。 ・委託先の居宅介護支援事業所が少なく予防プランの運用が厳しい状況になっている。利用者支援が滞りがちでセルフケアプランでの対応が多くなった。 ・介護予防プランにインフォーマルサービスを位置づけた。 ・今年度のCプラン件数は10件(前センターからの引継ぎ分も含む)。			
年度 総括	自己評価	C	自己評価を 選択した理由	・介護予防プランの適正な運用ができた。 ・委託先のケアマネとの介護予防ケアプラン確認を通して、ケアプラン内容へのアドバイスや、顔の見える関係づくりに取り組むことが出来た。 ・委託先ケアマネだけでなく、センター内での介護予防ケアマネジメントの適正な運用についての意識づけの浸透・定着に取り組むと同時に課題も残った。	
	次年度に向けた展望	・対象者のセルフケアマネジメントの意識を高められるよう介護予防ケアマネジメントを行い、併せてインフォーマルな社会資源の活用によりケアマネジメントに生かしていく。 ・地域のケアマネ事業所との関わりを通して、相談しやすい環境や信頼関係づくりを深めていく。			

3 総合相談支援				
前期	具体的な取り組み状況	・各相談に対し、必要な情報提供や支援を行った。特に精神疾患で複合的な問題を抱えるケースに関しては民生委員、地域住民、医療機関、こころの健康センター、UR、障害者基幹相談支援センター、生活自立仕事相談センター、行政と連携を図りながら対応を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	・適切な相談支援ができるように、関係機関とのネットワーク強化に取り組んだ。 ・支援が円滑に行えるように、個別ケース会議を開催し課題の整理、早期解決に取り組んだ。 ・障害者基幹相談支援センターや生活自立仕事相談センターと連携し、複合的な支援に取り組んだ。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	関係機関とのネットワーク強化に取り組んだが、複合的な課題を要するケースに隊して、医療連携など今後の課題が残った。 生活自立仕事相談センター、障害者基幹相談支援センターと連携し、複合的な問題を抱える高齢者及びその家族の支援に取り組むことができた。
	次年度に向けた展望	①自治会、社会福祉協議会、民生児童委員やUR等地域の関係機関と連携し支援を行う。 ②生活自立仕事相談センター、障害者基幹相談支援センターと連携し、複合的な問題を抱える高齢者の支援を行う。 ③生活支援コーディネーターと協同しながら支援体制を整える。 ④包括 3 職種が専門的見地からの確かな状況把握を行い適切な支援を行う。		
4 権利擁護				
前期	具体的な取り組み状況	・6月15日、9月14日に美浜区高齢障害支援課、美浜区あんしん4センター合同で社会福祉士会議を開催。社会資源等情報の交換を図り、事例に関しての意見交換を行った。 ・総合相談の中で、権利擁護を含む複合的な問題があるケースの対応を行った。		
後期	具体的な取り組み状況	【美浜区あんしん 4 センター合同の取り組み】 ・令和4年12月14日：定例会義時、高齢者の住宅事情及び事例に関してサブリース事業を行っている不動産業者による講義を受けた。 ・令和5年1月17日：次年度の社会福祉士専門職会議の開催頻度、活動計画と方針を検討した。 【総合相談】 ・虐待やエンディングサポートの相談が増加傾向にあり、関係機関と連携を図りながら対応を行った。		
年度総括	自己評価	B	自己評価を選択した理由	・成年後見制度が必要なケースや虐待（疑いも含む）ケースに対し、関係機関と連携を図りながら問題解決に向けた取り組みを迅速に行うことが出来た。 ・ケース対応に追われ、高齢者虐待や成年後見制度、消費者被害に関する周知活動や啓発活動が不十分だった。
	次年度に向けた展望	①関係機関と連携を図り、虐待が疑われるケースについては、ケース会議を通して関係者と情報共有を図り必要な支援を行う。 ②被害の未然防止や早期発見、早期対応に繋げるため、高齢者虐待や成年後見制度、消費者被害に関する周知活動及び啓発活動を行う。 ③美浜区内あんしんケアセンターと合同で居宅介護支援事業所等専門職向けに「権利擁護」についての研修会を開催する。 ④エンディングサポートに関する啓発活動を行う。		

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援				
前期	具体的な取り組み状況	・介護支援専門員支援との同行訪問・サービス調整実施（サービス拒否、介護支援専門員交代、虐待対応など） ・主任介護支援専門員会議出席（毎月）。美浜区介護支援専門員研修会開催に向けての検討実施。 ・介護支援専門員への地域資源に関する情報提供 ・認知症初期集中支援チーム会議への出席（毎月・ZOOM） ・幸町圏域多職種連携会議開催（9月・ZOOM）。地域課題の共有と連携について検討。		
後期	具体的な取り組み状況	①11/16参集にて幸町圏域ケアマネ事例検討会を開催した。②12/13ハイブリッド方式にて美浜区ケアマネ研修会を開催した。③特技を持つ地域高齢者を生活支援コーディネーターに1名紹介した。④認知症初期集中支援チーム会議へ毎月出席し、対象者のうち1名を介護保険サービスおよび居宅ケアマネに引継いだ。⑤2/20参集にてあんしん高洲と合同で圏域ケアマネ研修会を開催した。⑥3/15ハイブリッド方式にて美浜区多職種連携会議を開催。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	コロナ禍とセンター委託法人変更の影響もあり前期と後期との活動の差が大きい1年だった。活動自粛や準備不足だった面が研修会開催に影響した。ZOOM・参集の違いはあるが連絡会、研修、多職種連携会議などケアマネや専門職同士が会する機会を通じて、高齢者のみならずケアマネ・専門職の孤独・孤立傾向を確認できたので今後の支援方法に反映する事が必要と考える。
	次年度に向けた展望	ケアマネジャーや専門職同士の交流機会を増やす事で孤独・孤立しないように支援する。具体的方策として①圏域（区内）の主任ケアマネに参加を募り、美浜区版主任ケアマネ連絡会（研修企画への参画を含む）を定期（隔月）開催しさらなるネットワーク構築を推進する。②美浜区ケアマネ研修会（7月（区内あんしんの社福会と成年後見制度に関する合同研修）、9月（新任者や経験の少ない専門職向けのケアプラン研修）、11月（内容は未定））を開催。合わせて質の担保を図る。③多職種連携会議（圏域版は時期未定、区版は来年2月頃の予定）を開催し、専門職・関係機関との交流を通じて医療・介護連携を推進する。④相談の有無に関わらずセンターへケアマネに来てもらい（任意招待）、定期的な交流により信頼関係や連携の強化を図る。		
6 一般介護予防事業				
前期	具体的な取り組み状況	・コロナ禍で自粛生活が続く認知症や身体機能低下によるフレイルの増加がみられ転倒、認知症などの相談が増えた。 ・今後の健康教室に活かすため、食事セミナー『みはま元気塾』3日コースに参加者として参加(保健師)。 ・生活支援コーディネーターと連携し地域で楽しめるポッチャ教室の立ち上げ支援を行った。 ・1丁目健康プラザにて介護予防講座「脱水予防」の講座を開催、有線テレビ放送局が地域の情報配信した。 ・圏域の小学校（2校）で認知症キッズサポーター養成講座を実施し、地域住民やUR職員と協力し地域を巻き込んで認知症の普及啓発を図ることができた。		
後期	具体的な取り組み状況	・月1回実施していたあんしん主催の体操教室を月2回に増やし介護予防に取り組んだ。 ・生活支援コーディネーターと連携し地域通いの場やカフェ立ち上げの情報交換を行った。 ・シニアリーダー体操でいきいき健康手帳を配布した。 ・他のあんしんケアセンターが主催の『骨密度測定・健康相談会』を視察した。		
年度総括	自己評価	C	自己評価を選択した理由	・コロナで停滞していた活動を再開し、介護予防への取り組みができた。 ・健康教室開設を通して、通いの場・集いの場が地域に出来た。健康教室を通し、介護予防活動も定着しつつある。
	次年度に向けた展望	・健康教室「ゆるり」の実施拡大や、内容の充実を図るとともに、関係機関と連携しながら住民主体の通いの場の開設、再開に取り組む。 ・健康教室等の参加者が固定メンバーになってきており、今後は新規参加者の開拓、参加者数の拡大と教室内容の検討が課題。		